糧食品購買費
軍馬飼料裝品費
供奉
臺灣匪徒鎮定費
海軍定期職工滿期賜金
海軍遭難服裝手當
海軍傳染病消毒諸費
海軍徒託患者費
海軍志願兵家族扶助金
司法行政裁判及陸軍刑事臨檢旅費
執達吏補助費
逃犯密告者給與
裁判及登記諸費
囚徒及在監人諸費
萬國理學文書編纂目錄出版費
萬國測地學協會費
中央氣象臺委託電報料
萬國度量衡會費分擔金
特許局審判及審査臨檢旅費
國有林被害諸費
萬國郵便電信聯約費
遞信事業用證票類製造費
爲替貯金受拂費
船舶檢査審判臨檢旅費
海員審判費
難破船
航海及造船奬勵費
日本鐵道株式會社利益補助
京釜鐵道株式會社補助
臺灣看守俸給及月手當
臺灣看守被服及帶具費
臺灣醫院患者費
臺灣通信切手類製造及買戻費
臺灣通信事務助力者報酬金
臺灣通信料金不納徵收費
臺灣專賣局材料素品購買費
臺灣風族買收費
臺灣獸疫豫防費

官報遞送費
煙草運搬及保管費
煙草數量及等級鑑定諸費
煙草賠償及購買費

○

朕遞信省外國留學生規程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年四月十八日

遞信大臣大浦兼武

勅令第百五十一號（官報四月十九日）

遞信省外國留學生規程中左ノ通改正ス

第一條中「海事」ノ下ニ「鐵道」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第百三十四號遞信省外國留學生規程（明治三十年四月三十日官報）抄錄

第一條　遞信省外國留學生ハ遞信大臣ノ選拔ニ依リ海事又ハ通信事務ニ關シ殊ニ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲メ外國ニ派遣スルモノトス

○

朕明治三十四年勅令第百三十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年四月十九日

内務大臣子爵芳川顯正

勅令第百五十二號（官報　四月二十日）

明治三十四年勅令第百三十九號中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵滝川雄三
大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條　獸疫豫防法第十六條及畜牛結核病豫防法第十六條ニ依リ獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一　左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一　專ラ獸疫豫防ノ爲臨時傭入タル獸醫ノ給料及旅費

二　專ラ畜牛結核病ノ檢査ニ從事スル檢査員ノ俸給及給料

三　獸疫檢疫委員及畜牛結核病檢査員ノ旅費

四　評價人ノ手當及旅費

五　獸類撲殺及物品棄却手當

六　「リベルクリン」ノ製造費及配送費

七　獸疫豫防ニ要スル藥品費

八　結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體及其ノ部分ヲ置キタル場所竝檢査確定ニ至ル迄ノ間ニ於テ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル場所及物品ノ消毒ニ要スル藥品費

第二　左ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一　第一ノ一及二ニ屬スルモノヲ除クノ外獸疫檢疫委員及畜牛結核病檢査員ノ手當竝市町村吏員タル獸疫檢疫委員ノ旅費

二　獸疫ノ發生又ハ流行ナキ地方ニ在リテ獸類獸疫ニ罹リタルコトノ疑アル場合ニ於テ檢診ノ結果獸疫ニ非サリシトキノ獸醫ノ手當、旅費及消毒ニ要スル藥品費

三　撲殺場、燒棄場、埋却場及畜牛結核病檢査場ノ設備費

四　畜牛結核病豫防ニ要スル傭人料

五　器具機械費

六　通信運搬費及雜給雜費

七　他ノ負擔ニ屬セサル費用

第三　左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

一　獸疫豫防ノ爲要スル傭人料

二　獸疫豫防ノ爲要スル標示費

第四　左ノ費用ハ畜牛ノ所有者又ハ管理者ノ負擔トス

一　獸類ノ斃付、鎖鋼、隔離、撲殺竝屍體及物品ノ棄却ニ要スル費用

二　檢疫、檢査、繫留、鎖鋼、隔離中ニ要スル飼料及管理ノ費用

三　第一ノ八ニ屬スルモノヲ除クノ外畜牛結核病ノ豫防上消毒ニ必要ナル藥品及其ノ他ノ費用

第五　左ノ費用ハ場屋又ハ物件ノ所有者又ハ管理者ノ負擔トス

一　屠獸場、汽車、船舶等及之ニ附屬スル物件病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ノ消毒ニ要スル藥品及其ノ他ノ費用

〔參照〕

勅令第百三十九號（明治三十四年六月二十八日官報）抄錄

第二條　獸疫豫防法第十六條及海牛結核病豫防法第十六條ニ依リ獸疫及海牛結核病豫防ニ關スル費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一　左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一　獸類撲殺及物品焼却手當

一　臨時獸醫傭入手當及旅費

一　市町村吏員ニ非サル檢疫委員及海牛結核病檢査員ノ旅費

一　附帯人手賃及旅費

一　消毒用藥品費

第二　左ノ費用ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス

一　器具器械費

一　被服費

一　通信及器具器械運搬費

一　家屋其ノ他借料

一　國費ノ負擔ニ屬スルモノヲ除クノ外檢疫委員ノ手當及旅費並海牛結核病檢査員ノ手當

一　海牛結核病豫防ノ為要スル備入料

一　雜費

第三　左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

一　獸疫豫防ノ為要スル傭人料

一　獸疫豫防ノ為要スル標示費

第四　左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス

一　獸類ノ埋葬鎖鎖採血及其ノ焼棄並物品ノ焼却ニ要スル費用

一　檢査器具ハ鎖鎖中ニ要スル飼料等ノ費用

○

朕國民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年四月二十日

陸軍大臣寺内正毅

勅令第百五十三號（官報　四月二十一日）

第一條　國民兵役ニ在リテ左ニ掲クル者ニ付其ノ服役ニ關シ陸軍大臣ハ補充兵ノ服役ニ準シ必要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一　第一國民兵役ニ在ル者

二　六週間陸軍現役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者

三　第二補充兵役ヲ終リ國民兵役ニ編入セラレタル者

四　所要ノ兵員ニ超過スル為國民兵役ニ編入セラレタル者

陸軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ國民兵役ニ在リテ前項ニ掲ケサル者ノ服役ニ關シ補充兵ノ服役ニ準シ必要ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二條　國民兵役ニ在ル者ノ召集ニハ召集令狀ヲ用ヰ陸軍召集條例中充員召集及補充召集ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得但シ臨時召集ニ在リテハ召集及其ノ解除ノ時期ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕陸軍職時給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年四月二十四日

陸軍大臣寺内正毅

勅令第百五十四號（官報　四月二十五日）

陸軍職時給與規則中左ノ通改正ス

第六條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ內地途中ニ在ル者ニ在リテハ其ノ增給ヲ半減スルコトヲ得

○

賣藥稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

大藏大臣男爵曾禰荒助

明治三十八年五月五日

勅令第百五十五號（官報　五月六日）

賣藥稅法施行規則

第一條　賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第二條　賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日

二　他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

三　買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先

四　貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條　賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先

二　他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日

第四條　收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作リ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ進反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條　賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條　前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第七條　賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

一　既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ

二　賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ

三　既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條　印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

一　既貼印紙　二十圓未滿二圓ニ付　新印紙　八十錢

二　既貼印紙　十二圓以上一圓ニ付　新印紙　八十五錢

第十條　所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條　藥品ヲ用ヰ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ賣藥スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　疾病ヲ豫防スルコト

二　治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ增進スルコト

三　皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四　疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條　前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條　收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條　本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附　則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕占領地民政署ノ職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

陸軍大臣　寺内正毅

勅令第百五十六號（官報　五月八日）

第一條　占領地民政署ニハ必要ニ應シ左ノ職員ヲ置ク

民政長官　勅任

事務官　奏任

警視　奏任

技師　奏任

通譯官　奏任

屬　判任

警部　判任

技手　判任

通譯生　判任

第二條　民政長官ノ官等ハ高等官一等又ハ二等トシ其ノ年俸ハ三千圓、三千五百圓又ハ四千圓トス

第三條　事務官及警視ノ官等及俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸第一號表ニ依ル諸官、通譯官ノ官等及俸給ハ陸軍通譯官ノ例ニ依ル

通譯生ノ俸給及等級ハ陸軍通譯生ノ例ニ依ル

第四條　占領地民政署ニ巡査ヲ置ク

○

朕專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百五十七號（官報　五月九日）

專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則

第一條　鹽專賣法第十九條第一項第二號ニ依リ特別定價ヲ以テ賣渡スコトヲ得ル鹽ハ左ノ用途ニ使用スルモノニ限ル

一　醤油釀造用但シ普通醤油ノ番醤油及自家用醤油釀造ニ使用スルモノヲ除ク

二　曹達、硫酸曹達、晒粉、石鹼製造用

三　肥料用

四　獸皮保存用

五　鑛業用

六　鮭、鱈、鰯、鯨、鰹、鰊、獸鹽藏用

第二條　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ輸出者、醤油釀造者又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル者ニ限ル

第三條　外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ數量、等級、輸出港及輸出先ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽務局ニ提出スヘシ

第四條　第一條第一號乃至第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ數量、等級、用途及使用場所ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽務局ニ提出スヘシ但シ醤油釀造ニ使用セムトスル場合ニ在リテハ普通醤油又ハ溜醤油釀造用ノ區別、第一條第六號ノ用途ニ使用セムトスル鹽ヲ以テ帝國外ニ於テ鹽藏セムトスル場合ニ在リテハ出漁船名及出港地名ヲモ記載スヘシ

第五條　醤油釀造又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ賣渡請求者ハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

前項ニ依リ提供スヘキ擔保物ハ金錢又ハ鹽務局長ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ鹽務局ニ提出スヘシ

第六條　特別定價ヲ以テ賣渡レタル鹽ニシテ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用セラルルモノニ付テハ鹽務局ハ其ノ用途ニ從ヒ買受人ノ費用ヲ以テ鹽ノ重量百ニ對シ左ノ割合以上左記物品ノ一ヲ混和シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

一　曹達又ハ硫酸曹達製造用

酸性硫酸曹達

石油	〇、三
發煙鹽酸	二、五
苛性曹達	二、五
純硫酸	二
二　晒粉製造用	
純硫酸	二
滿俺礦	一、五
三　石鹼製造用	
石油	〇、三
的列並油	〇、三
石鹼粉末	一、五
椰子油	五
無水炭酸曹達	五
四　肥料用	
煤	二
木炭粉末	二、五
五　獸皮保存用	
石油	〇、三
石鹼粉末	一、五

硫酸鐵	四
木炭粉末	二、五
酸化鐵	〇、三
煤	二
六　鑛業用	
木炭粉末	二、五
石油	〇、三
石炭粉末	二、五
褐炭粉末	二、五
煤	二

第七條　第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲變性ヲ施シタル鹽ヲ除クノ外特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ運搬シ又ハ貯藏スルトキハ其ノ他ノ鹽ト之ヲ區別スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ當該官吏ハ其ノ鹽ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第八條　特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ賣渡鹽務局ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スルノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第九條　特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ使用スルコトヲ許可スルトキハ鹽務局ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ特別定價ト一般定價トノ差額ヲ追徵ス

外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ヲ第一條ノ用途ニ使用スルコトヲ許可スルトキハ鹽務局ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ各特別定價ノ差額ヲ追徵ス

第十條　特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル輸出港、輸出先、使用場所、出漁船名又ハ出港地名ヲ變更セムトスルトキハ賣渡鹽務局ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第十一條　外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ外國ニ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ鹽ノ數量、輸出先、積載スヘキ船舶名及其ノ內國寄港地ヲ記載スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ稅關ハ鹽ノ數量ヲ檢定スヘシ

第十二條　第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ其ノ用途ニ使用セムトスルトキハ其ノ數量、使用ノ場所及日時ヲ定メ使用地所轄稅務署ニ使用ノ承認ヲ申請シ使用證明書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受ケタル者溜醬油ヲ釀造シタル場合ニ於テ所轄稅務署カ醬油ノ査定ヲ爲スニ當リ殘存スル味噌アルトキハ其ノ數量ヲ査定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣渡鹽務局ハ殘存味噌百斤ニ付金十一錢五厘ノ割合ノ金額ヲ溜醬油釀造者ヨリ追徵ス

第十三條　第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者漁獲物ヲ鹽藏シタルトキハ漁獲物ノ數量、漁獲及鹽藏ノ場所竝漁獲物ノ移出先ヲ記載シタル申請書ヲ鹽藏地所轄鹽務局ニ提出シ鹽藏物ノ檢査ヲ經テ鹽使用濟證明書ノ交付ヲ受クヘシ但シ帝國外ニ於テ鹽

藏シタルトキハ歸港ノ際其ノ申請書ヲ出港地所轄鹽務局ニ提出スヘシ

前項ニ依ル鹽藏物ノ檢査ハ鹽務局所在地又ハ鹽務局ノ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ

鹽務局ノ證明スル鹽使用濟數量ハ鹽藏物ノ數量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ計算ス

鮭	六十五
鰤	七十五
鱈	四十
鯨	四十
臘肉獸	五十

第十四條　外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ六箇月以內ニ左ノ書類ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

第十五條　第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ稅務署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ鹽全部ノ使用濟證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付稅務署ノ承認ヲ申請シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ承認ヲ受ケタル未使用鹽ニ關シ其ノ承認ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以內ニ鹽使用濟證明書ヲ提出スヘシ

第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ鹽務局ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ使用シタル鹽ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタルコトヲ認メタルトキハ賣渡鹽務局ハ其ノ不足額ニ對シ百斤ニ付金二圓三十錢ノ割合ノ金額ヲ賣渡請求者ヨリ追徵ス

第十六條　特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別定價ト一般定價トノ差額及其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徵ス

一　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ他ニ讓渡シタルトキ

二　許可ヲ受ケスシテ賣渡請求書ニ記載シタル用途ヲ變更シタルトキ

三　第十一條ノ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　第十四條又ハ第十五條ニ依リ提出スヘキ書類ヲ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ鹽務局ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徵スルコトヲ得但シ第十五條第二項ニ依リ承認ヲ受ケタル未使用鹽ハ其ノ不足額ニ算入セス

第十七條　第九條、第十二條、第十五條及前條ノ追徵金ニ關シテハ國稅徵收法及國稅徵收法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第十八條　第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ解除ス

以內ニ鹽務局ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ使用シタル鹽ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタルコトヲ認メタルトキハ賣渡鹽務局ハ其ノ不足額ニ對シ百斤ニ付金二圓三十錢ノ割合ノ金額ヲ賣渡請求者ヨリ追徵ス

第十六條　特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別定價ト一般定價トノ差額及其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徵ス

一　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ他ニ讓渡シタルトキ

二　許可ヲ受ケスシテ賣渡請求書ニ記載シタル用途ヲ變更シタルトキ

三　第十一條ノ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　第十四條又ハ第十五條ニ依リ提出スヘキ書類ヲ提出セサルトキ

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第一號若ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ鹽務局ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徵スルコトヲ得但シ第十五條第二項ニ依リ承認ヲ受ケタル未使用鹽ハ其ノ不足額ニ算入セス

第十七條　第九條、第十二條、第十五條及前條ノ追徵金ニ關シテハ國稅徵收法及國稅徵收法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第十八條　第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ解除ス

一　其ノ鹽ヲ以テ醸造シタル醤油全部ニ付査定ヲ受ケ殘存味噌ナキトキ又ハ殘存味噌ニ對スル追徴金ヲ納付シタルトキ

二　其ノ鹽ノ全部ヲ漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタルトキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徴金ヲ納付シタルトキ

第十九條　一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

一　外國ニ輸出シタルトキ

鹽	百斤ニ付金一圓四十八錢
鹽水漬鰊	百斤ニ付金七十四錢
鹽漬鰊	百斤ニ付金五十一錢
鹽水漬鯖	百斤ニ付金七十四錢

二　其ノ鹽ヲ以テ鹽藏シタル鰊又ハ鯖ヲ輸出シタルトキ

三　第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用シタルトキ

生引溜醤油醸造用以外ノ用途鹽	百斤ニ付金一圓三十錢
生引溜醤油醸造用	一石ニ付金七十三錢
生引溜	

四　第一條第六號ノ用途ニ使用シタルトキ

鹽鮭	百斤ニ付金八十四錢
鹽鱒	百斤ニ付金九十七錢
鹽鰤	百斤ニ付金五十二錢
鹽鯨	百斤ニ付金五十二錢
鹽漬胴肉獸	百斤ニ付金六十五錢

第二十條　前條第一號又ハ第二號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ輸出港稅關ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

第二十一條　第十九條第一號又ハ第二號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ鹽又ハ鹽藏魚類ノ數量、輸出先、積載スヘキ船舶名及其ノ內國寄港地ヲ記載スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ稅關ハ鹽又ハ鹽藏魚類ノ數量ヲ檢定スヘシ

第二十二條　第十九條第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ溜醤油醸造用以外ノ用途ニ使用スル場合ニ於テハ鹽使用證明書ヲ、溜醤油醸造ニ使用スル場合ニ於テハ鹽使用證明書及醤油査定證明書ヲ添附シ之ヲ使用地所轄鹽務局ニ提出スヘシ

第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ鹽變性證明書ヲ以テ前項ノ鹽使用證明書ニ代フルコトヲ得

第二十三條　前條ノ鹽使用證明書又ハ醤油査定證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用又ハ醤油査定ノ際申請書ヲ使用地所轄鹽務局又ハ稅務署ニ提出スヘシ

前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前申請書ヲ所轄鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ鹽務局ハ第六條ニ準シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

第二十四條　帝國內又ハ帝國沿海ニ於テ漁獲ヲ爲ス者第十九條第四號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ漁獲物ノ數量、漁獲及鹽藏ノ場所竝漁獲物ノ移出先ヲ記載シタル申請書ヲ鹽藏地所轄鹽務局ニ提出シ鹽藏物ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ニ依ル鹽藏物ノ檢査ハ鹽務局所在地又ハ鹽務局ノ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ

第二十五條　遠洋又ハ外國若ハ外國ノ沿海ニ於テ漁獲ヲ爲ス者第十九條第四號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ出漁前其ノ船舶名、寄港地、出漁先及積載鹽ノ數量ヲ記載シタル申告書ヲ出港地所轄鹽務局ニ提出シ積載鹽ノ檢査ヲ受クヘシ

前項ニ依リ申告ヲ爲シタル者歸港シタルトキハ申告書ヲ提出シ漁獲物及殘存鹽ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十六條　帝國內ヨリ出港シ帝國內他ノ場所又ハ其ノ沿海ニ於テ漁獲ヲ爲ス者出港地所轄ノ鹽務局ニ申出其ノ許可ヲ受ケタルトキハ交付金下付ノ出願ニ付前條ノ規定ニ依ルコトヲ得

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ交付金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス

一　外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ輸出後、溜醬油醸造用ヲ除クノ外第二條各號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後、溜醬油醸造ニ使用シタル鹽ニ付テハ醬油査定後六箇月ヲ經過シテ出願シタルトキ

二　外國ニ輸出スル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ一回ノ輸出量千斤未滿、第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ一回ノ使用量五百斤未滿、鹽鮭、鹽鱒、鹽鱈、鹽鯨、鹽漬胆腸類ニ付テハ一回ノ檢査數量千斤未滿ナルモノニ關シテ出願シタルトキ

三　第二十一條ノ輸出申告書又ハ第二十五條ノ申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕鹽購入ニ關スル隨意契約及鹽賣渡ノ場合ニ於テ契約書省略ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百五十八號（官報　五月九日）

第一條　政府ニ於テ外國產鹽又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地方ノ產鹽ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第二條　鹽務局ニ於テ鹽ノ賣渡ヲ爲ストキハ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

附　則

本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル公共團體及期間指定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百五十九號（官報　五月十日）

第一條　地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

郡組合

水利組合

町村組合、町村學校組合及其ノ區

市町村內ノ區

沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區內ノ部及間切島內ノ村

第二條　地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキヨリ一箇年トス

〔參照〕

第七號布告地租條例（明治十七年三月十五日）抄錄

第四條　左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一　國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二　府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ル期間內ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第十四條ニ依リ戒嚴宣告ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十二日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎

海軍大臣男爵山本權兵衛

陸軍大臣　寺內正毅

勅令第百六十號（官報　五月十三日）

臺灣全島（澎湖列島ヲ除ク）及其ノ沿海ヲ臨戰地境ト定メ本令發布ノ日ヨリ戒嚴ヲ行フコトヲ宣告ス

臺灣總督ヲ以テ前項戒嚴地ノ司令官トス但シ臺灣總督同地ニ在ラサルトキハ臺灣守備軍司令官ヲ以テ其ノ司令官トス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ花莚檢査規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十三日

農商務大臣男爵清浦奎吾

勅令第百六十一號（官報　五月十五日）

花莚檢査規則

第一條　花莚檢査所ニ於テ檢査ヲ受ケタル花莚ニアラサレハ輸出スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ指定シタル種類ノ花莚ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　花莚ノ檢査ヲ請求スル者ハ檢査手數料ヲ納ムヘシ

第三條　花莚檢査證、檢査手數料ノ金額及徴收方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條　第一條ノ檢査ヲ受ケサル花莚又ハ檢査證ヲ除去シタル花莚ヲ輸出シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要物産同業組合法ニ依リテ設置シタル組合及聯合會ノ定款ニ從ヒ本令施行前檢査ヲ受ケ其ノ證アル花莚ニ關シテハ本令ヲ適用セス

○

朕地方森林會規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

勅令第百六十二號（官報　五月十六日）

地方森林會規則中左ノ通改正ス

第八條第二項第一號中「一人」ヲ「二人」ニ改メ第二號ヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【參照】

勅令第四百四十號地方森林會規則（明治三十年十二月十一日官報）抄錄

第八條第二項

議員ハ左ニ掲ク者ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

一　府縣高等官　一人

二　土木監督官吏　一人

○

朕陸軍軍屬從軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十七日

陸軍大臣寺内正毅

勅令第百六十三號（官報　五月十八日）

陸軍軍屬從軍服制中左ノ通改正ス

外套袖章ノ次ニ左ノ如ク加フ

軍屬	金屬	金色
軍屬部	金屬	銀色

巡査　金屬　銀色

袖章

襟章六分
衣及外套襟部ノ左端ニ附ス

刀、刀帶及刀緒ノ部ニ左ノ一項ヲ加フ

巡査ハ陸軍下士佩用ノモノニ同シ

○

朕郵便貯金法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十七日

勅令第百六十四號（官報　五月十八日）

郵便貯金法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

遞信大臣大浦兼武

○

朕郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十七日

勅令第百六十五號（官報　五月十八日）

郵便貯金法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

遞信大臣大浦兼武

○

朕郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十七日

遞信大臣大浦兼武

勅令第百六十六號（官報　五月十八日）

郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年五分四毛トス但シ千圓以上ノ預入金ニ對シテハ省令ヲ以テ利子ノ割合ヲ低減スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕北海道廳森林監守服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十八日

勅令第百六十七號（官報　五月十九日）

北海道廳森林監守服制中左ノ通改正ス

北海道廳森林監守制服圖例並服制圖中夏衣袴ノ項「白小倉」ヲ「茶褐色小倉」ニ改ム

内務大臣子爵芳川顯正

○

朕作業及鐵道會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

遞信大臣　大浦兼武

勅令第百六十八號（官報　五月十九日）

作業及鐵道會計規則中左ノ通改正ス

第二十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ鐵道作業上ノ運帶運輸ニ係ル收入ニ限リ翌年度五月三十一日迄ハ當該年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

附則

本令ハ明治三十七年度會計ヨリ之ヲ適用ス

〔參照〕

勅令第三十三號作業及鐵道會計規則（明治二十三年三月二十日）抄錄

第二十二條　毎年度內ニ收入ヲナス（中權利ヲ得タ當該年度內ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ煙草專賣局職員特別任用令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百六十九號（官報　五月二十二日）

煙草專賣局職員特別任用令中左ノ通改正ス

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條　六箇月以上煙草專賣局屬ノ職ニ在ル者ニシテ法律學又ハ政治學ヲ教授スル修業年限三箇年以上ノ私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ煙草專賣局官制施行ノ後三箇年間ニ限リ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ煙草專賣局屬ニ任用スルコトヲ得

○

朕砂糖消費稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百七十號（官報　五月二十二日）

砂糖消費稅法施行規則中左ノ通改正ス

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

〔參照〕

勅令第百六十九號砂糖消費稅法施行規則（明治三十四年八月二十四日官報）抄錄

第十三條第二項

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅定額ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

○

朕陸軍職時給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第百七十一號（官報　五月二十六日）

陸軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

第二條　戰時編制ノ部隊及特ニ設置シタル部隊ノ給與ハ第六條第一項第二項及第四項ノ期間ヲ除クノ外必要ニ應シ明治二十三年法律第二十七號ニ依リ部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ部隊及給與ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○

朕臺灣總督府鐵道部官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十六日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎

內務大臣子爵芳川顯正

勅令第百七十二號（官報　五月二十七日）

臺灣總督府鐵道部官制中左ノ通改正ス

第二條中「專任五人」ヲ「專任六人」ニ改ム

〔參照〕

明治三十二年十一月八日勅令第四百二十六號臺灣總督府鐵道部官制第二條中專任五人ハ事務官ノ定員ナリ

○

朕海軍軍屬タル文官從軍服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第百七十三號（官報　五月二十九日）

海軍軍屬文官從軍服制

海軍軍屬タル文官從軍服制左ノ通之ヲ定ム

帽　海軍將校通常禮服用ノモノニ同シ但シ判任官ニ在リテハ帽ノ周圍ニ黑毛線ヲ纏ハス

帽章ハ白若ハ茶褐色トス又前章ハ高サ一寸五分幅一寸八分金ノ櫻葉及金ノ方形內ニ銀二條ノ山形ヲ附ス圖ノ如シ

冬服　地質黑若ハ紺羅紗或ハ「セルジ」製式圖ノ如シ

鈕釦ハ海軍服制二號形ニ同シ

夏服　地質白若ハ茶褐色布或ハ毛織製式冬服ニ同シ

鈕釦ハ海軍服制二號形ニ同シ

外套　海軍將校ニ同シ但シ袖章ヲ除キ鈕釦ハ海軍服制二號形ニ同シ

雨衣　海軍將校ニ同シ

肩章　冬服夏服及外套ニ附著スヘキモノニシテ官等ニ依リ區分スルコト左ノ如シ

高等官一等二等

紺羅紗製長サ約四寸幅一寸七分トシ銀ノ山形二條ヲ附ス又幅五厘ノ金線四條ヲ附シ二條ツツハ密接セシメ他ノ二條トノ間ヲ五厘トス圖ノ如シ

高等官三等以下

高等官一等二等ニ同シ但シ金線ハ外方ノ二條ノミトス

判任官

高等官三等以下ニ同シ但シ金線ニ代フルニ銀線ヲ以テス

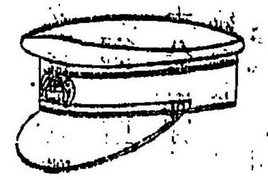
劍及劍帶　海軍將校禮服用ノモノニ同シ但シ胴輪及小尻ノ模樣ヲ除キ緒及紐ハ黃色絹絲製トシ劍帶ニ前掛ヲ附セス

附則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ文官待遇者ニモ亦之ヲ適用ス

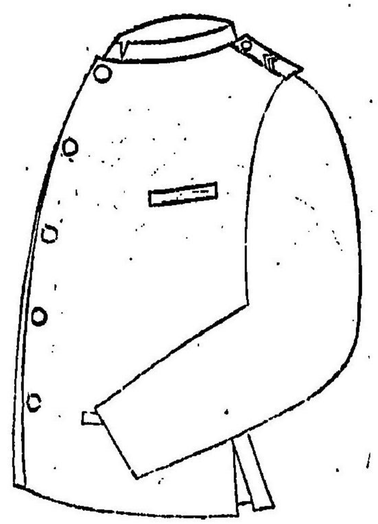
制服著用者ノ範圍ハ海軍大臣之ヲ定ム



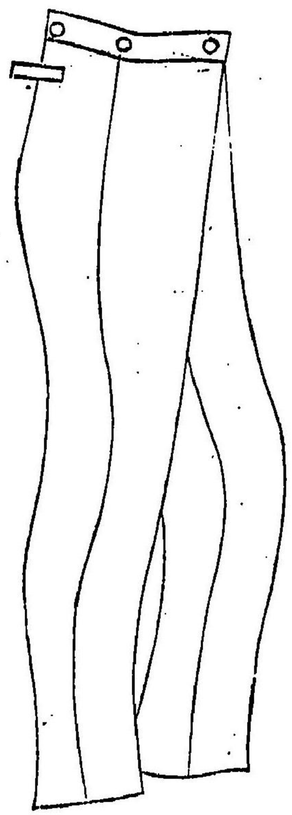
帽

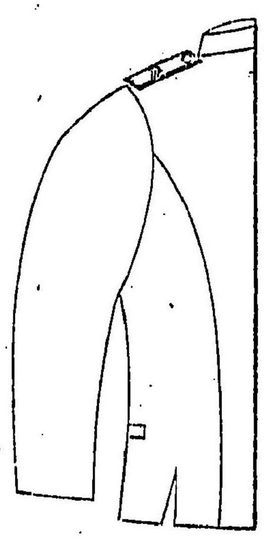
帽前章

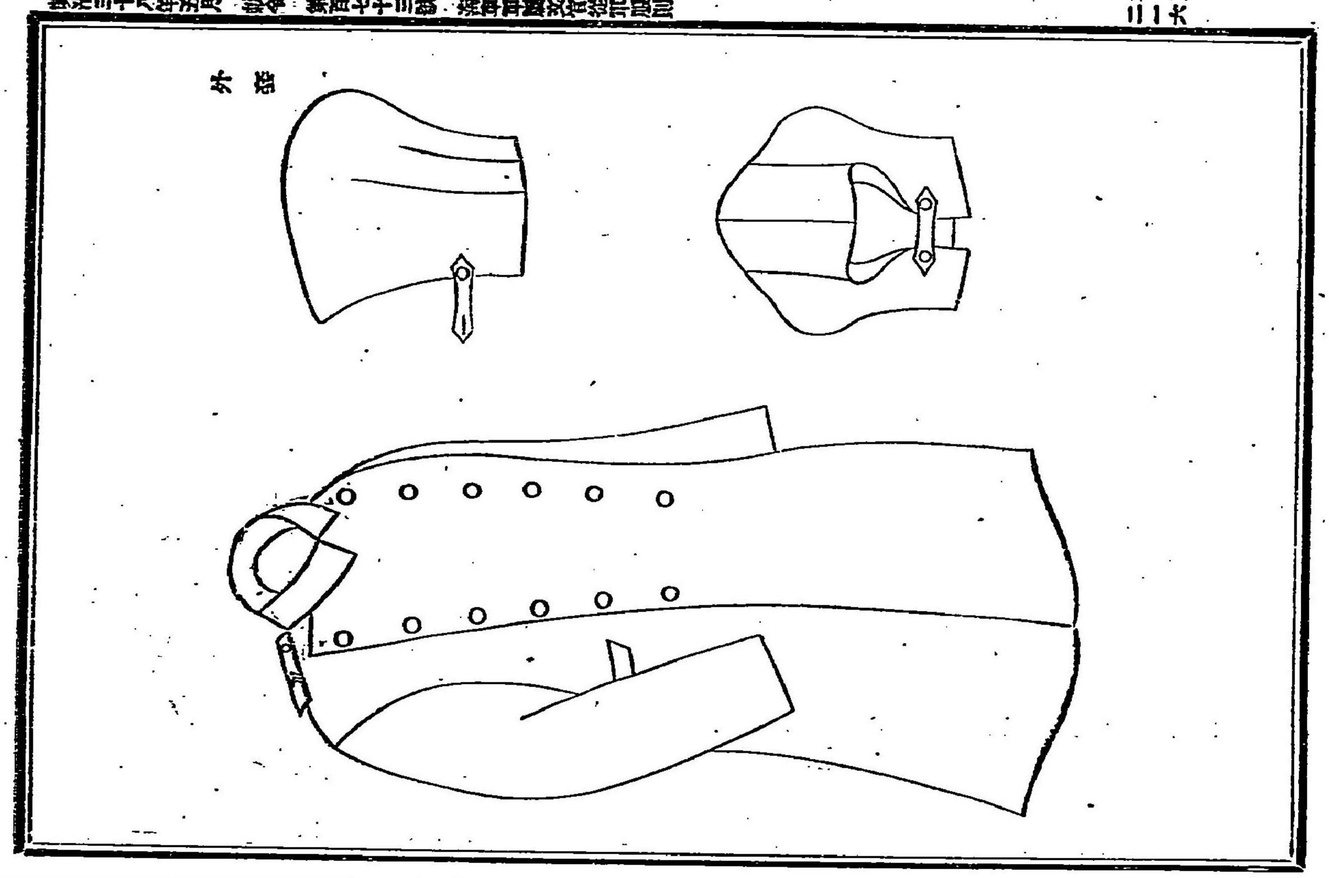
上衣

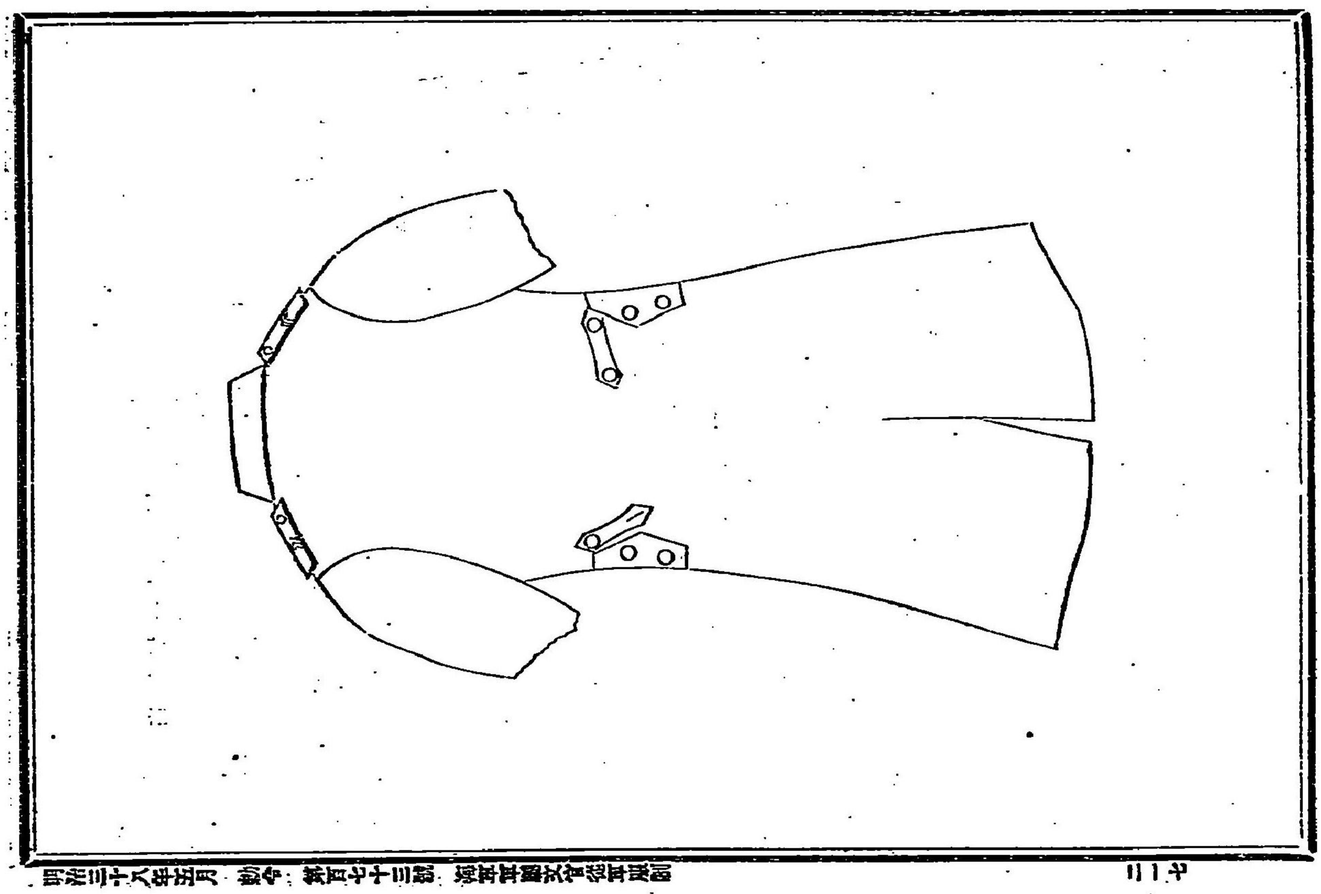


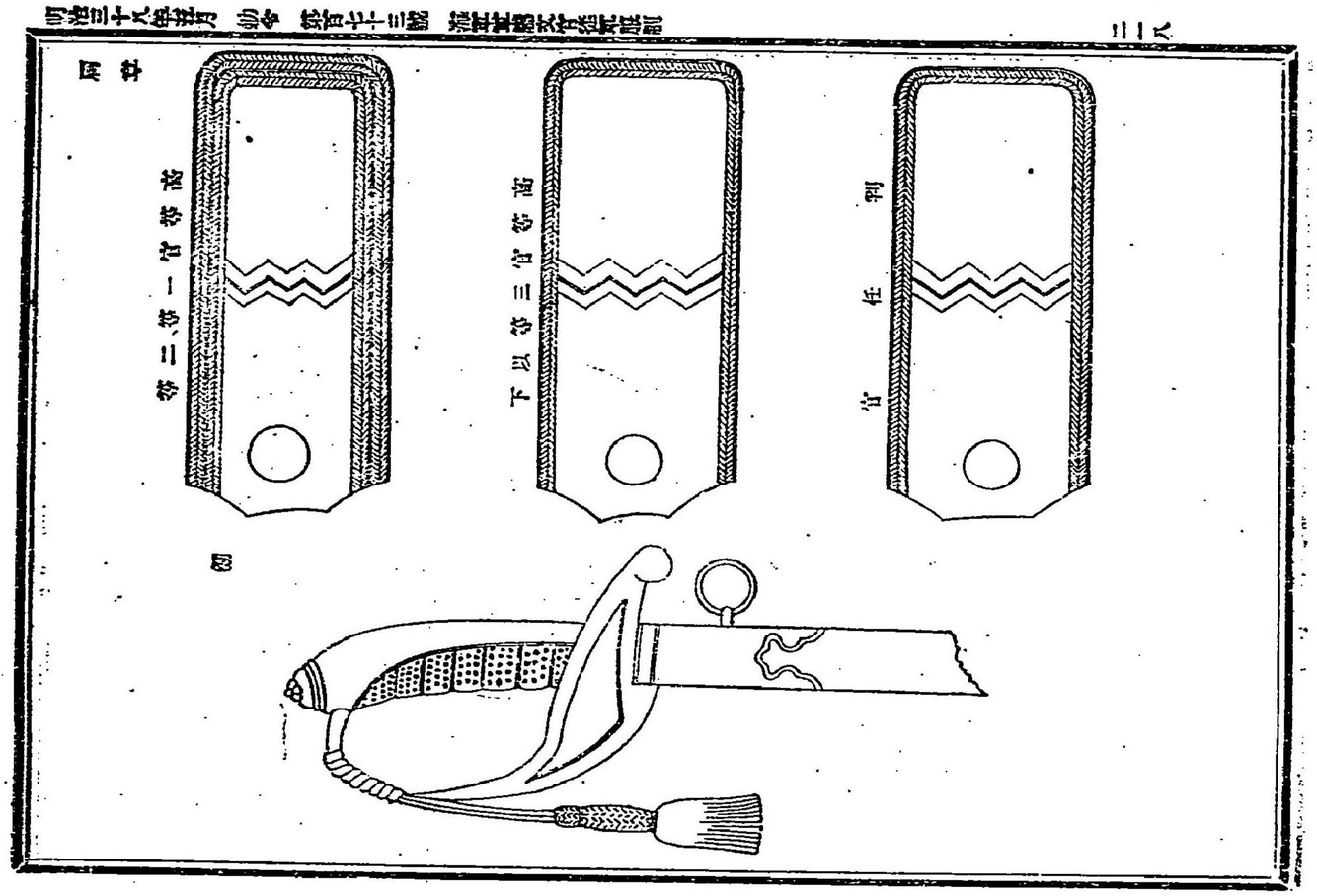
袴






外張





陸海軍服制中改正ノ件ヲ勅可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第百七十四號（官報　五月二十九日）

海軍服制中左ノ通改正ス

第十條ノ三　文官及文官待遇者ニシテ從軍服ヲ着用スル者ニハ服裝手當トシテ一回限リ三十圓以內ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臨時臺灣戸口調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

内務大臣子爵芳川顯正

勅令第百七十五號（官報　五月三十日）

第一條　臺灣總督府ニ臨時臺灣戸口調査部ヲ置キ明治三十八年十月一日ヲ以テ臺灣ニ施行スル戸口調査ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシム

第二條　臨時臺灣戸口調査部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　一人

副部長　一人

主事　二人

屬　十三人　判任

專任

第三條　部長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ部中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　副部長ハ臺灣總督府高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

副部長ハ部長ヲ輔佐シ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　主事ハ臺灣總督府高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

主事ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第六條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ調査及庶務ニ從事ス

第七條　臺灣總督ハ臨時臺灣戸口調査部ノ職員ニ非サル臺灣總督府所屬行政各官衙及學校ノ職員並公吏ヲシテ部長ノ指揮ヲ承ケ第一條ニ掲ケタル事務ニ從事セシムルコトヲ得

○

朕臨時博覽會事務局官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

農商務大臣男爵清浦奎吾

勅令第百七十六號（官報　五月三十日）

臨時博覽會事務局官制ハ明治三十八年五月三十一日限リ之ヲ廢止ス

○

朕造幣局ニ臨時職員ヲ增置スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月八日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百七十七號（官報六月九日）

造幣局ニ臨時左ノ職員ヲ增置ス

技師　一人

同　一人

技手　一人

○

朕保管金規則ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百七十八號（官報六月十四日）

保管金規則ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

○

朕政府ヨリ恩給ヲ受クル者ニ召集中手當ヲ支給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛
陸軍大臣　寺内正毅

勅令第百七十九號（官報　六月十四日）

政府ヨリ恩給ヲ受クル者職時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレ恩給ヲ停止セラレタル場合ニ於テ其ノ俸給ノ額恩給ノ額ヨリ寡少ナルトキハ手當トシテ其ノ不足額ヲ支給ス

附則

本令ハ開戰ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

○

朕明治三十六年勅令第二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十四日

内閣總理大臣伯爵桂太郎
内務大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十號（官報　六月十五日）

明治三十六年勅令第二號中左ノ通改正ス

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外警視廳ニ防疫評議員ヲ置クコトヲ得

第三條ノ二　防疫評議員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條中「第一條」ノ下ニ「第一項」ヲ加フ

第五條中「官吏」ヲ「在職官吏」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二號（明治三十六年一月二十日官報）抄錄

第一條　「ペスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲警視廳ニ臨時左ノ職員ヲ置キ第三部ニ屬セシム

防疫事務官　專任　三人
檢疫醫　九十人
防疫書記　專任　五人
雇員　九十人

第四條　官吏ニシテ第一條ノ職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク其ノ官ニ在ラサル者ノ待遇ハ防疫事務官ニ在リテハ專任其ノ他ノ者ニ在リテハ判任トス

第五條　官吏ニシテ第一條ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ一箇年六百圓以内其ノ他ノ者ニハ一箇月百五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ檢疫醫專任書記及雇員ニ支給スヘキ手當ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○

朕血清療痘苗「ツベルクリン」及治療液代價納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十九日

内務大臣子爵芳川顯正

勅令第百八十一號（官報　六月二十日）

政府ニ納ムヘキ血清、痘苗「ワベルクリン」及治療液ノ代價ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年勅令第二百五十九號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十九年六月二十日官報勅令第二百五十九號ハ政府ニ納ムヘキ血清及痘苗代價ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ル件ナリ

○

朕關稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百八十二號（官報　六月二十日）

關稅法施行規則第七十九條中「手數料及使用料」ヲ「手數料、使用料、收容貨物ノ費用及數料」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百十九號關稅法施行規則（明治三十二年六月三十日官報）抄錄

第七十九條　手數料及使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料及使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

○

朕鑛業登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十九日

農商務大臣男爵清浦奎吾

司法大臣　波多野敬直

勅令第百八十三號（官報　六月二十日）

鑛業登錄令

第一章　總則

第一條　鑛業ニ關スル登錄ハ鑛山監督署ニ於テ之ヲ爲ス

第二條　同一ノ鑛業權ニ關シテ登錄シタル權利ノ順位ニ付法令ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第三條　附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依ル但シ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第四條　假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第二章　鑛業原簿

第五條　鑛業原簿ハ試掘原簿、採掘原簿ノ二種トス

共同鑛業權者ニ付テハ共同人名簿、鑛區圖ニ付テハ鑛區圖綴込帳ヲ設ケ鑛業原簿ノ一部トス

第六條　何人ト雖手數料ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ其ノ

附屬書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵便切手ヲ納付シテ鑛業原簿ノ謄本、抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第七條　鑛業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ調製ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

前項ニ依リテ調製シタル原簿ハ滅失前ノ鑛業原簿ト看做ス

第八條　前條鑛業原簿ノ調製ヲ終リタルトキハ其ノ登錄ノ謄本又ハ抄本ヲ登錄名義人ニ交付スルコトヲ要ス

第三章　登錄手續

第一節　通則

第九條　登錄ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請、囑託又ハ命令アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託又ハ命令ニ因ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外申請ニ因ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　登錄ハ登錄權利者及登錄義務者又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ申請スルコトヲ要ス

第十一條　判決又ハ相續ニ因ル登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第十三條　左ノ登錄ニ付テハ官囑又ハ公署ハ囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

一　處分ノ制限ノ登錄

二　公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄

第十四條　鑛業權ヲ取消シタルトキ又ハ取消處分ノ取消ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ登錄ヲ命スルコトヲ要ス

第十五條　登錄ヲ申請スルニハ左ノ書類ヲ提出スルコトヲ要ス

一　申請書

二　登錄原因ヲ證スル書面

三　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

申請カ鑛業權ノ設定、變更其ノ他鑛業權ノ表示ノ變更又ハ更正ニ關スルトキハ前項第二號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

國、法人ノ代表者又ハ共同鑛業ノ代表者ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ第一項第四號ノ書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第十六條　申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　鑛區所在地

二　鑛業權ノ登錄番號

三　申請人ノ氏名及住所

四　代理人又ハ代表者ニ依リテ申請スルトキハ本人ノ氏名又ハ名稱及住所
五　登錄原因及其ノ日附
六　登錄ノ目的
七　年月日

申請カ鑛業權ノ設定又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依ル抵當權ノ設定ニ關スルトキハ前項第二號ノ記載ヲ要セス

申請カ鑛業權ノ設定、變更其ノ他鑛業權ノ表示ノ變更又ハ更正ニ關スルトキハ第一項第五號ノ記載ヲ要セス

第十七條　左ノ場合ニ於テハ申請人ハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戸籍ノ謄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　申請人カ相續人ナルトキ
二　登錄名義人カ其ノ表示ノ變更ノ登錄ヲ申請スルトキ
三　死亡ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ヲ申請スルトキ

第十八條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其ノ書面ニ代フルコトヲ得

第十九條　同一鑛山監督署ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　登錄ハ受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ受理セス

一　事件カ管轄ニ屬セサルトキ
二　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ
三　當事者カ出頭セス又ハ申請書ヲ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
四　申請書カ方式ニ適合セサルトキ
五　申請書ニ掲ケタル鑛業權又ハ抵當權ノ表示カ鑛業原簿ト抵觸スルトキ
六　第十七條第一號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者及共同鑛業代表者ノ表示カ鑛業原簿ト符合セサルトキ
七　申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ
八　申請ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ提出セサルトキ
九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

第二十二條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄又ハ共同鑛業權者脫退ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十三條　行政區畫又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキハ鑛業原簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十四條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スルコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ鑛業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ更正ノ登錄ヲ爲シタル後前項ノ通知ヲ

ナスコトヲ要ス

錯誤又ハ遺漏カ前項以外ノ登錄ニ係ルトキハ登錄更正ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ更正ノ登錄ヲ爲ス

第二十五條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條　申請書其ノ他登錄ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス

金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二節　鑛業權ニ關スル登錄手續

第二十七條　命令ニ因ル鑛業權ノ喪示ノ變更又ハ鑛業ニ關スル出願ノ許可ニ因ル申請ハ登錄權利者ニ於テ之ヲ爲シ申請書ニ鑛物ノ名稱及鑛區ノ面積ヲ記載シ且鑛山監督署長ノ命令書又ハ許可ニ關スル通知書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十八條　死亡、破產又ハ禁治產ニ因ル共同鑛業權者脫退ノ登錄ハ登錄權利者又ハ登錄義務者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定及減區又ハ增減區ニ因ル鑛業權變更ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス但シ鑛區ノ分合又ハ增減ノ願書ト共ニ承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十條　鑛業法第三十五條第二項ノ場合ニ於テ採掘權設定ノ登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ旨ヲ抵當權者ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ抵當權者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抵當權設定ノ登錄ヲ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ抵當權ノ順位ハ協定ノ順位ニ依ル

前二項ノ申請ニ付テハ最後ニ通知ヲ受ケタル者ニ對スル前項ノ期間滿了ノ日ニ於テ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　抵當權ニ關スル登錄手續

第三十一條　鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル抵當權設定ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十三條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スコトヲ要ス

抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ

ハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十五條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ因ル抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條　抵當權ノ變更ノ登錄ヲ爲スニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テハ第二十四條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　抵當權ノ移轉、順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更及其ノ處分ノ制限ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第三十八條　期限ノ滿了ニ因リ鑛業權カ消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　廢業ニ因ル鑛業權消滅ノ登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十條　鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定ノ登錄ヲ爲シタルニ因リ其ノ合併又ハ分割前ノ採掘權消滅シタルトキハ其ノ原因ヲ記載シテ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　抵當權ノ登錄アル採掘權ニ關シ廢業ニ因ル抹消ノ申請アリタルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲スト同時ニ鑛質ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

抵當權者鑛質ノ請求ヲ爲サザルトキ又ハ鑛質申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ登錄抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登錄シタル後存續ニ關スル記載ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四十二條　前條ノ規定ハ鑛業法第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外抵當權ノ登錄アル採掘權取消ニ因ル抹消ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　抵當權カ人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戸籍ノ謄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十四條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書竝債權及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四十五條　廢業ニ因ル場合ヲ除クノ外登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條　第十三條ノ規定ニ依リ公賣處分ニ因ル鑛業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ若シ抵當權ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四章　假登錄及豫告登錄

第四十七條　假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ

二　前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第四十八條　假登錄ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在

地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第四十九條　假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上ノ利害關係人ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條　豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一　登錄原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ無效又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

二　鑛業法第八十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第五十二條　豫告登錄ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴願ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴狀若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第五十三條　第五十一條第一號ニ掲ケタル訴願ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五十四條　第五十一條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若ハ其ノ取下アリタルトキハ農商務大臣ハ豫告登錄ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五章　異議

第五十五條　登錄ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以內ニ農商務大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　異議ハ鑛山監督署長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第五十七條　異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ憑據ト爲スコトヲ得ス

第五十八條　鑛山監督署長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ農商務大臣ニ送付スルコトヲ要ス

鑛山監督署長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス若シ登錄完了ノ後ナルトキハ假登錄ヲ爲シ之ヲ登錄上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條　異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第六十條　農商務大臣ハ登錄上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

農商務大臣異議ヲ理由アリトスルトキハ鑛山監督署長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

附則

第六十一條　本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル鑛業ニ關スル原簿及書入登錄簿ヲ以テ舊鑛業原簿トス

第六十二條　本令施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採掘權設定ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條　本令施行前ニ認可若ハ特許ノ鑛業權又ハ登錄ノ抵當權ニ付鑛業權ノ抹消ヲ除クノ外登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ鑛業原簿ニ舊鑛業原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ舊鑛業原簿中鑛業原簿ニ移シタル登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第六十四條　舊鑛業原簿ニ記載シアル鑛業權ニ付其ノ抹消登錄ノ申請アリタルトキハ其ノ原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第六十五條　鑛業條例ニ依リ差出シタル廢業屆ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條　鑛業條例ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換願、採掘權書入登錄願又ハ登錄シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第六十七條　本令施行前ニ相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル屆書ヲ差出スコトヲ要ス

前項ノ屆出アリタルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條　本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月十九日

勅令第百八十四號（官報　六月二十日）

第一條　鑛業ニ關スル出願、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　試掘願	毎一件	金五十圓
二　試掘出願地ノ變更願		
增區又ハ增減區	毎一件	金三十圓
減區	毎一件	金五圓
三　試掘鑛區ノ變更願		
增區又ハ增減區	毎一件	金三十圓
減區	毎一件	金五圓
改正	毎一件	金五圓
四　試掘出願人ノ變更屆		
相續	毎一件	金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル變更	毎一件	金二十五圓
五　採掘願	毎一件	金七十五圓
六　採掘出願地ノ變更願		
增區又ハ增減區	毎一件	金五十圓

農商務大臣男爵清浦奎吾

減區

七　採掘鑛區變更願　毎一件　金五圓

増區又ハ増減區　毎一件　金五十圓

減區　毎一件　金五圓

鑛區訂正　毎一件　金三十圓

改正　毎一件　金五圓

八　採掘鑛區ノ合併又ハ分割願　毎一件　金三十圓

九　採掘鑛區ノ分合願　毎一件　金五十圓

十　採掘出願人ノ變更届

相續以外ノ原因ニ因ル變更　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ依ル變更

十一　共同鑛業出願人ノ脱退届　毎一件　金五十圓

十二　鑛種名更正願　毎一件　金五圓

十三　鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査願　毎一件　金十圓

十四　鑛業法第五十二條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査願　毎一件　金五十圓

十五　鑛業法第五十三條ノ規定ニ依ル障碍物除却願　毎一件　金十圓

十六　鑛業法第五十六條ノ規定ニ依ル鑛業用地使用願　毎一件　金十五圓

十七　裁決申請　毎一件　金二十五圓

第二條　鑛業登錄令第六條ノ規定ニ依リテ鑛業原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　鑛業原簿ノ謄本又ハ抄本交付ノ申請　用紙毎一枚　金五十錢

二　鑛區圖謄本交付ノ申請　鑛區毎十萬坪　金二圓五十錢

三　鑛業原簿又ハ附屬書類ノ閲覧申請　毎鑛區毎一時間　金二十五錢

紙數、面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ一枚、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノト雖一枚、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第三條　砂鑛採取業ニ關スル出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　砂鑛採取願　毎一件　金二十圓

二　砂鑛採取出願地ノ増區又ハ増減區願　毎一件　金二十圓

三　砂鑛採取出願地ノ減區願　毎一件　金五圓

四　砂鑛採取地ノ増區又ハ増減區願　毎一件　金二十圓

五　砂鑛採取地ノ減區願　毎一件　金五圓

六　砂鑛採取地ノ合併又ハ分割願　毎一件　金五圓

七　砂鑛採取出願人ノ變更願　毎一件　金五圓

相續以外ノ原因ニ依ル變更　毎一件　金十圓

相續　毎一件　金五圓

八　砂鑛採取出願人ノ除名届　毎一件　金十圓

九　砂鑛採取業譲渡願　毎一件　金二十圓

十　砂鑛採取業相續届　毎一件　金五圓

十一　砂鑛採取人除名屆　毎一件　金五圓
十二　廢業屆　毎一件　金五圓
十三　砂鑛採取地圖再下付願　毎一件　金五圓
十四　砂鑛採取原簿又ハ砂鑛採取地圖閲覧願　毎採取地毎一時間　金二十五錢
十五　鑛山監督署長ノ判定請求　毎一件　金二十五圓
十六　農商務大臣ノ裁定請求　毎一件　金二十五圓

前項第一號ノ出願ニ付テハ河床ニ在リテハ二里毎ニ、其ノ他ニ在リテハ十萬坪毎ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

第一項第二號及第四號ノ出願ニ付テハ其ノ增區部分ノミニ付前二項ニ依ル手數料ヲ納ムヘシ

里數ニ依リテ定メタル區域ヲ坪數ノ區域ニ變更シ又ハ坪數ニ依リテ定メタル區域ヲ里數ノ區域ニ變更スル場合ニハ其ノ變更シタル全區域ノ半ヲ以テ增區部分ト看做シ其ノ手數料額ヲ計算スヘシ

面積又ハ時間ニ依リ手數料額ヲ定ムル場合ニ於テハ二里、十萬坪又ハ一時間ニ滿タサルモノハ二里、十萬坪又ハ一時間トシテ計算ス

第四條　手數料ハ收入印紙ヲ願書、申請書、請求書又ハ屆書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第百五十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕
明治三十三年四月十七日勅令第百五十號ハ鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件ナリ

○

朕擔保附社債信託法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助
司法大臣　波多野敬直

勅令第百八十五號（官報　六月二十七日）

擔保附社債信託法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕鐵道抵當法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十六日

司法大臣波多野敬直
逓信大臣大浦兼武

勅令第百八十六號（官報　六月二十七日）

鐵道抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕工場抵當法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十六日

農商務大臣男爵清浦奎吾
司法大臣　波多野敬直

勅令第百八十七號（官報　六月二十七日）

工場抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕鑛業抵當法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十六日

農商務大臣男爵清浦奎吾
司法大臣　波多野敬直

勅令第百八十八號（官報　六月二十七日）

鑛業抵當法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕海軍戰時給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第百八十九號（官報　六月二十七日）

海軍戰時給與規則中左ノ通改正ス

第二條第一項中「艦艇ニ在ル」ヲ削ル

第三條第二項中「艦艇ノ」ヲ削ル

附則

本令ハ開戰ノ始ニ溯リテ之ヲ適用ス

○

朕實用新案法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月二十九日

內務大臣子爵芳川顯正

勅令第百九十號（官報　六月三十日）

實用新案法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎

勝福密顧問ノ稟請ヲ經テ文官試驗規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年六月三十日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

勅令第百九十一號（官報七月一日）

文官試驗規則中左ノ通改正ス

第八條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ非サレハ文官高等試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　專門學校令ニ基キ一般ノ專門學校入學ニ關シ試驗檢定合格證書ヲ有シ又ハ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

三　文官高等試驗委員ニ於テ普通教育ニ關シ中學校ト同等以上ト認ムル外國ノ學校ヲ卒業シタル者

明治三十八年以前ニ於テ中學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ヲ以テ入學程度トスル官立公立學校ノ入學試驗ニ合格シ又ハ其ノ豫備科ヲ卒業シタル者ハ前項第二號ニ準ス

第十條　豫備試驗ハ受驗人本試驗ヲ受クルニ相當ナル學識ヲ有スル者ト認ムヘキヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十二條　豫備試驗ハ論文試驗竝迅速作文及外國語試驗ノ二次トシ迅速作文及外國語試驗ハ論文試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

迅速作文ハ論文ニ關聯スル文題ヲ以テ之ヲ試驗シ外國語ハ英語、佛語及獨語ノ中ニ就キ豫メ一種ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

附　則

第八條ノ二及第十條ノ規定ハ明治四十二年以後、第十一條ノ規定ハ明治三十九年以後施行スベキ文官高等試驗ニ之ヲ適用ス

（參照）
勅令第百九十七號文官試驗規則（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄
第十條　豫備試驗ハ受驗人尋常中學校以上ノ官立公立學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ本試驗ヲ受クルニ相當ナル學科ヲ修メタル者ト認ムヘキヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス
第十一條　豫備試驗ハ論文試驗並ニ論文ニ關聯スル口述試驗及迅速作文試驗ノ二次トス口述試驗及迅速作文試驗ハ論文試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ
前項ノ口述試驗及迅速作文試驗ハ試驗委員ニ於テ便宜其ノ一ヲ省略スルコトヲ得

○

朕臨時恩給事務ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月三日

勅令第百九十二號（官報　七月四日）

臨時恩給事務ノ爲內閣ニ屬二人ヲ置キ恩給局ニ屬セシム

○

內閣總理大臣伯爵桂　太郎

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ戒嚴解止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月六日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
海軍大臣男爵山本權兵衛
陸軍大臣　寺內正毅

勅令第百九十三號（官報　七月七日）

臺灣全島（澎湖列島ヲ除ク）及澎湖島嶼公要港境域內並其ノ沿海ノ戒嚴ハ明治三十八年七月七日限リ之ヲ解止ス

○

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條及第七十條ニ依リ公債募集ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月八日

內閣總理大臣
兼外務大臣伯爵桂　太郎
海軍大臣男爵山本權兵衛
內務大臣子爵芳川顯正
農商務大臣男爵清浦奎吾
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百九十四號

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債三億圓ヲ募集スルコトヲ得

前項公債ニ關シテハ明治三十八年法律第十二號第五條及第六條ノ規定ヲ適用ス

○

朕明治三十八年勅令第百九十四號ニ依リ英國倫敦北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ募集スル公債ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月八日

陸軍大臣　寺內正毅
司法大臣　波多野敬直
逓信大臣　大浦兼武
文部大臣　久保田讓
內閣總理大臣伯爵桂　太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第百九十五號

第一條　明治三十八年勅令第百九十四號ニ依リ英國倫敦、北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ英貨公債三千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四半トス

第三條　本公債ノ元金ハ明治五十八年七月十日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十三年七月十日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ横濱正金銀行倫敦支店、横濱正金銀行紐育出張所及別ニ獨逸國內ニ定ムル場所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條　本公債ノ利子ハ毎年一月十日及七月十日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ二十磅、百磅及二百磅ノ三種トス

英貨ト米貨及獨貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙、獨貨二十麻四十五布トス

第六條　本公債元利金ノ償還ハ煙草專賣益金ヲ以テ擔保ス但シ其ノ順位ハ明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債三千萬磅ノ次トス

明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債償還ノ後ハ本公債ハ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラルヘシ

第七條　本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

第八條　本公債ノ元金ハ明治三十八年七月ヨリ同年十二月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月十日ニ於テ全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

○

朕陸軍戰時服服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月十一日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第百九十六號（官報　七月十二日）

陸軍戰時服服制

將校同相當官（軍樂部ヲ除ク）服制圖例並服制圖

名稱			
第二種帽	軍衣	袴	短袴
外套	雨覆	夏衣	夏袴
夏短袴	夏外套	襟章	肩章

名稱		地質	星章	眼庇	顎紐	製式	形狀
第二種帽	將校	茶褐絨 鉢卷（上部喰出シ）緋絨	金色金屬	黑革	黑漆塗革 兩緣折込トス 釦 金色金屬	心ナシ軟製トス 寸法 圖ニ示ス	如圖
	將校相當官	同	銀色金屬	同	黑漆塗革 兩緣折込トス 釦 銀色金屬	同	同

名稱		地質	釦	製式	形狀
軍衣	將校	茶褐絨 袖章 緋絨	金色金屬	長 臀骨上端ヨリ下ルコト六寸 袖長 腕關節ニ至ル 物入 左右各二箇 袖章 全周ニ喰出シニ附ス 寸法位置 圖ニ示ス	如圖
	將校相當官	同	銀色金屬	同	同

名稱		地質	釦	製式	形狀
袴	將校同相當官	茶褐絨 側章 緋絨		長 靴踵ノ上際ニ至ル 物入 兩股各一箇 側章 喰出シニ附ス 寸法 圖ニ示ス	如圖
短袴	同	同		長 膝上ニ至ル 物入 兩股各一箇 側章 喰出シニ附ス 寸法 圖ニ示ス	同

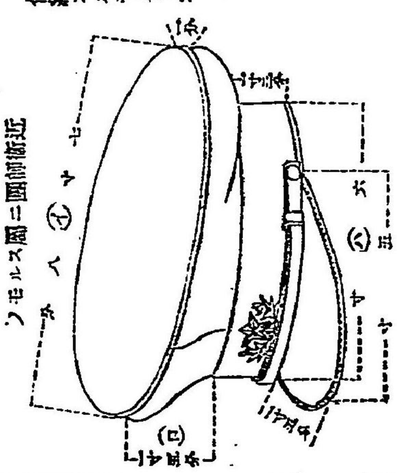
名稱		地質	釦	製式	形狀
外套	將校	表 茶褐絨 裏 同色若ハ海氣色絨又ハ毛繻子 袖章 緋絨	金色金屬	長 靴踵ノ上際ヲ距ルコト約八寸 袖長 腕關節ヨリ延ルコト約一寸五分 物入 左右各一箇 袖章 全周ニ喰出シニ附ス 寸法位置 圖ニ示ス	如圖
	將校相當官	同	銀色金屬	同	同
雨覆	將校同相當官	表 茶褐絨 裏 同色若ハ海氣色毛繻子	陸軍服制ニ同シ 但シ釦ハ褐色トス		

名稱		地質	釦	製式	形狀
夏衣	將校	茶褐布若ハ同色海毛織	金色金屬	軍衣ニ同シ 但シ袖章ヲ除ク	
	將校相當官	同	銀色金屬	同	
夏袴	將校同相當官	茶褐布若ハ同色海毛織	袴ニ同シ 但シ側章ヲ除ク		

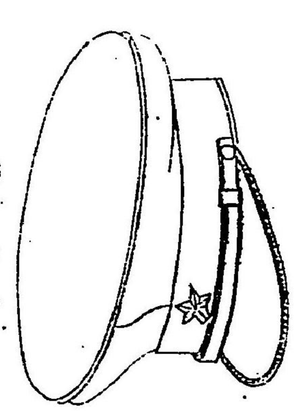
章	名稱	地質	線章	星章	圖式	形狀
周	將官	銀地	中間黑線 平面楕圓金線線幅一條目線	金 少中大色 金帝國若ハ金線 一二三面面線	寸法ノ圖式及外面法ノ圖式及外面三及縫等ノ縫等ノ位置ハ圖ニ示ス	如圖
	將官相當官	同	中間黑線 平面楕圓銀線線幅一條目線	銀 少中色 將將將金和相帝國若ハ銀 一二三面面線	同	同
	佐官	同	中間黑線 平面楕圓金線線幅二條目線	金 少中大色 金帝國若ハ金線 一二三面面線	同	同
	佐官相當官	同	中間黑線 平面楕圓銀線線幅二條目線	銀 少中大色 佐佐佐佐佐相帝國若ハ銀線 一二三面面線	同	同
	尉官	同	中間黑線 平面楕圓金線金線幅一條目線	金 少中大色 金帝國若ハ金線 一二三面面線	同	同
	尉官相當官	同	中間黑線 平面楕圓銀線銀線幅一條目線	銀 少中大色 尉尉尉尉尉相帝國若ハ銀線 一二三面面線	同	同

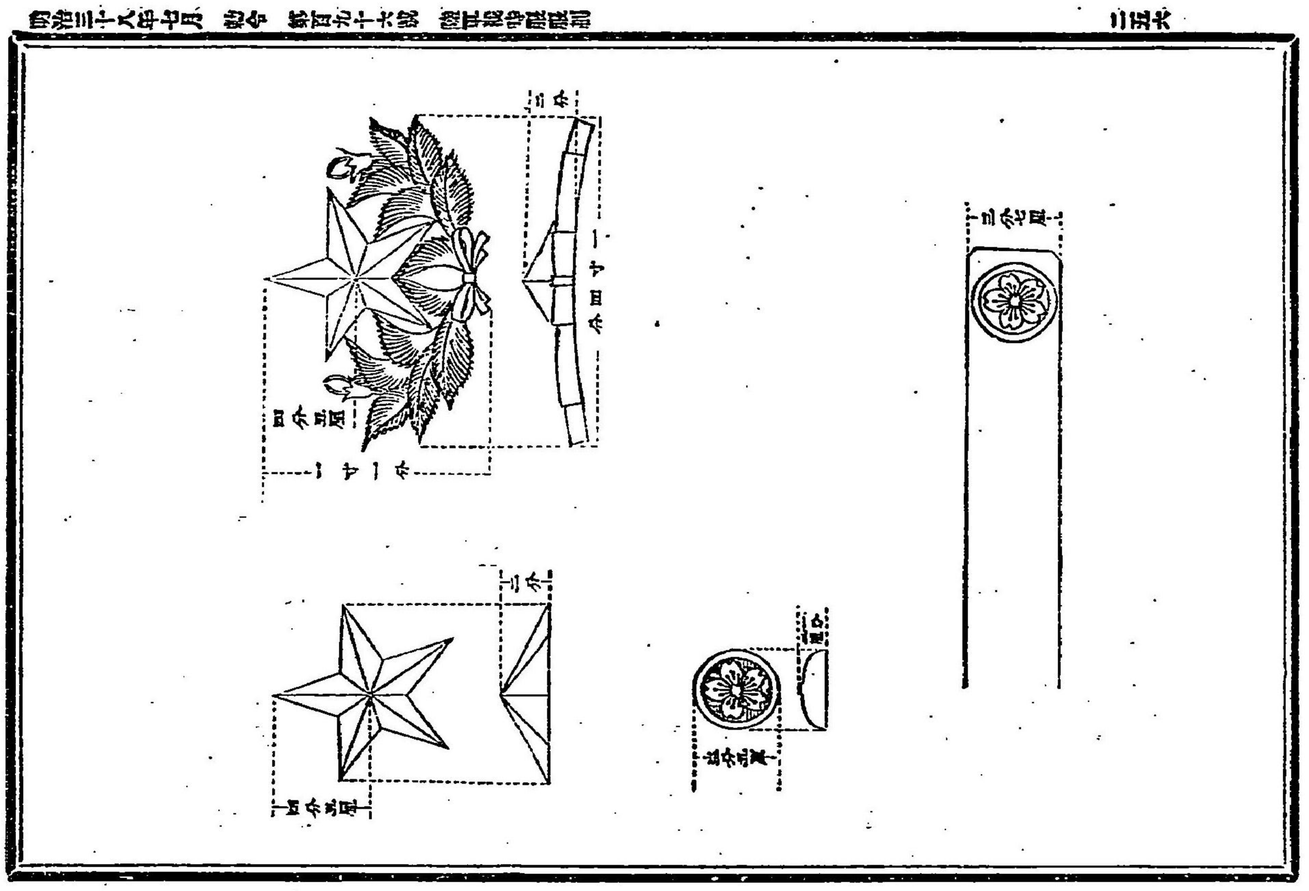
摘要	
一	大臣別ニ特ニ定ムル刀劍刀劍ノ柄鞘及鍔等ハ本章ニ倣ヒ其ノ制ニ同シ
二	陸軍ノ將校ハ金色ノ同相當官ハ銀色ノ縫章ヲ袖口ニ縫付ノ下部ニ附ス其ノ製式ノ如キハ第一圖ノ如シ
三	陸軍將校ハ金色ノ同相當官ハ銀色ノ金帝國線線幅(將(大)(中)佐線幅ハ線ヲ表スル星章ノ比率線ノ比率線幅)ヲ縫ノ左右ニ附ス其ノ製式ノ如キハ第二圖ノ如シ
四	陸軍將校ハ金色ノ同相當官ハ銀色ノ金帝國線線幅(將(大)(中)佐線幅ハ線ヲ表スル星章ノ比率線幅)ヲ縫ノ右ニ附ス其ノ製式ノ如キハ第三圖ノ如シ
五	前三項ノ縫章ハ將校ニ在リテハ金線線幅ノ同相當官ニ在リテハ銀線線幅ヲ縫ス

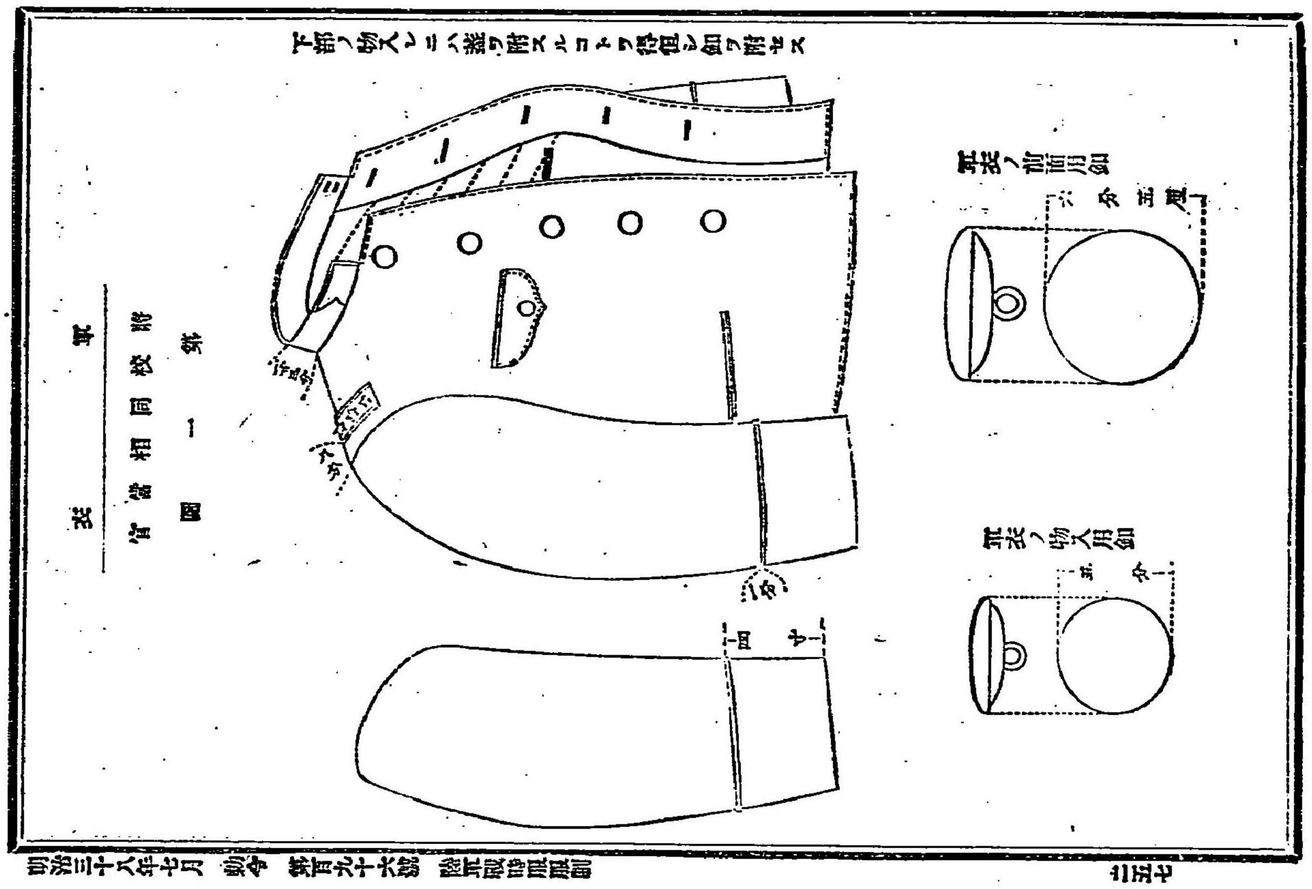
第一圖



第二圖



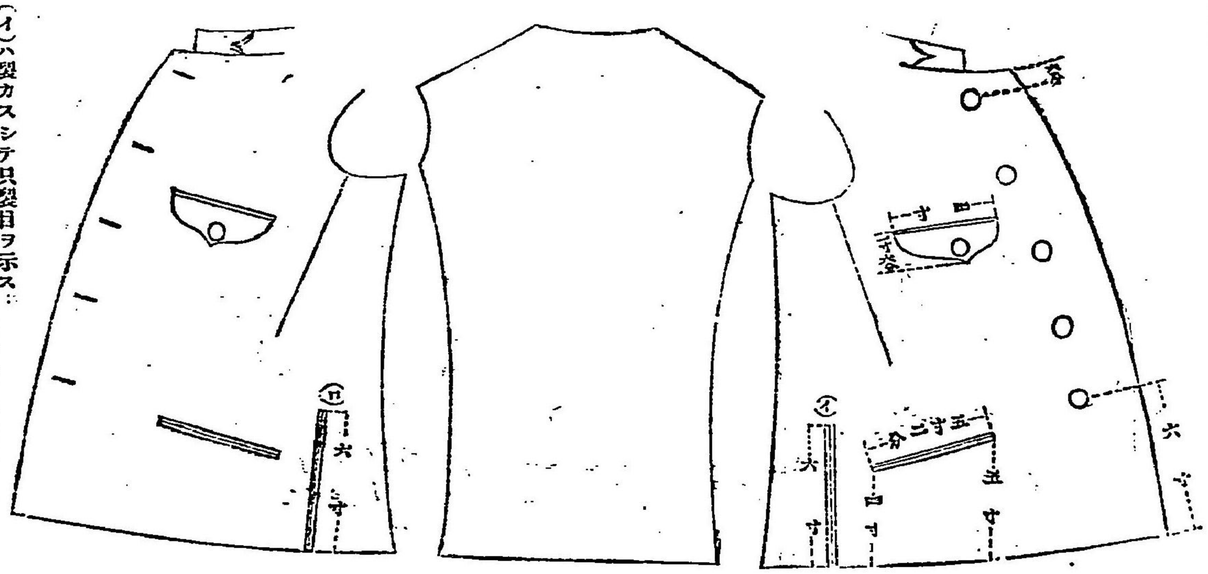


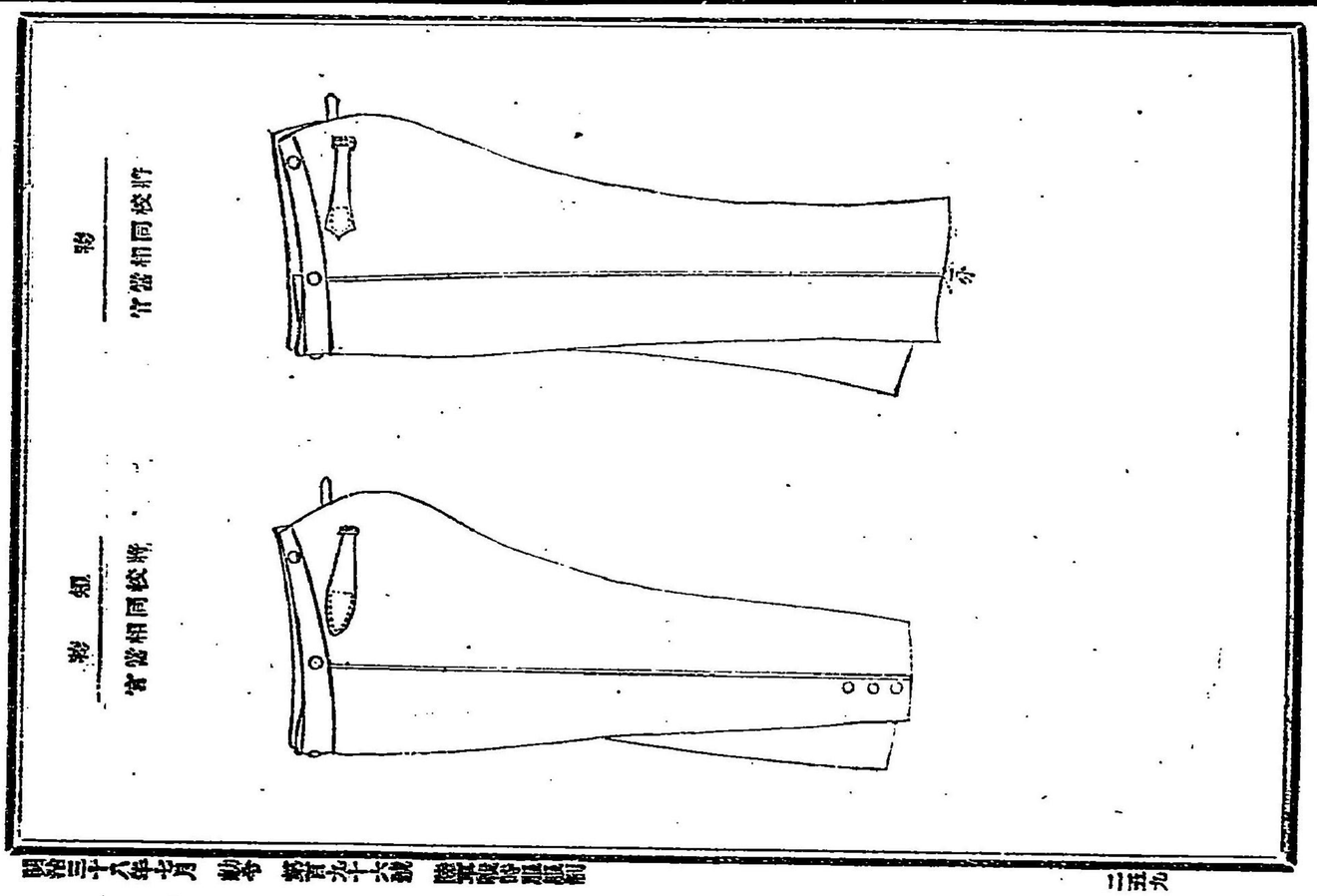

第一圖
省營相同校舍

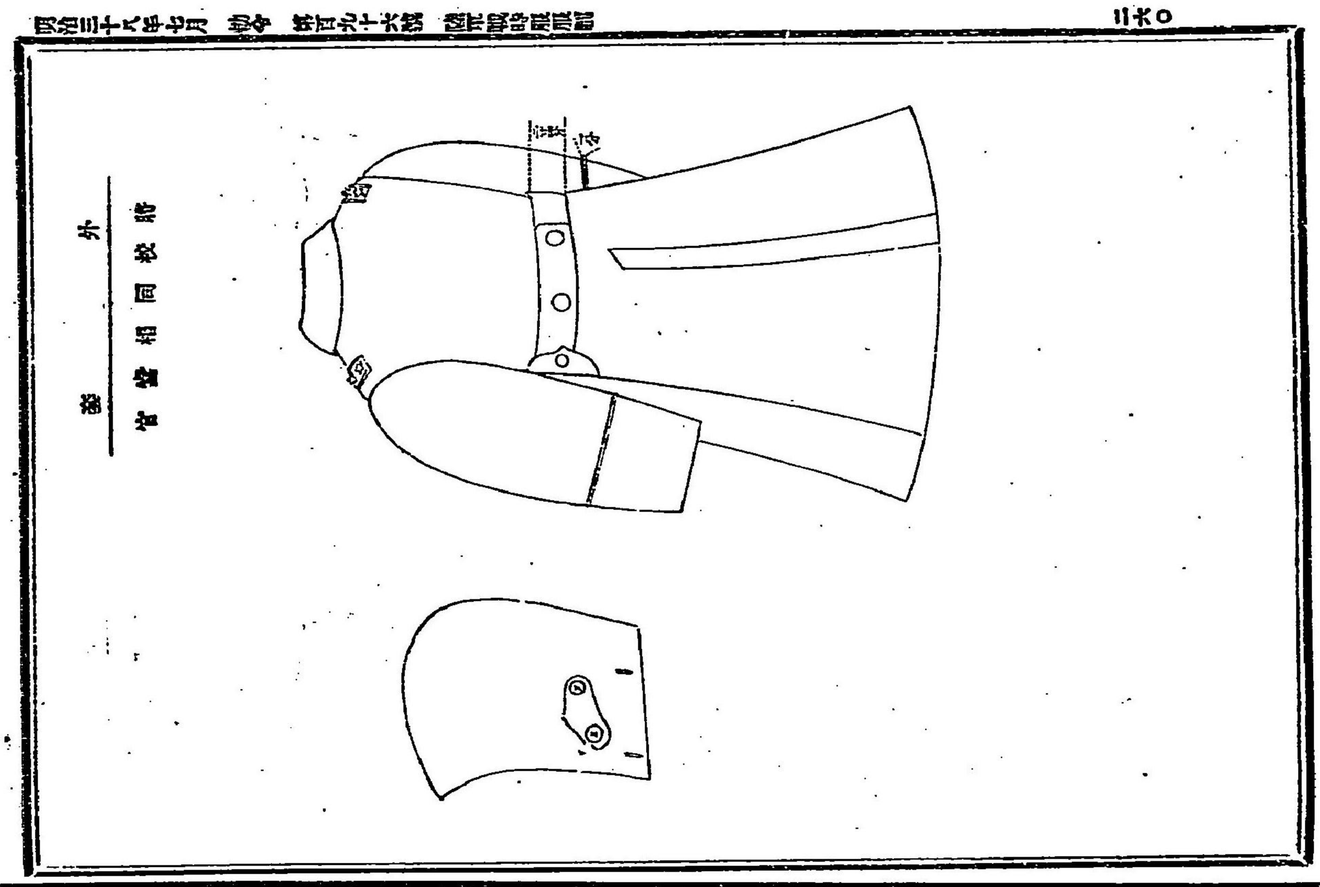
軍衣

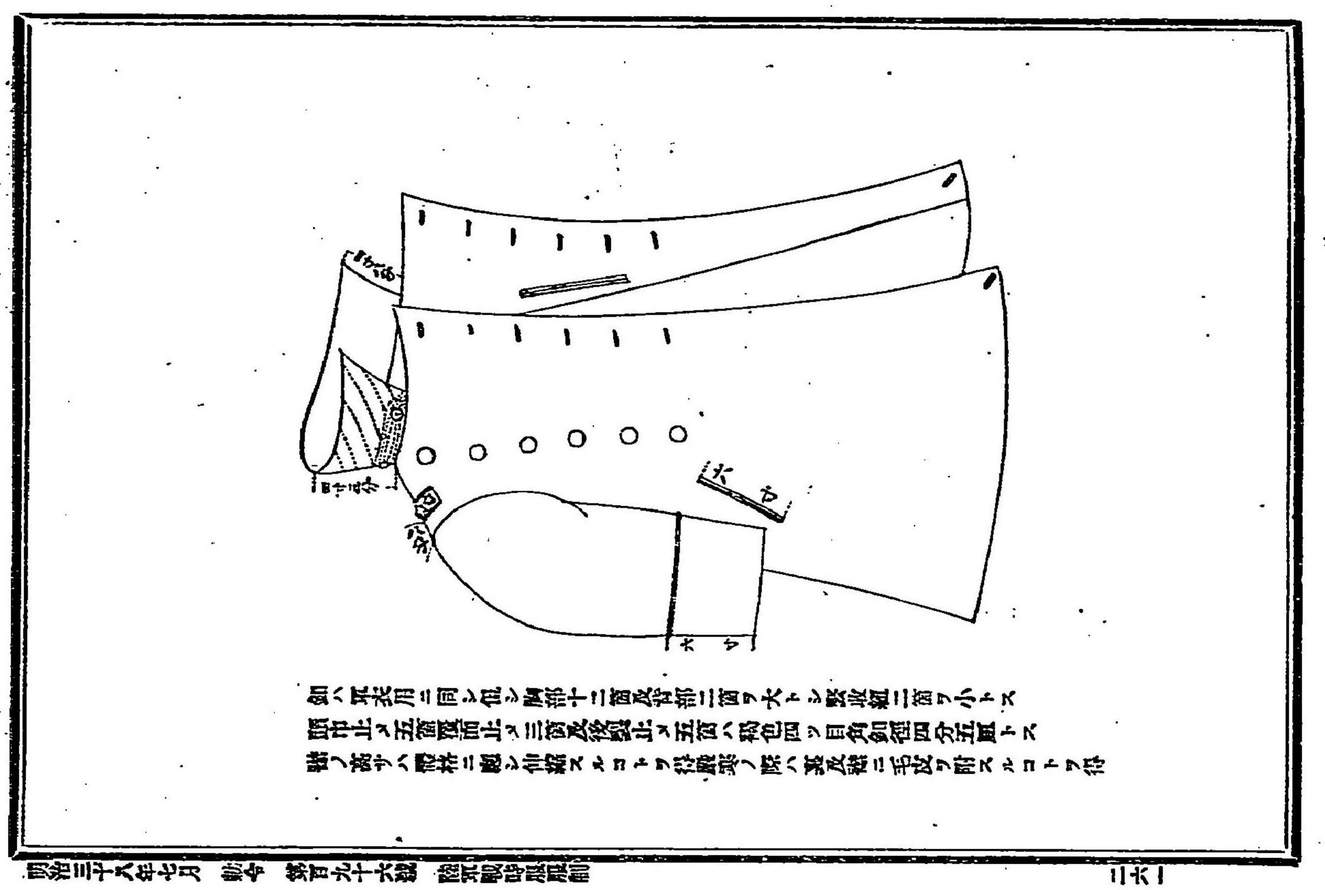
將校同相當官

第二圖





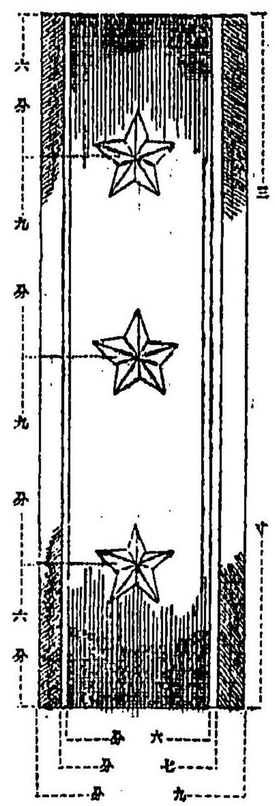




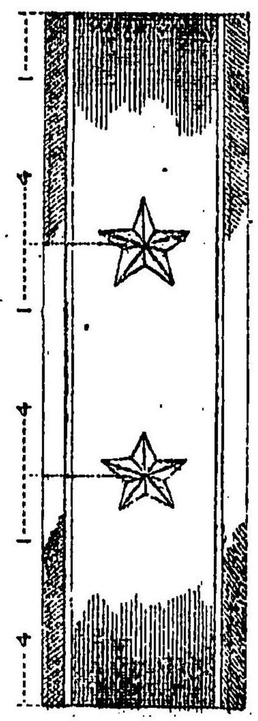
袖口ノ形ハ表用ニ同シ但シ襟部十二箇及袖部三箇ヲ大トシ襟章二箇ヲ小トス
襟中止メ五箇胸当止メ三箇及袖口止メ五箇ハ釦色四ツ目角釦直径四分五厘トス
襟ノ裏ハ表ハ毛織ニ裏ハ毛織ニ毛皮ヲ附スルコトヲ得

肩章

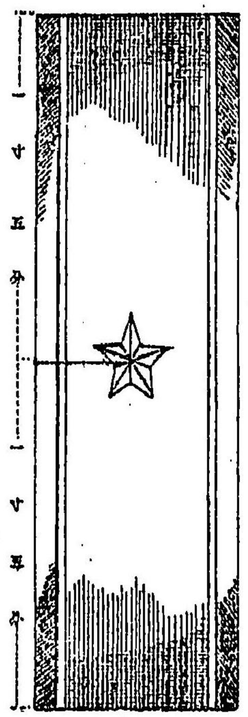
大將

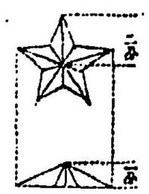


中將及同相當官



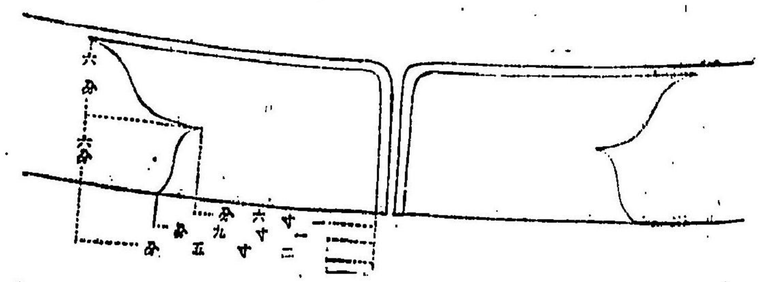
少將及同相當官





襟章

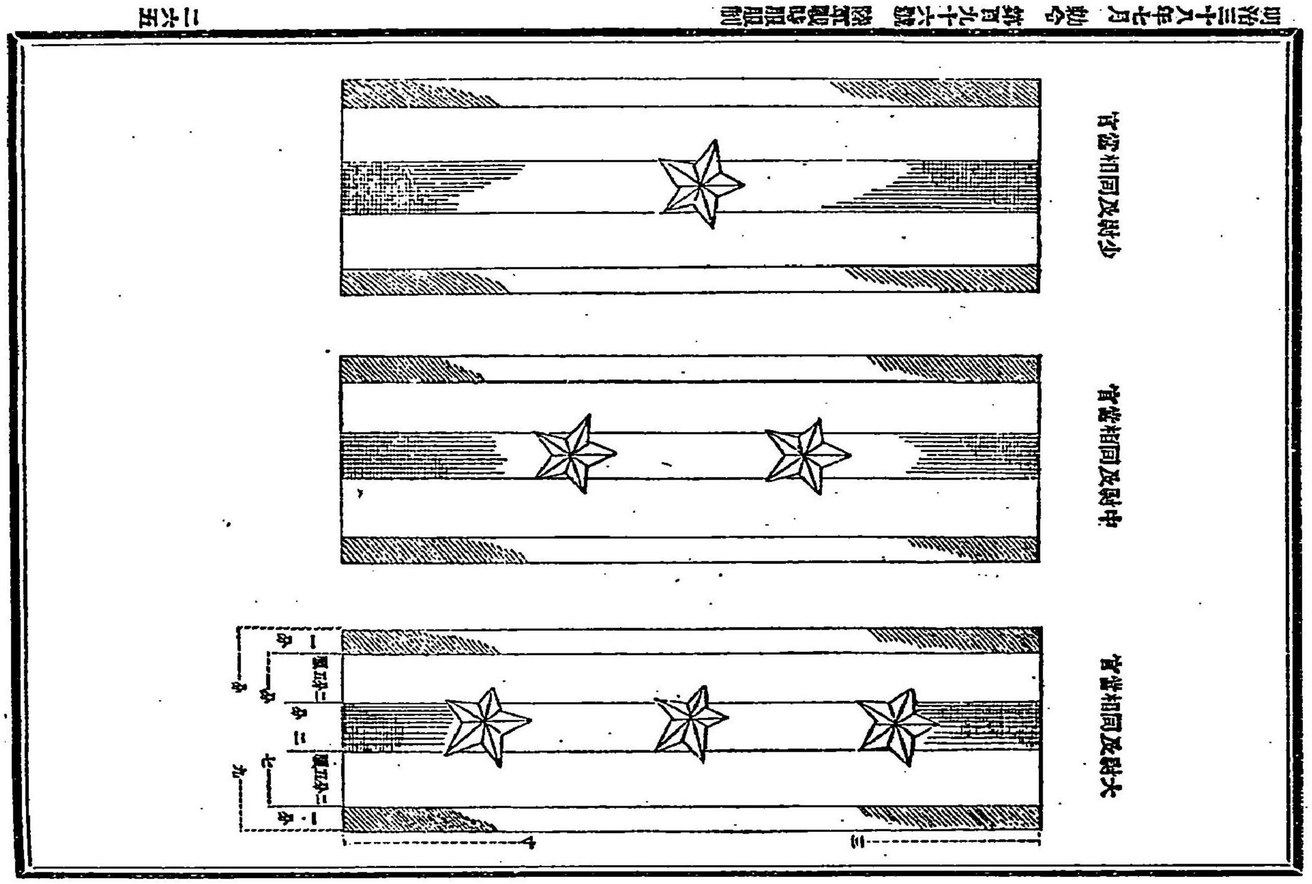
將校同相當官



明治三十八年七月勅令

特別大十六號

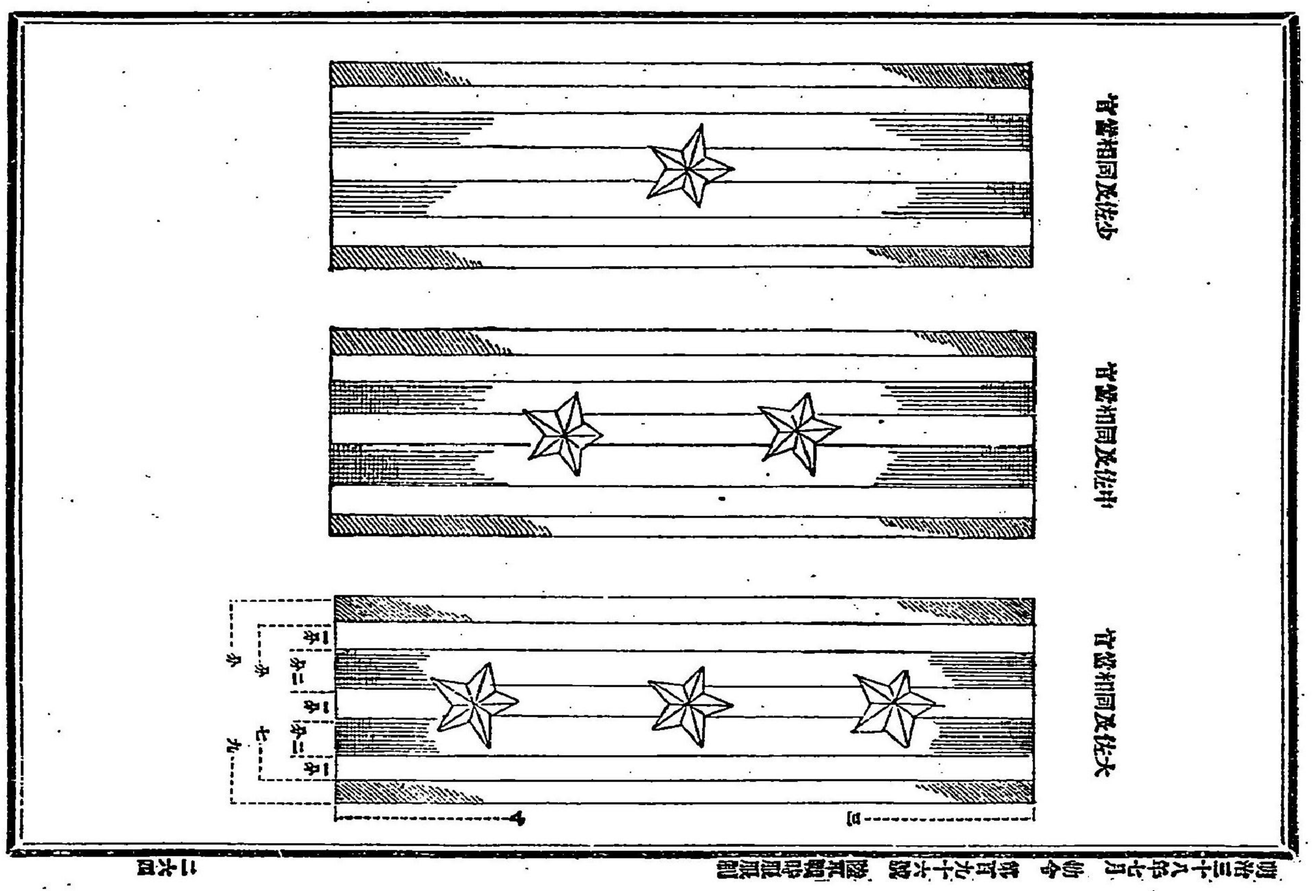
陸軍將官服制中改正



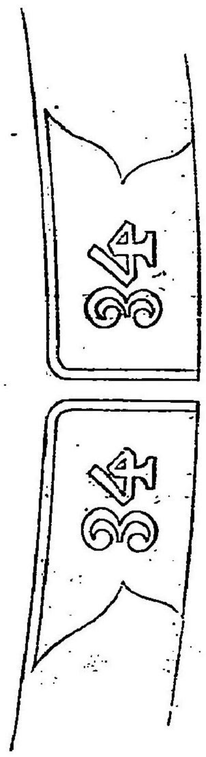
明治三十八年七月勅令

特別大十六號

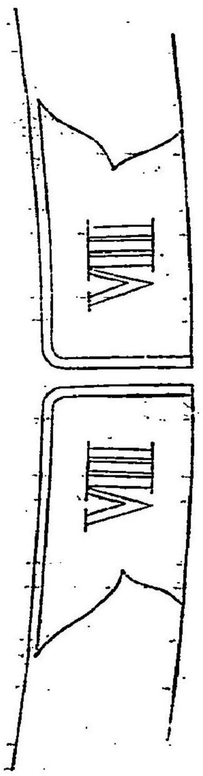
陸軍將官服制中改正



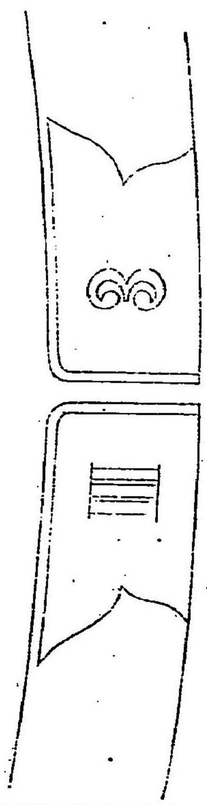
章徽部隊



官當相同機械時(少將ノ機備後)隊



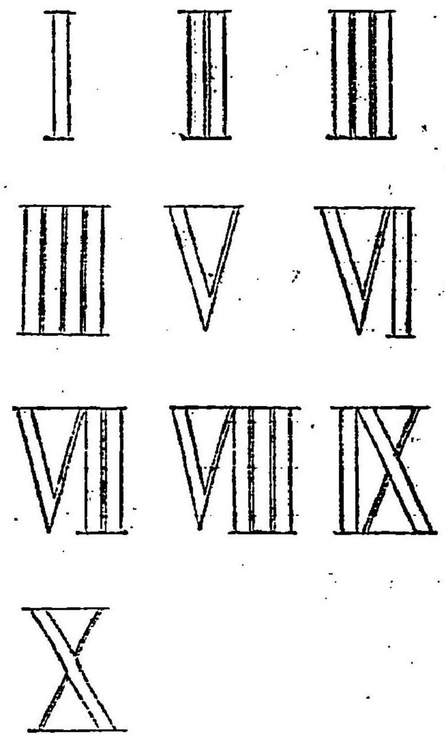
官當相同機械時(將官)隊備後



官當相同機械時(將官)民國

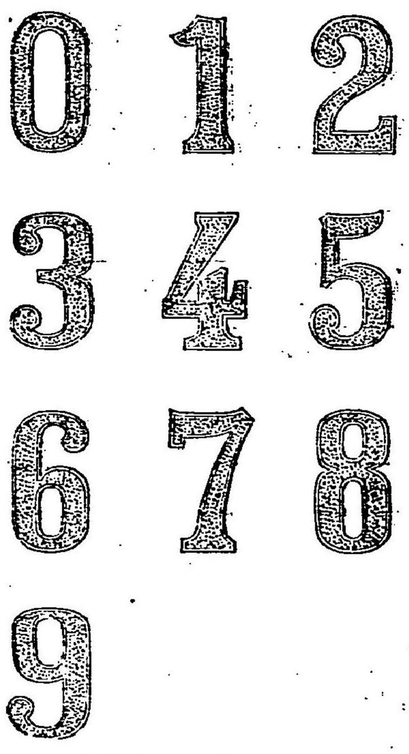
君部徽章羅馬數字

本圖ハ實物ノ大ヲ示ス



君部徽章亞則比亞數字

本圖ハ實物ノ大ヲ示ス



准士官（軍樂部ヲ除ク）服制圖例竝服制圖

時校ニ同シ但シ其ノ肩章ハ尉官ト同一ニシテ星章ヲ附セス

下士兵卒（軍樂部ヲ除ク）服制圖例竝服制圖

名稱		第二種帽	第二種帽	第二種帽	第二種帽	第二種帽
名稱		各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質		羅紗	茶羅紗	茶羅紗	茶羅紗	茶羅紗
品種		兩種	金色金屬	銀色金屬	黑革	黑革
形狀		兩種ノ上部ニ亞ル	黑革	黑革	金色金屬	銀色金屬
製式		兩種ノ上部ニ亞ル	紐製式	紐製式	心ナシ軟製トス	心ナシ軟製トス
圖		如圖	如圖	同	如圖	同
寸法		高サ二寸五分	高サ二寸五分	高サ二寸五分	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色		白	銅	同		

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	外套	外套	外套	外套	外套
名稱	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒	各兵下士兵卒
地質	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗	羅紗
品種	兩種	兩種	兩種	兩種	兩種
形狀	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル	兩種ノ上部ニ亞ル
製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式	紐製式
圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖
寸法	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス	寸法圖ニ示ス
色	銅	銅	銅	銅	銅

名稱	地質	製式	形狀
各兵各部下士兵卒（騎兵ヲ除ク）兼騎兵下士兵卒同	布	特ニ同シ但シ側章ヲ除ク	同

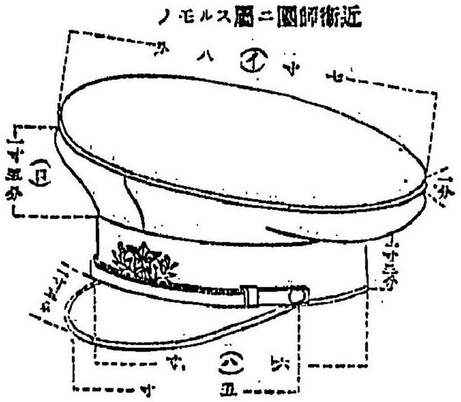
名稱	品質	製式	形狀
各兵各部下士兵卒	工兵部隊輕便鐵道部兵（黃緋線） 衛生部（深紅線） 砲兵（黃緋線） 騎兵（黃緋線） 輜重兵（黃緋線） 歩兵（黃緋線） 騎兵（黃緋線）	衣及夏衣ニ縫著ス寸法及縫著ノ位置圖ニ示ス	如圖

名稱	地質	線章	製式	形狀
各兵下士兵卒	絨	平織金線一條	金色金屬曹長及一等工長間ノ兩端ニ縫著ス軍曹及二等工長二箇軍曹及三等工長一箇寸法及縫著ノ位置圖ニ示ス	如圖
各部下士同		平織銀線一條	銀色金屬曹長軍曹相當伍長相當三箇二箇一箇	同
各兵兵卒同			黃絨上等兵一等卒三箇二等卒（雜卒）二箇一箇	同
各部兵卒同			白絨上等兵相當雜卒三箇一箇同	同

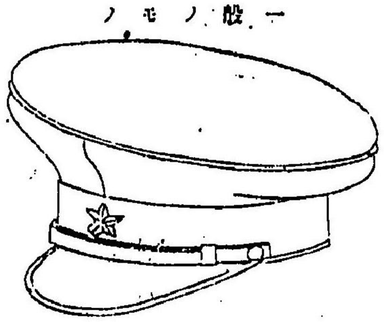
第二種帽

各兵各部下士兵卒

近衛師團ニ屬スルモノ



一般ノモノ



備考

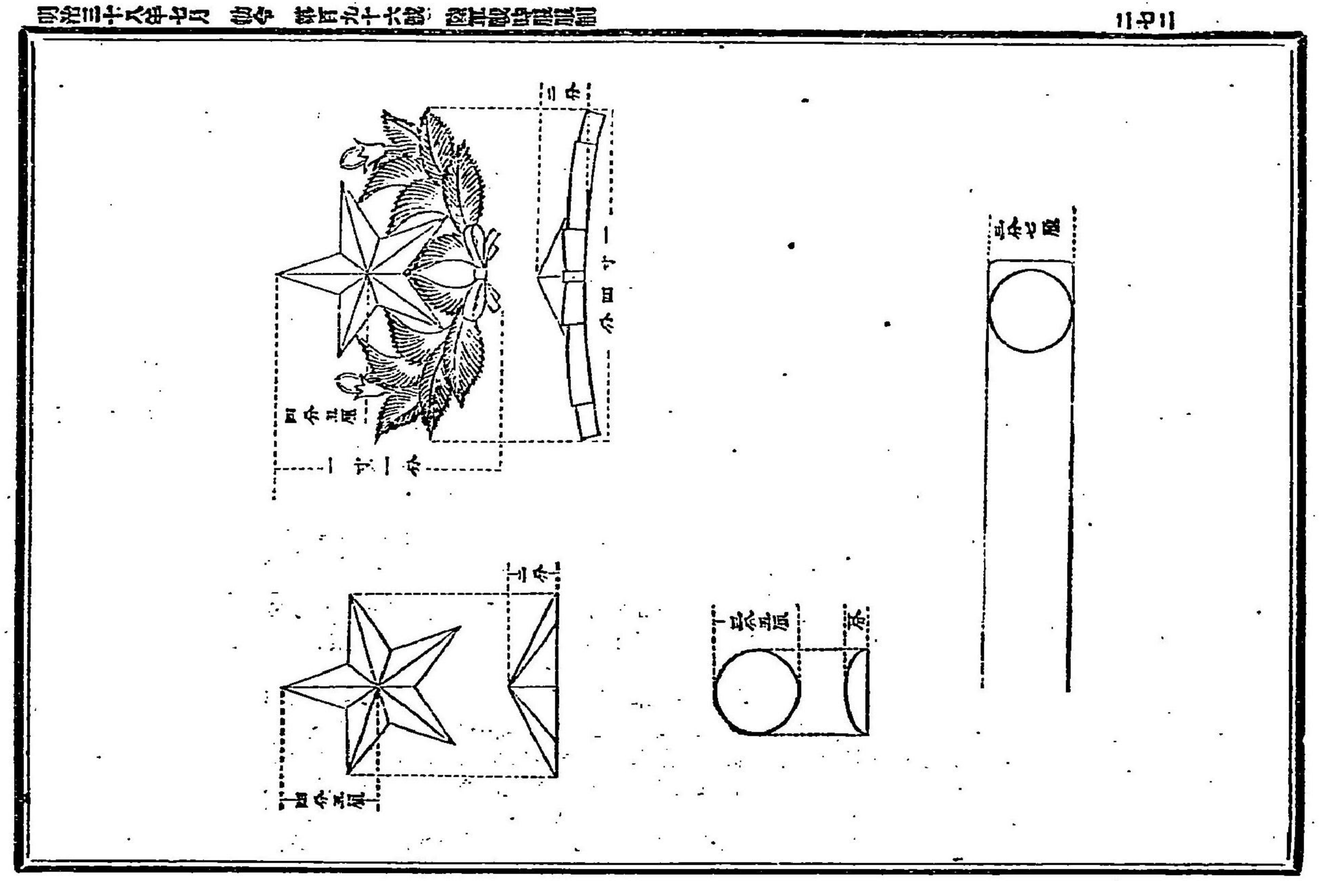
一　近衛師團ニ屬スル各兵下士兵卒ハ金色、同各部下士兵卒ハ銀色ノ金屬製徽章（聯（大）（中）隊番號ヲ表ス部ニ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

二　隊附各兵下士兵卒ハ金色、同各部下士兵卒ハ銀色ノ金屬製徽章（師管番號（亞則比亞數字）後備隊ニ在リテハ羅馬數字）ヲ聯ノ左右ニ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

三　國民軍ニ屬スル各兵下士兵卒ハ金色、同各部下士兵卒ハ銀色ノ金屬製徽章（師管番號（羅馬數字）ヲ聯ノ右ニ聯（大）（中）隊番號（亞則比亞數字）ヲ聯ノ左ニ）ヲ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

四　各兵各部下士兵卒（騎兵ヲ除ク）ノ帽ハ常ニ長帽若ハ聯枠ヲ特上ニ穿ソヘキ特別ノ場合ニ在リテハ騎兵下士兵卒ト同一ノ製式ト爲スコトヲ得

（イ）（ロ）及（ハ）ノ寸法ハ帽ノ大小ニ應シ伸縮スルモノトス



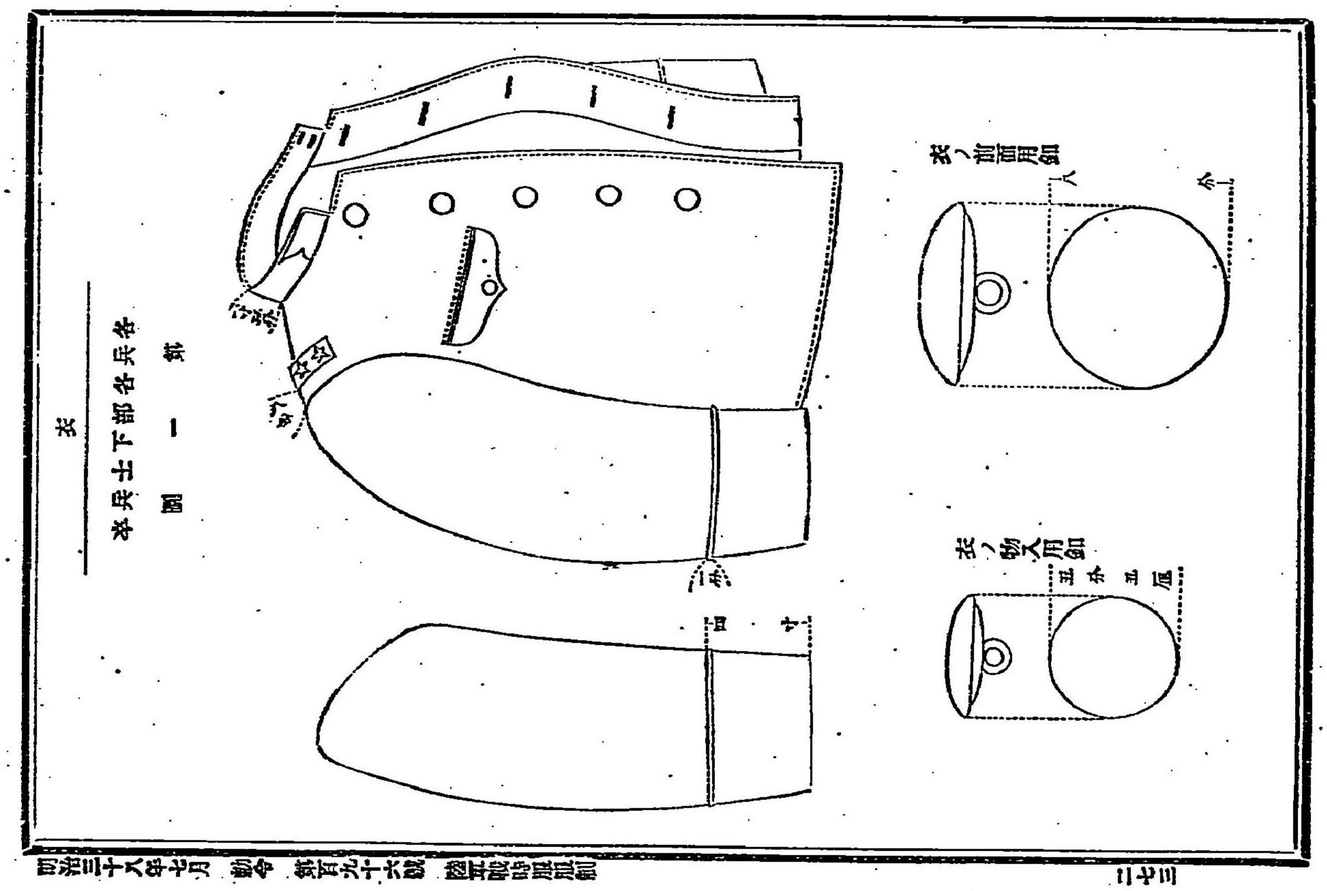
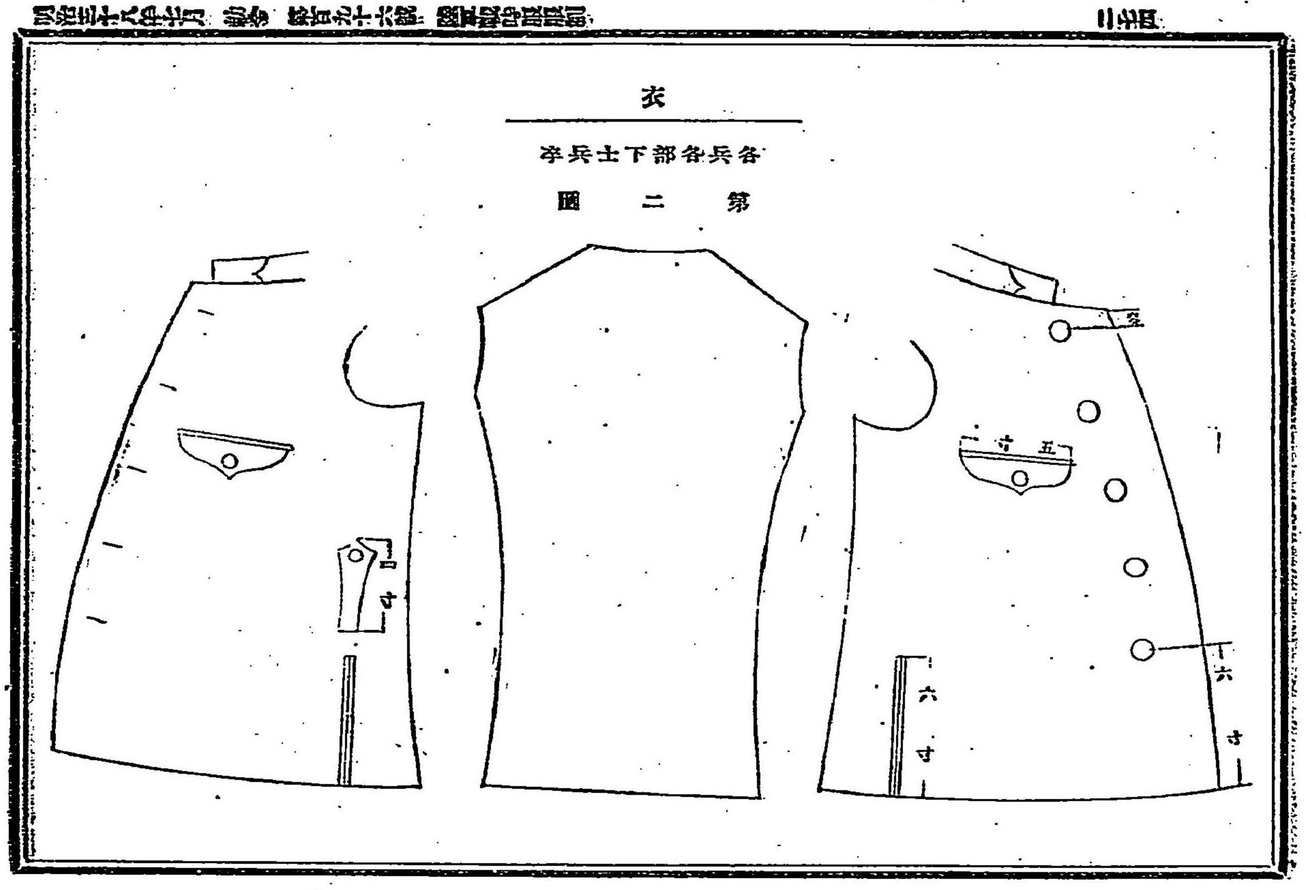
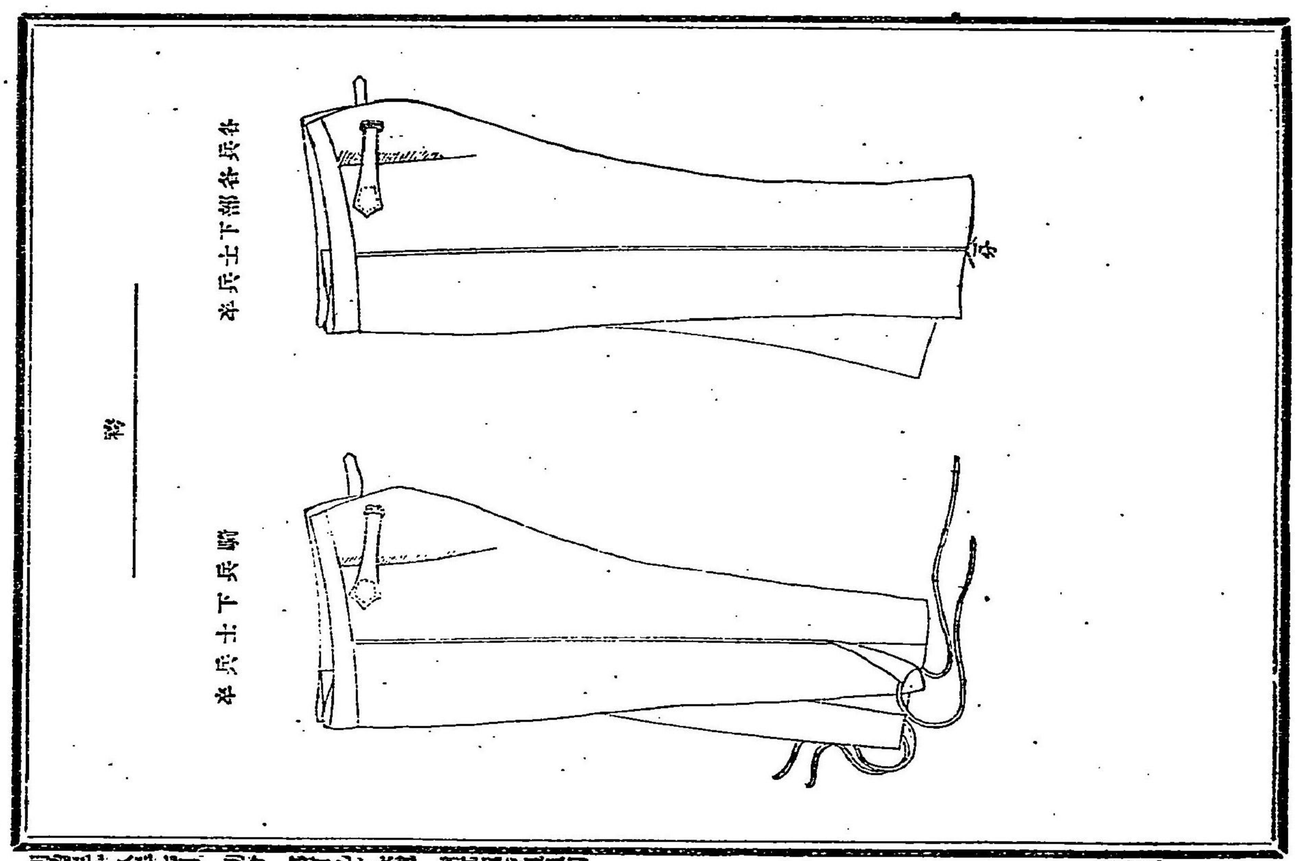
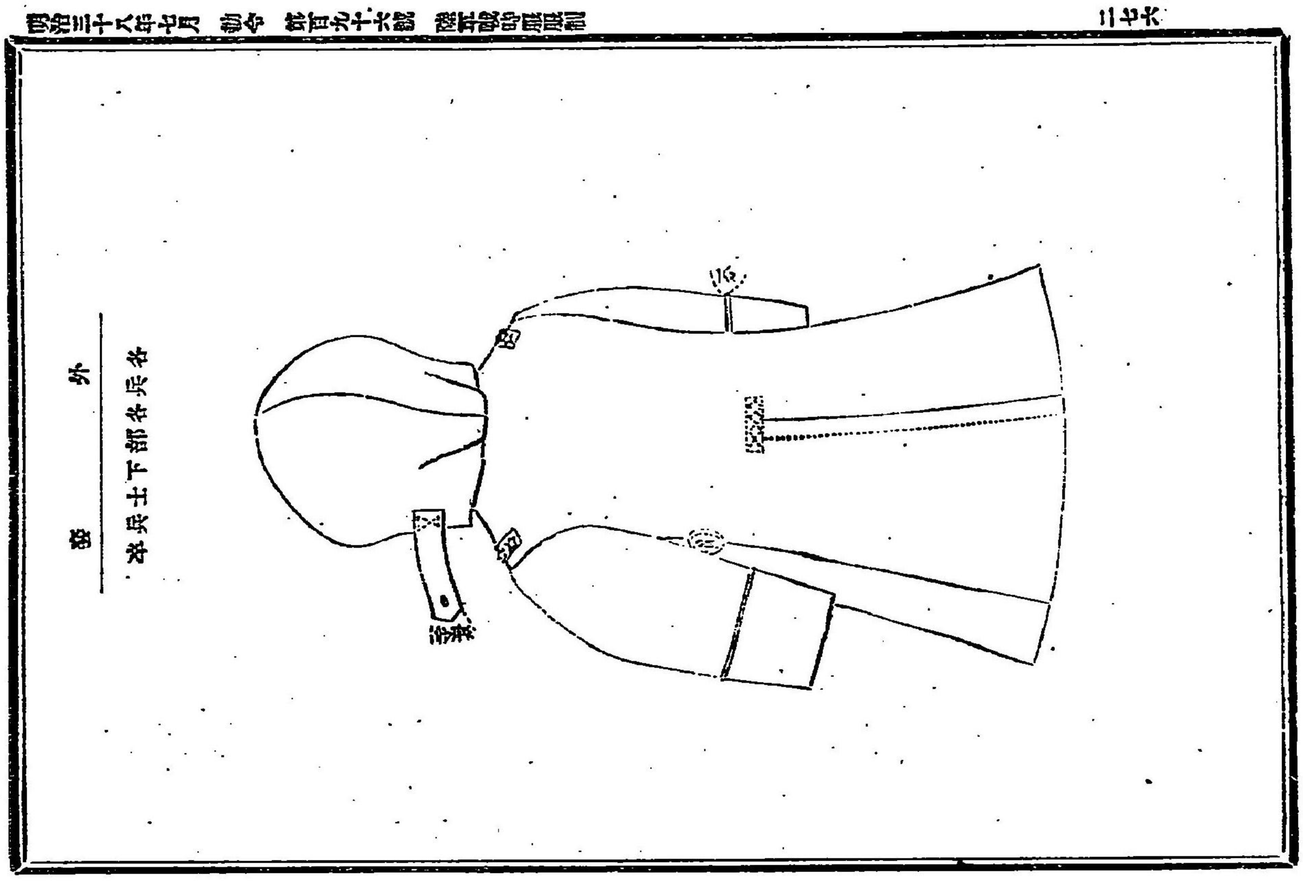
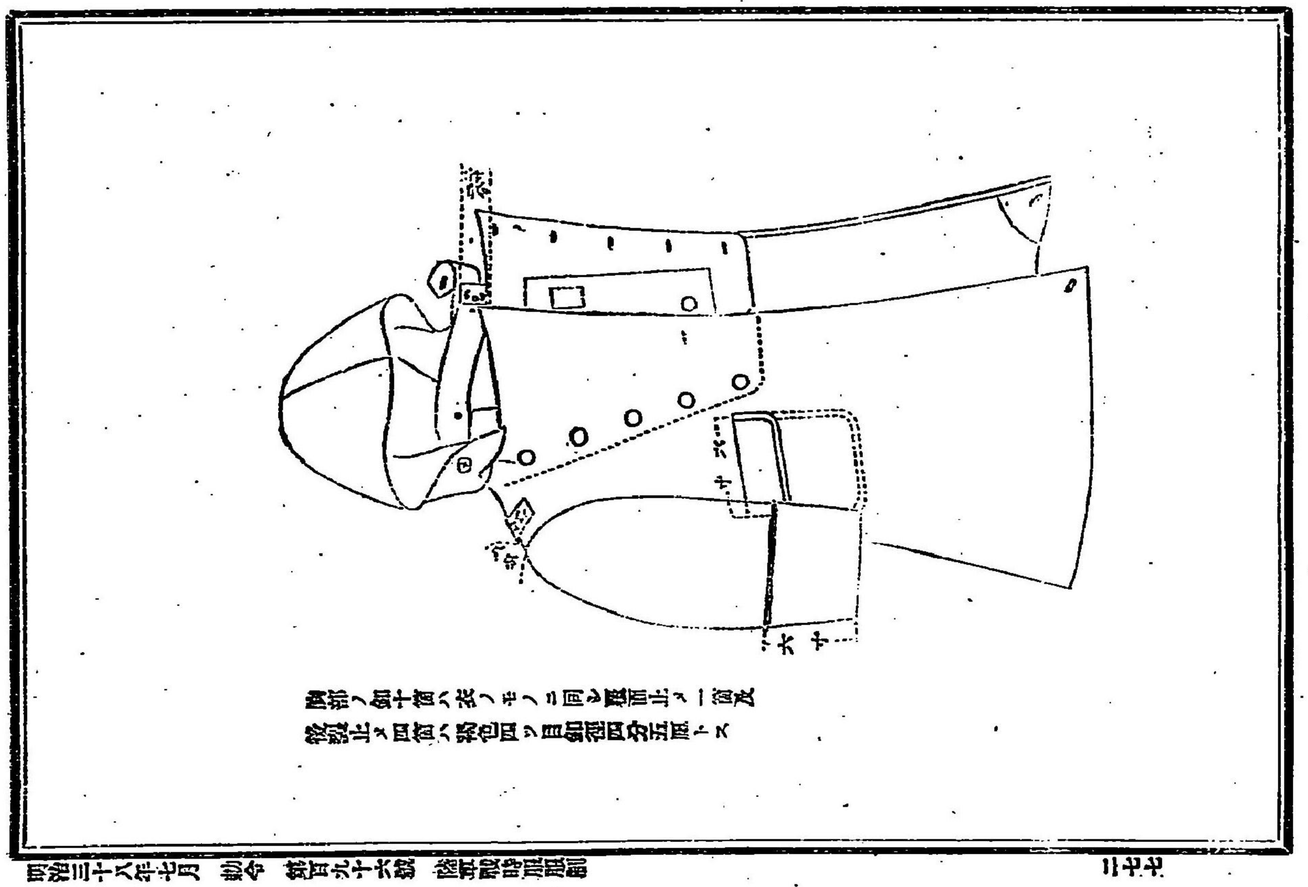


表
本兵士下部各兵各
圖一　銃
表ノ前面用釦
表ノ物入用釦


衣
各兵各部下士兵卒
第二圖
寸
五寸
六寸
六寸

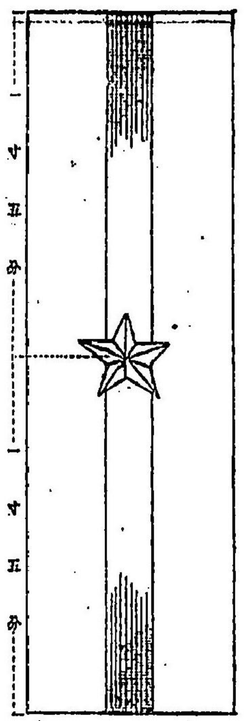

褲
各兵士下部各兵卒
各兵士下兵騎


外
各兵士下部各兵各

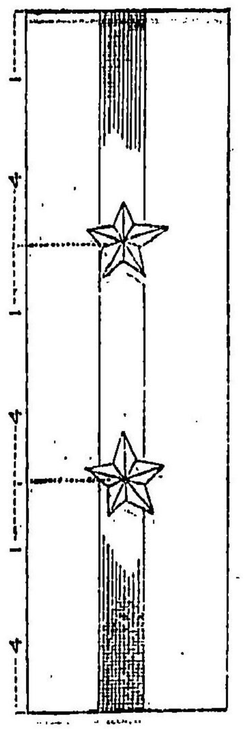


帽章

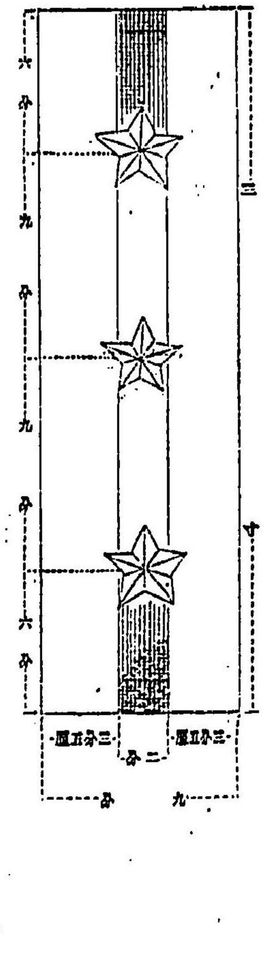
伍長及同相當下士



軍曹及同相當下士

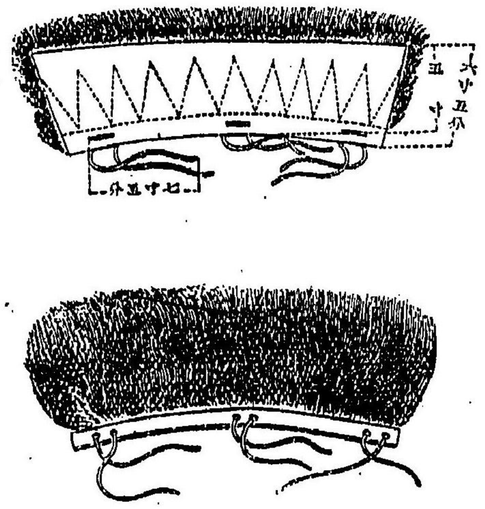


曹長及同相當下士



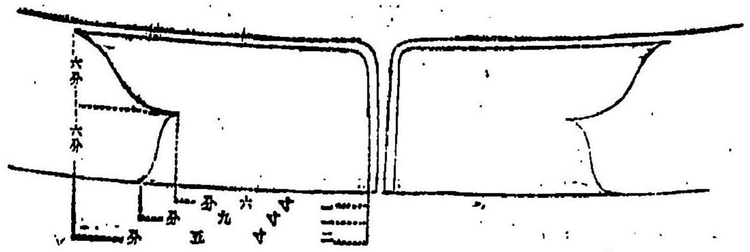
帽章

各兵各部下士兵卒

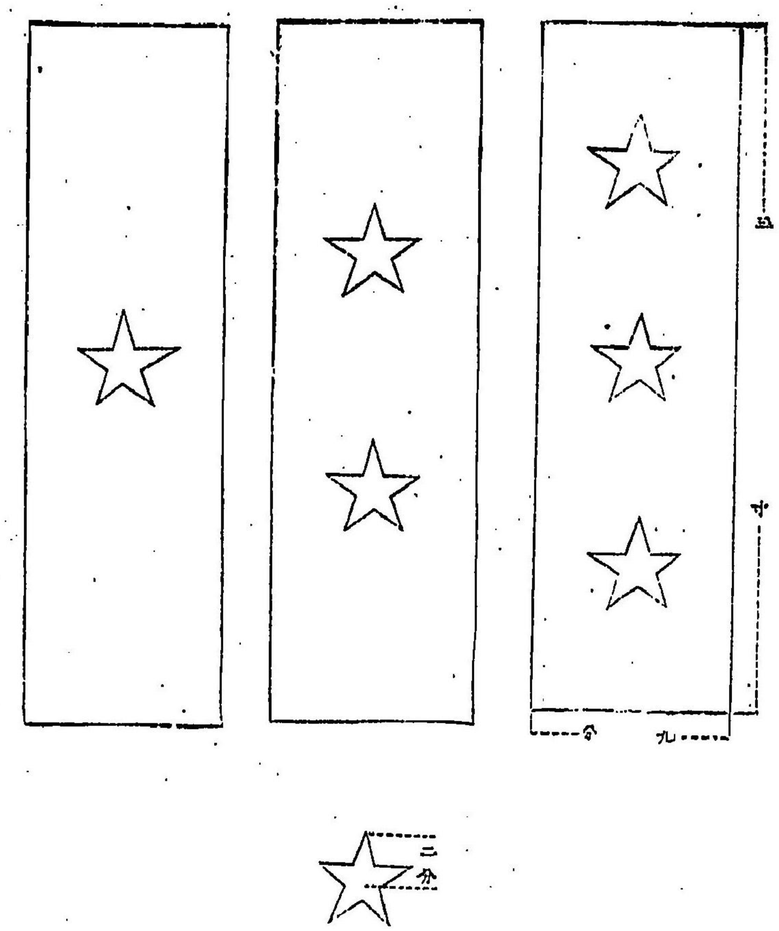


徽章

各兵各部下士兵卒

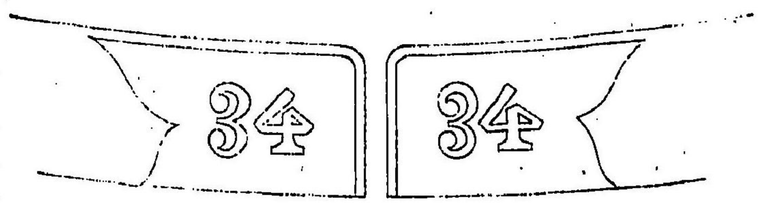


上等兵及同相當兵　　一等卒　　二等卒及輜卒

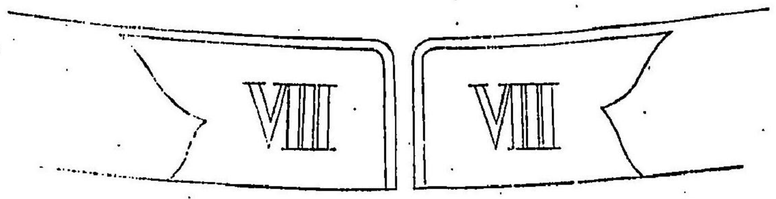


禁部徽章

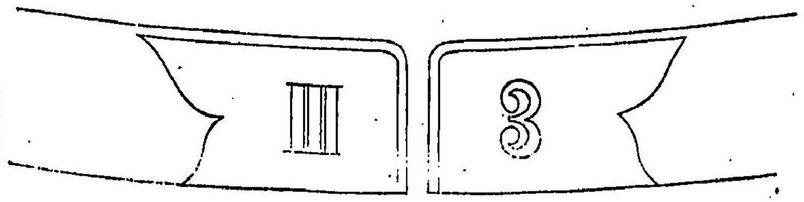
隊(後備隊ヲ除ク)附下士兵卒



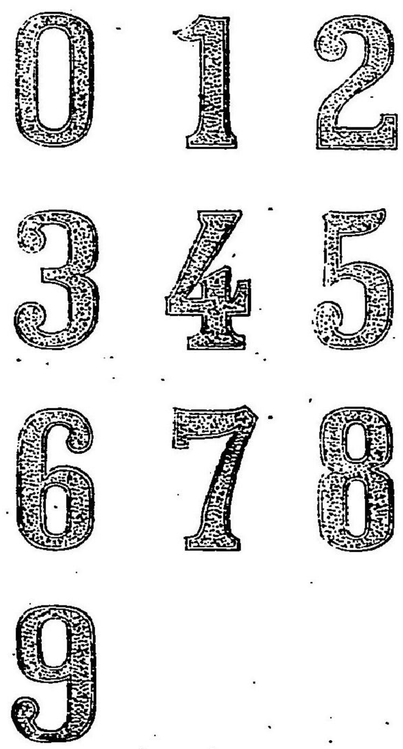
後備隊附下士兵卒



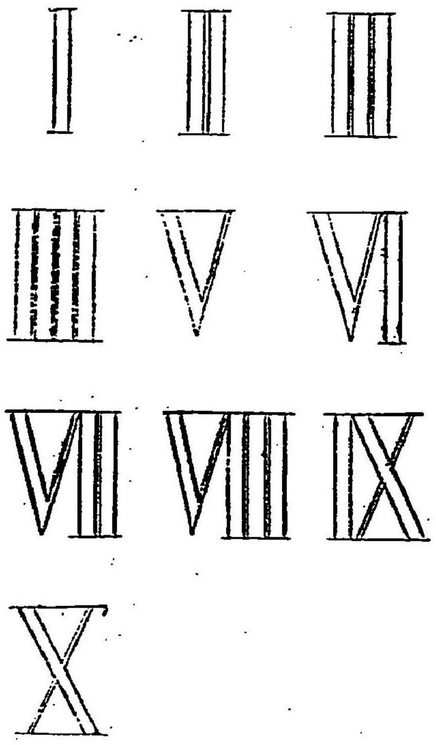
國民軍附下士兵卒



禁部徽章亞剌比亞數字



禁部徽章羅馬數字



本圖ハ實物ノ大ヲ示ス

士官下士兵徽章(平時編成生徒)服制圖例並服制圖

名稱		第二種礼服	礼服	外衣	防寒帽	帽	夏衣袴	襟章	肩章
將校官	士官(同官士官ヲ除ク)生徒	各階級ニ同シ				但將官ニ同シ帽ヲ附セス	士官階級ニ同シ歩騎兵科ノ下士兵卒ニ同シ		
將校官	見習士官(見習士官ヲ除ク)生徒	各階級ニ同シ歩兵科下士兵卒ニ同シ				但將官ニ同シ帽ヲ附セス	兵卒階級ニ同シ歩兵科下士兵		
一年志願兵		各階級ニ同シ歩騎砲工輜重兵科ノ下士兵卒ニ同シ但シ襟章ノ縁線ニ赤白毛ノ縁線ヲ附ス形狀圖ノ如シ							
見習士官	見習士官(見習士官ヲ除ク)生徒	一般將校ニ同シ				但平帽ニ同シ帽ヲ附セス	一般將校ニ同シ		
地中海沿岸少年學校生徒		各兵ニ準ズ襟章及肩章ノ星章ヲ除ク							
砲兵工科學校生徒	騎兵科學校生徒	各兵ニ準ズ襟章及肩章ノ星章ヲ除ク							

備考

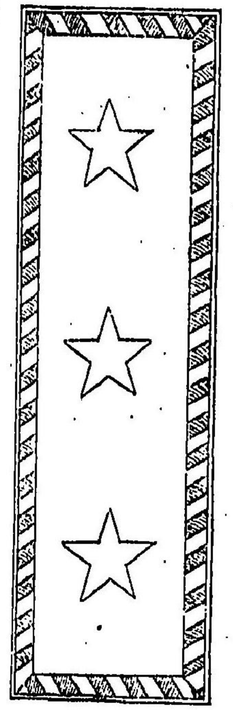
一　將校官ノ夏服ノ襟章ハ各兵科下士兵卒ニ同シ但シ國民軍ノ將校ノ襟章ハ各兵科ノ下士兵卒ニ同シ但シ國民軍ノ將校ノ襟章ハ銀ノ右ニ附スル將校ノ襟章ヲ除ク

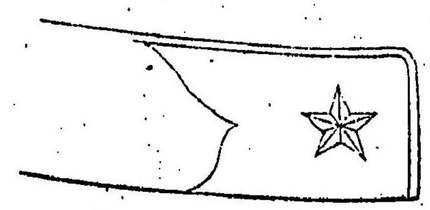
二　各兵科士官候補生、主計候補生、一年志願兵中主計生、獸醫生、獸醫候補生、見習士官、見習主計、見習獸醫官、見習獸醫官候補生、各兵科候補生、後備歩兵科士官、後備騎兵科士官、後備砲兵科士官、後備工兵科士官、後備輜重兵科士官、後備獸醫官、後備獸醫官候補生、後備歩兵科士官候補生、後備騎兵科士官候補生、後備砲兵科士官候補生、後備工兵科士官候補生、後備輜重兵科士官候補生、後備獸醫官候補生、見習士官候補生、見習主計候補生、見習獸醫官候補生ノ服制ハ將校ノ服制ニ準ス但シ襟章ノ縁線ヲ赤ニ代ヘ肩章ノ星章ヲ除ク

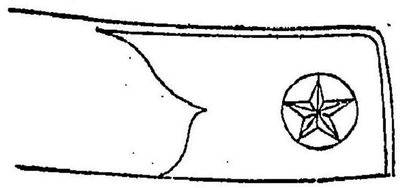
三　臨時獸醫候補生ノ服制ハ主計候補生ニ、見習獸醫ノ服制ハ見習主計ニ同シ

一年志願兵肩章

上等兵ノ階級ニ在ル者ヲ示ス







本圖ハ實物ノ次ヲ示ス

士官候補生
主計候補生
見習醫官
見習藥劑官
見習獸醫官

予後備役見習士官
主計生及予後備役見習主計
軍醫生及予後備役見習醫官
藥劑生及予後備役見習藥劑官
獸醫生及予後備役見習獸醫官
（圖座上ニ星章ヲ附ス）

徽部徽章

附則

陸軍戰時服服制ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ平時ニ在リテモ之ヲ使用スルコトヲ得

明治三十七年勅令第二十九號ハ之ヲ廢止ス但シ當分ノ內同令ノ制服ヲ用ウルコトヲ得

〔參照〕

明治三十七年二月十二日官報　勅令第二十九號ハ戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル陸軍服制ニ關スル件ナリ

○

朕農商務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月十五日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
農商務大臣男爵清浦奎吾

勅令第百九十七號（官報　七月十七日）

農商務省官制中左ノ通改正ス

第四條中「局所」ヲ「五局」ニ改メ「地質調査所」ヲ削ル

第八條ニ左ノ二項ヲ加フ

鑛山局ニ地質調査所ヲ置キ地質調査ニ關スル事項ヲ掌ラシム

地質調査所長ハ農商務技師ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　削除

〔參照〕
勅令第二百八十二號農商務省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄
第四條　農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク
農務局
樹工局
山林局
鑛山局
水産局
地質調査所
第十一條　地質調査所ニ於テハ地質、地形、油田及分析ニ關スル事務ヲ掌ル
所長ハ農商務省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

○

朕陸軍補充兵ヲ以テ下士ニ補充シ及雜卒ヲ兵卒ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣寺内正毅

御名御璽

明治三十八年七月二十日

勅令第百九十八號（官報　七月二十一日）

第一條　動員ヲ行ヒタル部隊ハ必要ニ應シ補充兵役ニ在ル上等兵及看護手中優秀ニシテ下士タルニ充分ナル技能ヲ有スル者ヲ以テ當該兵科部下士（砲兵諸工長ヲ除ク）ノ補充ヲ爲スコトヲ得其ノ手續ハ陸軍補充條例第百六十條ノ例ニ依ル

第二條　前條ニ依リ下士ニ任セラレタル者ハ前服役ヲ通算シテ七年四箇月ニ滿タサル者ハ七年四箇月ニ滿ツル迄豫備役ニ、十二年四箇月ニ滿タサル者ハ十二年四箇月ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

第三條　動員ヲ行ヒタル部隊ニ屬スル雜卒中優秀ニシテ同兵科部兵卒ト同等ノ技能ヲ有シ其ノ勤務ニ適スル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ同兵科部ノ兵卒ト爲スコトヲ得但シ之カ爲其ノ在營及服役期限ヲ變スルコトナシ

第四條　雜卒出身ノ上等兵又ハ看護手ヲ以テ陸軍補充條例又ハ第一條ニ依リ下士ノ補充ヲ爲スハ二年四箇月以上服役シタル者ニ限ル

第五條　雜卒（補充兵役ニ在ル者ヲ除ク以下同シ）出身ノ上等兵及看護手ニシテ志願ニ依ラスシテ下士ニ任セラレタル者ハ其ノ服役期限ヲ變スルコトナシ

警備隊現役上等兵及看護手ニシテ志願ニ依ラスシテ下士ニ任セラレ復員ノ際服役期限三箇年ニ滿タサル者ハ退營セシメ其ノ服役ニ付テハ三箇年ニ滿ツル迄歸休兵ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　補充兵及雜卒出身ノ下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令ニ依リ官ヲ免セラレタルトキハ當該兵科ノ一等卒（看護卒出身ノ者ニト爲シ補充兵出身ノ者ニ在リテハ前服役ヲ通算シテ十二年四箇月ニ滿ツル迄補充兵役ニ服セシメ其ノ他ノ者ニ在リテハ前服役ヲ通算シテ七年四箇月ニ滿タサル者ハ七年四箇月ニ滿ツル迄豫備役ニ、十七年四箇月ニ滿タサル者ハ十七年四箇月ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

前項ノ規定ハ補充兵役ニ在ル上等兵及雜卒出身ノ上等兵ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令ニ依リ其ノ職ヲ免セラレタル者ニ之ヲ準用ス但シ現役者ニ在リテハ第三條ノ例ニ依リ二年四箇月ニ滿ツル迄現役ニ服セシム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ捕獲審檢令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年七月二十九日

内閣總理大臣
兼外務大臣伯爵桂　太郎
海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第百九十九號（官報　七月三十一日）

捕獲審檢令第三條第一項中「八人」ヲ「十人」ニ、同第三項中「外務省政務局長」ヲ「外務省政務局長、二人ハ其ノ他ノ高等行政官」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百四十九號捕獲審檢令（明治二十七年八月二十一日官報）抄錄

第三條第一項及第三項

高等捕獲審檢所ニ長官一人及評定官八人ヲ置ク

評定官ノ中一人ハ樞密顧問官、二人ハ海軍將官、三人ハ大審院ノ判事、一人ハ法制局長官、一人ハ外務省政務局長ヲ以テ之ニ補ス

○

朕明治三十七年勅令第二百三十二號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年八月十一日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

大蔵大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百號（官報 八月十二日）

明治三十七年勅令第二百三十二號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十七年六月十一日官報 勅令第二百三十二號ハ臨時金融調査ノタメ大蔵省ニ職員ヲ置クノ件ナリ

○

朕政府ニ於テ産業組合ヨリ物品ノ買入ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年八月十七日

農商務大臣男爵清浦奎吾

大蔵大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百一號（官報 八月十八日）

政府ニ於テ産業組合ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○

朕政府ニ於テ建築工作其ノ他直接事業ニ要スル材料ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百二號（官報 九月四日）

政府ニ於テ建築、工作其ノ他直接ニ從事スル事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附則

明治二十九年勅令第三百十七號同年勅令第三百五十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十九年十月三日官報勅令第三百十七號ハ陸軍兵營及藥莢・取拔所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ノ件同年十月二十日官報勅令第三百五十四號ハ遞信省ニ於テ鐵道電信電話事業ニ要スル材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ノ件ナリ

○

朕判事檢事官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月五日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
司法大臣　波多野敬直

勅令第二百三號（官報　九月六日）

判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「五百九十六人」ヲ「六百三人」ニ改ム

〔參照〕
明治三十二年四月十八日勅令第百五十三號判事檢事官等俸給令第二條中五百九十六人ハ區裁判所判事ノ定員ナリ

○

朕裁判所書記長書記定員及俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月五日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
司法大臣　波多野敬直

勅令第二百四號（官報　九月六日）

裁判所書記長書記定員及俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「三千七百四人」ヲ「三千七百三十三人」ニ改ム

〔參照〕
明治二十六年十月三十日勅令第百七十七號裁判所書記長書記定員及俸給令第二條中三千七百四人ハ區裁判所及區裁判所檢事局裁判所書記ノ定員ナリ

○

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ東京府内一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
兼外務大臣
海軍大臣男爵山本權兵衛
内務大臣子爵芳川顯正
農商務大臣男爵清浦奎吾
大藏大臣男爵曾禰荒助
陸軍大臣　寺内正毅
司法大臣　波多野敬直
遞信大臣　大浦兼武
文部大臣　久保田讓

勅令第二百五號

東京府内一定ノ地域ヲ限リ別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ新聞紙雜誌ノ取締ニ關

スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月六日

内閣總理大臣兼外務大臣　伯爵桂太郎
海軍大臣　男爵山本權兵衛
内務大臣　子爵芳川顯正
農商務大臣　男爵清浦奎吾
大藏大臣　男爵曾禰荒助
陸軍大臣　寺内正毅
司法大臣　波多野敬直
逓信大臣　大浦兼武
文部大臣　久保田讓

勅令第二百六號

第一條　新聞紙又ハ新聞紙條例ニ依ル雜誌ニシテ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ若ハ朝憲ヲ紊亂セントスル事項又ハ騷擾ヲ教唆シ犯罪ヲ煽動スルノ虞アル事項ヲ記載シタルトキハ内務大臣ハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押ヘ且以後ノ發行ヲ停止スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ停止シタル場合ニ於テ内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ其ノ停止中ニ限リ同一人又ハ同一社ノ發行ニ係ルモノト認ムル他ノ新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ停止スルコトヲ得

第三條　發行停止ヲ犯シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發賣頒布シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　新聞紙條例第三十五條及第三十六條ノ規定ハ本令ノ犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

第五條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕明治三十八年勅令第二百五號ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月六日

内閣總理大臣伯爵桂太郎
陸軍大臣　寺内正毅

勅令第二百七號

明治三十八年勅令第二百五號ニ依リ左ノ區域ニ戒嚴令第九條及第十四條ノ規定ヲ適用ス但シ同條中司令官ノ職務ハ東京衛戍總督之ヲ行フ

東京市　荏原郡　豐多摩郡　北豐島郡　南足立郡　南葛飾郡

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕憲兵科ノ者ヲシテ憲兵ノ勤務ヲ補助セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛
內務大臣子爵芳川顯正
陸軍大臣　寺內正毅
司法大臣　波多野敬直

勅令第二百八號

第一條　衛戍總督又ハ衛戍司令官ハ乘馬兵科ノ者ヲ憲兵司令官、憲兵隊長若ハ憲兵分隊長ノ指揮ニ屬シ憲兵ノ勤務ヲ補助セシムルコトヲ得

第二條　憲兵ノ勤務ヲ補助スル者ニ付テハ憲兵條例ヲ準用ス

第三條　憲兵ノ勤務ヲ補助スル者ノ服裝ハ當該兵科ノ者ニ異ルコトナシ但シ左腕ニ赤布ヲ纏フ

○

朕海軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百九號

海軍給與令中左ノ通改正ス

第三十九條中「第八表ニ依リ」ヲ「第八表ニ依リ甲ノ」ニ改ム

第三十九條ノ二　潤水艇ノ乘員、艇又ハ冊艦ニ宿泊スルコト能ハサル場合ニ於テ上陸宿泊ヲ命セラレタルトキハ第八表ニ依リ乙ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十條中「前條」ヲ「前二條」ニ改ム

第八表ヲ左ノ如ク改ム

第八表　宿舍手當表

日額													
甲													
中將	少將	大佐	中少佐及大尉及相當官	中少尉及准士官及相當官	准士官	班長及傳人							
一圓六十錢	一圓八十三錢	七十錢	五十錢	四十五錢	四十錢	二十五錢	二十錢						
乙													
上長官	士官	兵曹長及相當官	准士官	下士	卒	傳人							
七十錢	六十錢	四十五錢	四十錢	三十錢	二十五錢	二十錢							

一、准士官以上及一等下士ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ額ヲ給ス

二、潤水在勤ノ高等文官ニハ本表甲ノ官等ニ相當スル額ヲ給ス但シ九等ハ中少尉及相當官ノ額ニ依ル

○

朕明治三十二年勅令第三百四十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百十號（官報　九月二十一日）

明治三十二年勅令第三百四十二號中左ノ通改正ス

第二條　若松港ニ於テハ左ノ物品ニ限リ輸入ヲ爲スコトヲ得

生卵

米粃、大麥、小麥、燕麥、玉蜀黍及豆類
鐵鑛
銑鐵
肥料

附　則

本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
明治三十二年七月十三日官報　勅令第三百四十二號ハ開港及開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ指定ニ關スル件ナリ

○

朕大藏省臨時建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月二十六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百十一號（官報　九月二十七日）

大藏省臨時建築部官制

第一條　大藏省臨時建築部ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ煙草專賣及鹽專賣ニ要スル臨時建築事務ヲ掌ル

第二條　大藏省臨時建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人		
事務官	專任一人	奏任	内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
技師	專任五人		
屬	專任十五人	判任	
技手	專任五十五人		

第三條　大藏省臨時建築部長ハ大藏省高等官又ハ大藏省臨時建築部技師ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　大藏省臨時建築部長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部務ヲ掌ル

第五條　事務官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌ル

第六條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ大藏省臨時建築部出張所ヲ設クルコトヲ得

附　則

第十條　本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時煙草製造準備局官制及明治三十八年勅令第十二號ハ之ヲ廢止ス

第十一條　臨時煙草製造準備局ニ屬スル殘務ニシテ同局官制第三條ニ該當スル事務ハ煙草專賣局ニ於テ、第四條第一號ニ該當スル事務ハ大藏省臨時建築部ニ於テ之ヲ取扱ハシム

〔參照〕
明治三十八年一月一日官報　勅令第十二號ハ臨時專賣ノ準備ニ要スル建築事務ニ關スル職員ノ件ナリ

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年九月二十六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百十二號（官報　九月二十七日）

高等官官等俸給令中「臨時煙草製造準備局事務官」ヲ「大藏省臨時建築部事務官」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕憲兵條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛
内務大臣男爵清浦奎吾
陸軍大臣　寺内正毅
司法大臣　波多野敬直

勅令第二百十三號（官報　十月六日）

憲兵條例中左ノ通改正ス

第二十一條中「隊附士官」ヲ「隊附士官、憲兵准士官以下」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百三十七號憲兵條例（明治三十一年十一月三十日官報）抄錄

第二十二條　警察ノ内憲兵隊長副官、分隊長隊附士官ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充フルコトヲ得其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

○

朕事實際特別定價賣渡及交付金下付規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百十四號（官報　十月九日）

專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則中左ノ通改正ス

第一條第二號中「曹達」ノ上ニ「鹽酸」ヲ、第三號中「肥料」ノ下ニ「選種」ヲ加フ

第五條第一項中「溜醬油釀造又ハ」ヲ削ル

第六條第一號乃至第六號ヲ左ノ如ク改ム

一　鹽酸曹達、硫酸曹達製造用

酸性硫酸曹達	三
石油	〇、五
發煙鹽酸	二、五
苛性曹達	二、五
純硫酸	二
硫酸曹達	六

二　晒粉製造用

純硫酸	二
滿俺鑛	一、五

三　石鹼製造用

石油	〇、五
的列並油	〇、三
石鹼粉末	一、五

椰子油	五
無水炭酸曹達	五

四　肥料、選種用

硫酸曹達	一〇ニ次	四ヲ混シタルモノ
石灰	一〇ニ次	四ヲ混シタルモノ
沃度副產鹽	三〇ニ次	四ヲ混シタルモノ

五　獸皮保存用

石油	〇、五
石鹼粉末	一、五

六　鑛業用

滿俺鑛	一、五
石灰	一〇
硫酸鐵	四
金、銀、銅鑛ノ粉末又ハ其ノ汰物	五
石油	〇、五
硫化鐵	五
木炭粉末	二、五
石炭粉末	二、五

第十二條第三項中「金十一錢五厘」ヲ「金十七錢」ニ改ム

第十五條　第一條第一號又ハ第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以内ニ稅務署又ハ鹽務局ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣渡ノ日ヨリ一箇年以内ニ鹽全部ノ使用濟證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年毎ニ稅務署又ハ鹽務局ノ承認ヲ申請シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

第十七條中「第十五條」ヲ削ル

第十八條　第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ其ノ鹽ノ全部ヲ漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタルトキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徵金ヲ納付シタルトキ之ヲ解除ス

第十九條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　第一條第一號、第二號、第四號及第五號ノ用途ニ使用シタルトキ

鹽　百斤ニ付金一圓三十錢

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

味噌ヲ以テ溜醬油ヲ釀造シタル者ハ其ノ使用シタル味噌百斤ニ付金十七錢ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二十二條、第十九條ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ同條第一項第三號ノ場合ニ於テ鹽使用證明書ヲ、同條第二項ノ場合ニ於テハ味噌使用證明書ヲ申請書ニ添附シ之ヲ使用地所轄鹽務局ニ提出スヘシ

第一條第二號、第四號及第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ鹽變性證明書ヲ以テ前項ノ鹽使用

證明書ニ代フルコトヲ得

第十九條第二項第三號ノ用途中溜醬油ヲ釀造シタル場合ニ於テハ第十二條第二項、第三項及第十七條ヲ準用ス

第二十三條第一項中「醬油査定證明書」ヲ「味噌使用證明書」ニ「鹽使用又ハ醬油査定ノ際」ヲ「鹽又ハ味噌使用ノ際」ニ改ム

第二十七條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ輸出後第一條第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ用途ニ使用シタル鹽又ハ第十九條第二項ノ味噌ニ付テハ使用後六箇月ヲ經過シテ出願シタルトキ

同條第二號中「第一號乃至第五號」ヲ「第一號第二號、第四號及第五號」ニ改メ「使用スル鹽」ノ下ニ「又ハ第十九條第二項ノ味噌」ヲ加フ

附　則

本令ハ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百五十七號專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則（明治三十八年五月九日官報）抄錄

第一條　鹽專賣法第十九條第一項第二號ニ依リ特別定價ヲ以テ賣渡スコトヲ得ル鹽ハ左ノ用途ニ使用スルモノニ限ル

一　醬油釀造、醬油、石鹼製造用

二　肥料用

三　漁獲物鹽藏又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ賣渡請求者ハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ擔保ヲ提供スヘシ

第六條　特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ニシテ第一條第二號及第五號ノ用途ニ使用セラルルモノニ付テハ鹽務局ハ其ノ用

途ニ從ヒ實費入ノ費用ヲ以テ鹽ノ數量百ニ對シ左ノ割合以上左記物品ノ一ヲ混和シ鹽ノ鹽性ヲ變スヘシ

一　曹達又ハ硫酸曹達製造用　三
酸性硫酸曹達　〇、三
石油　二、五
硫酸鐵　二、五
曹性曹達　二
純硫酸

二　硝粉製造用　二
純硫酸　一、五
硝酸

三　石鹼製造用　〇、三
石油　〇、三
的列並油　一、五
石鹼粉末　五
椰子油
無水炭酸曹達

四　肥料用　五
蝶

五　獸皮保存用　二
水炭粉末　二、五
石油
石鹼粉末　〇、三
硫酸鐵　一、五
水炭粉末　四
酸化鐵　二、五
蝶　〇、三

六　鹽業用　二
水炭粉末　二、五
石油　〇、三

石炭粉末　二、五
瑞炭粉末　二、五
蝶　二

第十二條　第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ其ノ用途ニ使用セムトスルトキハ其ノ數量使用ノ場所及日時ヲ定メ使用地所轄稅務署ニ使用ノ承認ヲ申請シ使用濟證明書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受ケタル者溜醬油ヲ釀造シタル場合ニ於テ所轄稅務署カ醬油ノ査定ヲ爲スニ當リ殘存スル味噌アルトキハ其ノ數量ヲ査定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣渡鹽務局ハ殘存味噌百斤ニ付金十一錢五厘ノ割合ノ金額ヲ溜醬油釀造者ヨリ追徵ス

第十五條　第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ稅務署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付稅務署ノ承認ヲ申請シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ承認ヲ受ケタル前項ノ場合ニ於テ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ鹽使用濟證明書ヲ提出スヘシ

第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以內ニ鹽務局ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽務局ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ使用シタル鹽ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタルコトヲ認メタルトキハ賣渡鹽務局ハ其ノ不足額ニ對シ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ノ金額ヲ賣渡請求者ヨリ追徵ス

第十七條　第九條、第十二條、第十五條及前條ノ追徵金ニ關シテハ國稅徵收法及國稅徵收法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第十八條　第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ解除ス

一　其ノ鹽ヲ以テ釀造シタル醬油全部ニ付査定ヲ受ケ殘存味噌ナキトキ又ハ殘存味噌ニ對スル追徵金ヲ納付シタルトキ

二　其ノ鹽ノ全部ヲ漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタルトキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徵金ヲ納付シタルトキ

第十九條　一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

三　第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用シタルトキ

生引溜醬油釀造用以外ノ用途　百斤ニ付金一圓三十錢

鹽

生引溜醬油釀造用　一石ニ付金七十三錢

第二十二條　第十九條第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セントスル者ハ中請書ニ溜醤油醸造用以外ノ用途ニ使用スル場合ニ於テハ醸使用証明書及醤油査定証明書ヲ添附シ之ヲ使用地所轄鹽務局ニ提出スヘシ

第一條第二號及第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ鹽専売証明書ヲ以テ前項ノ鹽使用証明書ニ代フルコトヲ得

第二十三條　前條ノ鹽使用証明書又ハ醤油査定証明書ノ交付ヲ請求セントスル者ハ鹽使用又ハ醤油査定ノ際中請書ヲ使用地所轄鹽務局又ハ税務署ニ提出スヘシ

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ交付金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

一　外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽魚類ニ付テハ輸出後溜醤油醸造ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後溜醤油査定後六箇月ヲ經過シテ出願シタルトキ

二　外國ニ輸出スル鹽又ハ鹽魚類ニ付テハ一回ノ輸出量千斤未滿、第一條第一號及第五號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ一回ノ使用量五百斤未滿鹽鮭、鹽鱒、鹽鰤、鹽鯖、鹽鰯、鹽漬鹽肴類ニ付テハ一回ノ検査數量千斤未滿ナルモノニ關シテ出願シタルトキ

○

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月九日

陸軍大臣寺内正毅

勅令第二百十五號（官報十月十日）

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第八條第四號中「砲兵上等工長」ヲ「砲兵上等工長、工兵上等工長」ニ改ム

第十八條第三項中「下士以上」ヲ「准士官以上及下士以下」ニ改ム

第六表中「砲兵上等工長」ノ次ニ「工兵上等工長」ヲ加フ

第九表中賄料ノ區畫ヲ左ノ如ク改ム

賄料		
等級	金額	
甲	十一錢四厘	
乙	八錢四厘	
丙	八錢一厘	
丁	七錢五厘	
戊	六錢九厘	

第二十三表中鐵道大隊ノ月額ヲ九十三圓ニ改ム

第二十六表中鐵道大隊ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鐵道大隊	三十二圓五十錢六厘	二圓四十七錢二厘	十九圓六十五錢	

第二十七表中鐵道隊ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鐵道隊	五錢二厘	四厘	三錢三厘	一錢三厘	一厘	八厘

附則

明治三十七年勅令第七十六號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十七年四月二十六日勅令第七十六號ハ戰役中賄料増加ノ件ナリ

○

朕明治二十八年勅令第百四十號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛
陸軍大臣　寺内正毅

勅令第二百十六號（官報十月十日）

明治二十八年勅令第百四十號中「該傷痍疾病ノ爲メ恩給又ハ手當金ヲ受ケサル者ニ限リ」ヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百四十號（明治二十八年十月四日官報）

軍人軍屬ニシテ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ加療治癒ノ後三箇年以內ニ該傷痍疾病再發シタル者陸海軍病院（入院治療ヲ出願スルトキハ該傷痍疾病ノ爲メ恩給又ハ手當金ヲ受ケサル者ニ限リ特ニ許可スルコトヲ得其ノ入院中ノ費用ハ官給トス

其ノ出願ノトキ既ニ軍人軍屬ニアラスト雖前項ニ該當スル者亦同シ

○

朕海軍大學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百十七號（官報十月十日）

海軍大學校條例中左ノ通改正ス

第二十七條　當分ノ內本條例第十五條乃至第十七條ノ二ヲ適用シ海軍少佐又ハ海軍機關少監ニ各其ノ學生ヲ命スルコトヲ得

第二十八條ヲ刪ル

〔參照〕

勅令第三百二十六號海軍大學校條例（明治三十年九月二十四日官報）抄錄

第二十七條　現今在學ノ將校科學生ニハ第二十三條及第二十五條ヲ適用スルノ外凡テ從來ノ條例ヲ適用ス　但シ同條例第三條將校科學生ノ學年一箇年半ヲ一箇年ニ短縮スルコトヲ得

第二十八條　軍醫科教官及學生ニ關シテハ明治三十一年三月三十一日マテ從來ノ條例ヲ適用ス

○

朕在外國郵便及電信局官吏手當給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十二日

遞信大臣大浦兼武

勅令第二百十八號（官報十月十三日）

在外國郵便及電信局官吏手當給與規則中左ノ通改正ス

「在外國郵便局官吏」ヲ「在外國郵便局職員」ニ改ム

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

屬員ノ在勤手當ハ本邦人ニ限リ之ヲ給ス

別表中「官名」ヲ「職員」ニ改メ通信手ノ次ニ左ノ如ク加フ

屬員	三百圓以內	

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ戒嚴解止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
海軍大臣男爵山本權兵衛
陸軍大臣　寺内正毅

勅令第二百十九號

左ノ地域内ニ於ケル戒嚴ハ明治三十八年十月十六日限リ之ヲ解止ス

一　長崎縣長崎要塞地帶及之ニ關スル要塞地帶法第七條第二項ノ區域
一　長崎縣佐世保要塞地帶及之ニ關スル要塞地帶法第七條第二項ノ區域
一　長崎縣對馬島及其ノ沿海
一　北海道函館要塞地帶及之ニ關スル要塞地帶法第七條第二項ノ區域

○

朕海軍下士卒ノ有スル軍書軍狀有效期限延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百二十號（官報十月十八日）

現ニ海軍下士卒ノ有スル拳銃軍狀、拳銃軍狀、劍軍狀、拳能軍狀、砲術教員適任證書、水雷術教員適任證書、機關術教員適任證書ニシテ明治三十七年二月六日以前ニ授與シタルモノハ其ノ有效期限ヲ滿期ノ日ヨリ各二年六箇月延期ス

○

朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆國「ポーツマス」（「ニユー、ハムプシヤ」州）ニ於テ朕カ全權委員ト露西亞國全權委員ノ記名調印シタル講和條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十六日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ兩國及其ノ人民ニ平和ノ幸福ヲ回復セムコトヲ欲シ講和條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ外務大臣從三位勳一等男爵小村壽太郎閣下及亞米利加合衆國駐箚特命全權公使從三位勳一等高平小五郎閣下ヲ全露西亞國皇帝陛下ハ「プレンデント、オヴ、ゼ、コムミッチー、オヴ、ミニスターズ、オヴ、ゼ、エムパイア、オヴ、ロシア」「セクレタリー、オヴ、ステート」「セルジ、ウ非ッテ」閣下及亞米利加合衆國駐箚特命全權大使「マスター、オヴ、ゼ、イムピリアル、コールト、オヴ、ロシア」男爵「ローマン、ローゼン」閣下ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條

日本國皇帝陛下ト全露西亞國皇帝陛下トノ間及兩國並兩國臣民ノ間ニ將來平和及親睦アルヘシ

第二條

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承

認シ日本帝國政府カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約ス

韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同樣ニ待遇セラルヘク之ヲ換言スレハ最惠國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノト知ルヘシ

兩締約國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ソ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトニ同意ス

第三條

日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

一　本條約ニ附屬スル追加約款第一ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト

二　前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコト

露西亞帝國政府ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス

第四條

日本國及露西亞國ハ清國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニカリ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約ス

第五條

露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連竝其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財產權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第六條

露西亞帝國政府ハ長春(寬城子)旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線竝同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財產及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

第七條

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商工業ノ目的ニ限リ經營シ決シテ軍略ノ目的ヲ以テ之ヲ經營セサルコトヲ約ス

該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ

第八條

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ增進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

第九條

露西亞帝國政府ハ薩哈嗎島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼竝該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ本條約ニ附屬スル追加約款第二ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ

日本國及露西亞國ハ薩哈嗎島又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地內ニ堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第十條

日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動産ヲ買却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ該露西亞國臣民ニ於テ讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテ完全ニ其ノ職業ニ從事シ且財産權ヲ行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日本國ハ政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ前記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前記住民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第十一條

露西亞國ハ日本海「オホーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セムカ爲日本國ト協定ヲナスヘキコトヲ約ス

前項ノ約束ハ前記方面ニ於テ既ニ露西亞國又ハ外國ノ臣民ニ屬スル所ノ權利ニ影響ヲ及ササルコトニ雙方同意ス

第十二條

日露通商航海條約ハ戰爭ノ爲廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ現下ノ戰爭以前ニ效力ヲ有シタル條約ヲ基礎トシテ新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入稅及輸出稅、稅關手續、通過稅及噸稅竝一方ノ代辨者、臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル

第十三條

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其ノ委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後成ルヘク速ニ俘虜ノ捕獲又ハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ルマテ之カ保護給養ノ爲ニ各負擔シタル直接費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ成ルヘク速ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同樣ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

第十四條

本條約ハ日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘシ該批准ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約調印ノ日ヨリ五十日以內ニ東京駐箚佛蘭西國公使及聖彼得堡駐箚亞米利加合衆國大使ヲ經テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ニ各之ヲ通告スヘシ而シテ其ノ終ノ通告ノ

日ヨリ本條約ハ全部ヲ通シテ完全ノ效力ヲ生スヘシ正式ノ批准交換ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十五條

本條約ハ英吉利文及佛蘭西文ヲ以テ各二通ヲ作リ之ニ調印スヘシ其ノ各本文ハ全然符合スト雖モ其ノ解釋ニ差異アル場合ニハ佛蘭西文ニ據ルヘシ

右證據トシテ兩帝國全權委員ハ茲ニ本講和條約ニ記名調印スルモノナリ

明治三十八年九月五日即一千九百五年八月二十三日(九月五日)「ポーツマス」(「ニユー、ハムプシヤ」州)ニ於テ之ヲ作ル

小村壽太郎(記名)印
高平小五郎(記名)印
セルジ、ウ非ッテ(記名)印
ロー　ゼン(記名)印

○

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十八年九月五日亞米利加合衆國「ポーツマス」(「ニユー、ハムプシヤ」州)ニ於テ帝國全權委員及露國全權委員ノ記名調印シタル講和條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十五年明治三十八年十月十四日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　桂　太郎　印

本日附日本國及露西亞國間講和條約第三條及第九條ノ規定ニ從ヒ下名ノ全權委員ハ左ノ追加約款ヲ締結セリ

第一　第三條ニ付

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ同時ニ且講和條約ノ實施後直ニ滿洲ノ地域ヨリ各其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始スヘキコトヲ互ニ約ス而シテ講和條約實施ノ日ヨリ十八箇月ノ期間内ニ兩國ノ軍隊ハ遼東半島租借地以外ノ滿洲ヨリ全然撤退スヘシ

前面陣地ヲ占領スル兩國軍隊ハ最先ニ撤退スヘシ

兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス該守備兵ノ數ハ一「キロメートル」毎ニ十五名ヲ超過スルコトヲ得ス而シテ日本國及露西亞國軍司令官ハ前記最大數以内ニ於テ實際ノ必要ニ顧ミ之ニ使用セラルヘキ守備兵ノ數ヲ雙方ノ合意ヲ以テ成ルヘク少數ニ限定スヘシ

滿洲ニ於ケル日本國及露西亞國軍司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒ撤兵ノ細目ヲ協定シ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ十八箇月ヲ超ヘサル期間内ニ撤兵ヲ實行セムカ爲雙方ノ合意ヲ以テ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第二　第九條ニ付

兩締約國ニ於テ各任命スヘキ同數ノ人員ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約實施後成ルヘク速ニ薩哈嗹島ニ於ケル日本國及露西亞國領地間ノ正確ナル境界ヲ永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就キ劃定スヘシ該委員ハ地形ノ許ス限リ北緯五十度ヲ以テ境界線トナスコトヲ要ス若シ何レカノ地點ニ於

テ同糧度ヨリ偏倚スルソ必要ヲ認ムルトキハ他ノ地點ニ於ケル對當ノ偏倚ニ依リテ之ヲ填補スヘシ該委員ハ讓與中ニ包含セラルル附近島嶼ノ表及明細書ヲ調製スルノ任ニ當リ且讓與地域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ之ニ署名スヘシ該委員ノ事業ハ兩締約國ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

前記追加約款ハ其ノ附屬スル講和條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

明治三十八年九月五日即一千九百五年八月二十三日（九月五日）「ポーツマス」ニ於テ

小村壽太郎（記名）
高平小五郎（記名）
セルジ、ウヰッテ（記名）
ロー　ゼン（記名）

○

朕遞信省部內ノ官吏ニシテ戰時ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シ又ハ陸海軍特設ノ事務ニ從事シタル者ノ復歸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十八日

內閣總理大臣伯爵桂太郎
遞信大臣　大浦兼武

勅令第二百二十一號（官報十月十九日）

遞信省部內ノ官吏ニシテ戰時ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シ又ハ陸海軍特設ノ事務ニ從事シタル者其ノ所屬部局ニ復歸スル場合ニ於テ定員充實セルトキハ本令施行後一箇年ヲ限リ之ヲ定員外トシ其ノ俸給ハ豫算定額內ヨリ支給スルコトヲ得

○

朕戰用糧食品ヲ陸軍各部隊ノ賄料ニ換給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月十九日

陸軍大臣寺內正毅

勅令第二百二十二號（官報十月二十日）

今回ノ戰役ニ關シ準備シタル戰用糧食品ハ陸軍各部隊賄料ノ一部ニ換ヘ之ヲ給スルコトヲ得其ノ數額及支給ニ關シテハ陸軍大臣之ヲ定ム

○

朕關稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百二十三號（官報十月二十一日）

關稅法施行規則中左ノ通改正ス

第七十三條中「十時」ヲ「九時」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ土曜日ハ午後三時迄トス

附則

本令ハ明治三十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
勅令第三百十九號關稅法施行規則（明治三十二年六月三十日官報）抄錄
第七十三條　稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時迄トス

○
朕糧秣交換ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月二十日

大蔵大臣男爵曾禰荒助
陸軍大臣　寺内正毅

勅令第二百二十四號（官報十月二十一日）
今回ノ戰役ニ關シ陸軍ニ於テ準備シタル糧秣ヲ同種類ノ物件ト交換スル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得其ノ交換スヘキ物ノ種類、交換ノ割合及方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○
朕農會令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月二十七日

農商務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百二十五號（官報十月二十八日）

農會令

第一條　農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス
本令ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條　農會ハ法人トス
農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　市町村農會ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル但シ東京府農會ニ在リテハ小笠原島及伊豆七島ヲ除ク
特別ノ事由アルトキハ市町村農會ノ區域ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市農會ニ在リテハ地方長官、町村農會ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ但シ市ノ區域ノ一部ヲ加ヘテ町村農會ノ區域ト爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
市ト郡トノ區域ニ渉リテ市町村農會ノ區域ノ設定アリタルトキハ第一項郡農會ノ區域モ亦自ラ之ニ伴ヒ變更アリタルモノトス
北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ許可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第四條　市町村農會ハ其ノ區域內ニ於テ國及公共團體ヲ除クノ外耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域內ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域內ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一　設立者ノ數第四條ノ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ナルコト
二　其ノ區域內ニ於テ設立者ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第六條　郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ郡市總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第七條　農會成立シタルトキハ第四條ニ依リ當該農會ヲ組織スヘキ者ハ總テ其ノ農會ニ加入シタルモノト看做ス

第八條　農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱並北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ名稱

二　事業

三　事務所

四　役員ノ職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定

五　會議ニ關スル規定

六　會費ノ分賦收入ニ關スル規定

七　財產ニ關スル規定

八　處務及會計ニ關スル規定

九　會則ノ變更ニ關スル規定

十　解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十條　總會ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ其ノ農會ヲ組織スル農會ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

農會ノ代表者ハ一農會ニ付一名トス

農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ副代表者一名ヲ置クコトヲ得副代表者ハ代表者事故アルトキ之ヲ代理ス

第十一條　代表者及副代表者ハ總會ニ於テ役員中ヨリ之ヲ選擧ス但シ役員中ヨリ選擧スルコト能ハサル場合ニ於テハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ總會ヲ組織スル代表者中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

名譽會員中ヨリ選擧セラレタル役員ハ前項ノ代表者及副代表者タルコトヲ得ス

代表者及副代表者ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三箇年トス但シ補闕ノ爲選擧セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條　代表者及副代表者ハ其ノ任期滿了ノ場合ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十三條　總會ノ決議カ法令若ハ會則ニ違背シ、公益ヲ害シ又ハ事業ノ執行上不適當ナリト認ムルトキハ會長ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

第十四條　總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スル暇ナシト認ムルトキハ

會長ハ專決處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ

第十五條　總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ重要ノ事項ニ非サルモノハ會則ノ定ムル所ニ從ヒ會長ニ於テ書面ニ依リ會員又ハ代表者ノ意見ヲ徵シ總會ノ招集ニ代フルコトヲ得

第十六條　農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得名譽會員ハ議決權ヲ有セス

第十七條　農會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長　一名

副會長　一名

前項ノ外役員トシテ評議員及幹事ヲ置クコトヲ得

評議員及幹事ノ員數ハ會則ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ評議員ハ市町村農會ニ在リテハ七名、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ五名、幹事ハ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條　會長、副會長及評議員ハ市町村農會ニ在リテハ共ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選擧スヘシ但シ會長及副會長ハ名譽會員中ヨリ之ヲ選擧スルコトヲ妨ケス

幹事ハ市町村農會ニ在リテハ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス

第十九條　會長ハ會務ヲ總理シ農會ヲ代表ス

副會長ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ及會務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ掌ル

第二十條　農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

市町村農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

市町村ハ必要ト認ムルトキハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市町村農會ニ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十二條　農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算、財産目錄及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第二十四條　農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作リ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十五條　農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二十六條　行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ狀況若ハ書類ヲ檢査シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　農會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ

虞アリト認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消
二　役員ノ解職
三　事業ノ停止
四　解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ス

第二十八條　農會ニ於テ解散ヲ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條　行政區劃ノ變更アリタルトキハ農會ノ區域モ亦自ラ變更アリタルモノトス

農會ノ屬スル地方區域他ニ合併又ハ分割セラレタルトキハ其ノ農會ハ解散ス

第三十條　前條ノ場合ニ於テ新地方區域內ニ既設ノ農會存立セサルトキ舊農會ノ會員タリシ者並其ノ占有若ハ所有スル耕地及牧場ノ面積又ハ舊農會ヲ組織セシ農會ノ數第五條若ハ第六條ノ條件ニ該當スルトキハ直ニ新地方區域ニ依ル農會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ行政廳ニ於テ假ニ會則ヲ定メ假役員及假代表者ヲ選任シテ役員及代表者ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ニ依リ設立シタル農會ハ會則ヲ議決シ設立ノ時ヨリ二箇月以內ニ行政廳ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十一條　第三條第二項ノ場合ニ於テ郡長又ハ地方長官ノ許可ヲ經テ設立シタル農會ニシテ特別ノ事由消滅シタルトキハ郡長又ハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

農會ハ前項ノ取消ニ因リテ解散ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十三條　農會解散シタルトキハ會長及副會長其ノ清算人ト爲ル但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ノ決議ヲ以テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十四條　清算人ハ清算及財產處分ノ方法ヲ定メテ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十五條　行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算及財產處分方法ノ變更又ハ清算人ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ農會ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ行政廳ニ屆出ツヘシ

第三十七條　第八條、第九條第二項、第二十二條、第二十三條、第二十八條、第三十條第二項及第三項、第三十三條第二項、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス

附則

第三十八條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ既設ノ農會ニシテ第五條又ハ第六條ノ條件ヲ具備スルニ至ラサルモノニ關シテハ第七條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條　既設ノ農會ハ明治三十九年三月末日迄ニ本令ニ依リ總會ヲ開クヘシ其ノ總會ヲ開クニ至ル迄尙從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ總會ニ於テハ會則ノ變更ヲ議決シ其ノ議決シタル會則ニ依リ直ニ代表者、現ニ代表者ニシテ役員タル者ニ代ハルヘキ役員竝會則ニ於テ評議員及副代表者ヲ置キタルモノニ在リテハ評議員及副代表者ヲ選擧スヘシ

現ニ代表者タル者及代表者ニシテ役員タル者ノ任期ハ新任者ノ就職スル日迄トス

○

朕海事局職員ニ臨時在韓國帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十月三十一日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
外務大臣男爵小村壽太郎
遞信大臣　大浦兼武

勅令第二百二十六號（官報十一月一日）

遞信大臣ハ事務ノ必要ニ由リ海事局職員ニ臨時在韓國帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ臨時在韓國帝國領事館附ヲ命セラレタル職員ニハ明治三十五年勅令第百二十六號ヲ準用ス

○

朕收入印紙ヲ以テ手數料、罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用及非訟事件費用ヲ納メシムルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月一日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百二十七號（官報十一月二日）

政府ニ納ムヘキ手數料、罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ハ其ノ金額ニ相當

スル收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但シ收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手數料ノ種目ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則

明治二十四年勅令第二百四十五號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十四年十二月十七日勅令第二百四十五號ハ政府ニ納ムヘキ手數料ハ登記印紙ヲ以テスルヲ得ルノ件ナリ

○

朕明治三十八年九月五日後ニ拿捕シタル船舶及其ノ戰貨ノ釋放ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月一日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
海軍大臣男爵山本權兵衛
外務大臣男爵小村壽太郎

勅令第二百二十八號（官報十一月二日）

明治三十八年九月五日後ニ拿捕シタル船舶及其ノ戰貨ハ特典ヲ以テ直ニ之ヲ釋放ス

○

朕在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定方等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月六日

文部大臣久保田讓

勅令第二百二十九號（官報十一月七日）

第一條　在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於テ職員ト稱スルハ學校長、教員、舍監及書記トス

在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ訓導ヲ正教員、准訓導ヲ准教員トシ其ノ他ノ學校ニ在リテハ教諭、助教諭ヲ正教員、其ノ他ノ教員ヲ准教員トス

第二條　在外指定學校職員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終トス

第三條　左ニ掲クル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ

一　在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條各號ノ一ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數

二　恩給又ハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ在外指定學校職員ヲ兼ヌルトキハ其ノ兼職中ノ年數及月數

第四條　在外指定學校ノ廢止又ハ指定取消ノ際其ノ學校職員タル者卽日他ノ在外指定學校又ハ公立學校ノ職員ニ採用セラレタルトキハ勤續者ト看做ス

第五條　明治二十五年勅令第三十二號ハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月六日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎
文部大臣　久保田讓

勅令第二百三十號（官報十一月七日）

第一條　在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長
訓導
准訓導

前項以外ノ在外指定學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助教諭
舍監
書記

在外指定學校ニ於テ必要アルトキハ職員トシテ前二項ニ掲ケタルモノ以外ノ教員ヲ置クコトヲ得

第二條　居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ前條第二項ノ學校ノ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條　奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ外務大臣及文部大臣之ヲ奏薦シ内閣總理大臣之ヲ宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ所管領事官之ヲ專行ス

第四條　明治二十五年勅令第三十九號ハ文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニ關シ之ヲ準用ス

第五條　本令ニ規定スルモノノ外在外指定學校職員ノ懲戒其ノ他進退ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣之ヲ定ム但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○

朕臨時秩祿處分調査委員會規則及臨時秩祿處分調査局官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月七日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百三十一號（官報十一月八日）

臨時秩祿處分調査委員會規則及臨時秩祿處分調査局官制ハ明治三十八年十一月十日限リ之ヲ廢止ス

○

朕明治三十六年勅令第五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大臣男爵山本權兵衛

御名御璽

明治三十八年十一月十日

勅令第二百三十二號（官報十一月十一日）

明治三十六年勅令第五號中左ノ通改正ス

第一條中第一海軍區ノ部ヲ左ノ如ク改ム

第一海軍區　羽後陸奥國界ヨリ本土東海岸及同南海岸ニ沿ヒ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面、小笠原島及北海道ノ海岸海面並樺太島ノ海岸海面

〔參照〕

勅令第五號（明治三十六年一月二十二日官報）抄錄

第一條　帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ四海軍區トス其ノ區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區　羽後陸奥國界ヨリ本土東海岸及同南海岸ニ沿ヒ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面並北海道ノ海岸海面

○

朕臺灣總督府職員官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

内務大臣男爵清浦奎吾

御名御璽

明治三十八年十一月十三日

勅令第二百三十三號（官報十一月十四日）

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十九條中「參事官長一人勅任」ヲ削リ「局長ノ下「四人」ヲ「五人」ニ改ム

第二十一條　削除

〔參照〕

勅令第三百六十二號臺灣總督府官制（明治三十年十月二十一日官報）抄錄

第十九條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

參事官長　一人　勅任

局長　五人　勅任又ハ奏任

第二十一條　參事官長ハ總督及民政長官ヲ佐ケ總務局長ト共ニ及會議立案ニ關スル事務ヲ管理ス

○

朕臺灣總督府職員官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

内務大臣男爵清浦奎吾

御名御璽

明治三十八年十一月十三日

勅令第二百三十四號（官報十一月十四日）

臺灣總督府職員官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「參事官長」ヲ削ル

高等文官官等表中「參事官長」ヲ削ル

〔參照〕

勅令第二百八號臺灣總督府職員官等俸給令（明治三十四年十一月十一日官報）抄錄

第二條　臺灣總督ノ年俸ハ六千圓民政長官ノ年俸ハ四千圓又ハ四千五百圓參事官長、國道部技師長及勅任技師ノ年俸ハ三千圓又ハ三千五百圓勅任警視總長、勅任局長、勅任土地調査局長及勅任郵電局長ノ年俸ハ三千圓トス其ノ他ノ高等文官ノ俸給ハ別表高等文官俸給表ニ依ル但シ國道部技師長ハ年功ニ依リ四千圓ヲ給スルコトヲ得

○

朕臺灣總督府評議會章程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月十三日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
內務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百三十五號（官報十一月十四日）

臺灣總督府評議會章程中左ノ通改正ス

第一條中「參事官長」ヲ削ル

〔參照〕

明治二十九年三月三十一日勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程第一條ハ臺灣總督府評議會職員ノ件ナリ

○

朕臨時國債整理局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月十八日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎
大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百三十六號（官報十一月二十日）

臨時國債整理局官制

第一條　臨時國債整理局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ國債整理ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臨時國債整理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人　勅任
書記官　專任二人　奏任
屬　專任二十五人　判任

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ケ局內一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　書記官ハ局長ノ指揮ヲ受ケ局務ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則

大藏省理財局ニ於テ分掌スル國債ニ關スル事務ハ當分ノ內之ヲ臨時國債整理局ニ屬セシム

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月十八日

內閣總理大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百三十七號（官報十一月二十日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部「煙草專賣局長」ノ次ニ「臨時國債整理局長」ヲ、「煙草專賣局書記官」ノ次ニ「臨時國債整理局書記官」ヲ加フ

文武高等官官等表中大藏省ノ部二等ノ欄「煙草專賣局長」ノ次ニ「臨時國債整理局長」ヲ、三等乃至七等ノ欄「煙草專賣局書記官」ノ次ニ「臨時國債整理局書記官」ヲ加フ

高等文官官等相當俸給表中「煙草專賣局書記官」ノ次ニ「臨時國債整理局書記官」ヲ加フ

○

朕大藏省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月十八日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百三十八號（官報十一月二十日）

大藏省官制第九條中「二百二十四人」ヲ「二百十一人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百六十九號大藏省官制（明治三十一年十月二十二日）抄錄

第九條　大藏省專任屬ハ二百二十四人ヲ以テ定員トス

○

朕臨時國債整理委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月十八日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百三十九號（官報十一月二十日）

臨時國債整理委員會規則

第一條　大藏省ニ臨時國債整理委員會ヲ設ケ大藏大臣ノ監督ニ屬シ國債整理ニ關スル事項ヲ審議セシム

第二條　臨時國債整理委員會ハ委員長一人委員五人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　委員長ハ大藏大臣、委員ハ大藏次官、大藏省主計局長、大藏省理財局長、臨時國債整理局長及日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　臨時國債整理委員會ニ書記二人ヲ置キ臨時國債整理局屬ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

○

朕韓國ニ統監府及理事廳ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月二十二日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂太郎

勅令第二百四十號（官報十一月二十三日）

明治三十八年十一月十七日帝國政府ト韓國政府トノ間ニ締結シタル協約第三條ニ基キ統監府ヲ京城ニ、理事廳ヲ京城、仁川、釜山、元山、鎮南浦、木浦、馬山其ノ他須要ノ地ニ置キ該協約ニ依ル諸般ノ事務ヲ掌ラシム

附則

本令ニ依ル統監府ノ職務ハ從來ノ帝國公使館、理事廳ノ職務ハ從來ノ帝國領事館ヲシテ當分ノ內之ヲ執行セシム

○

朕國債整理ノ爲明治三十七年法律第一號及同三十八年法律第十二號ニ依リ公債ヲ募集スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月二十四日

內閣總理大臣伯爵桂太郎

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百四十一號（官報十一月二十五日）

第一條　政府ハ國債整理ノ爲明治三十七年法律第一號及同三十八年法律第十二號ニ依リ四分利付英貨公債五千萬磅ヲ發行ス

第二條　前條英貨公債五千萬磅ノ內二千五百萬磅ハ發行價格額面百磅ニ付九十磅ヲ以テ英國倫敦佛國巴里、北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ募集シ二千五百萬磅ハ明治三十七年五月及同年十一月英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集シタル六分利付英貨公債二千二百萬磅ノ引換又ハ償還ニ充用スル爲發行ス其ノ引換ノ方法及時期ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　前條六分利付英貨公債引換又ハ償還ニ充用スル爲發行スル公債ノ內引換餘剩高ハ現金ヲ以テ之ヲ募集ス募集ノ時期及發行價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　本公債ノ元金ハ明治六十四年一月一日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治五十四年一月一日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第五條　本公債ノ利子ハ每年一月一日及七月一日ニ於テ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第六條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ十磅、二十磅、百磅及二百磅ノ四種トス

英貨ト米貨、獨貨及佛貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙、獨貨二十麻四十五布トシ佛貨ハ英貨一磅ニ付最低率ヲ二十五法ト定メ仕拂期日ニ於ケル英佛兩國間ノ爲替相場ニ依ルモノトス

第七條　本公債ノ元金ハ明治三十八年十二月ヨリ同三十九年五月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月一日及同年七月一日ニ於テ各全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ明治三十八年勅令第二百五號及同年勅令第二百六號廢止ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月二十九日

内閣總理大臣兼外務大臣　伯爵桂　太郎
海軍大臣　男爵山本權兵衛
農商務大臣兼内務大臣　男爵清浦奎吾
大藏大臣　男爵曾禰荒助
陸軍大臣　寺内正毅
司法大臣　波多野敬直
遞信大臣　大浦兼武
文部大臣　久保田譲

勅令第二百四十二號

明治三十八年勅令第二百五號及同年勅令第二百六號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（參照）
明治三十八年九月勅令第二百五號ハ東京府内一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スル件同勅令第二百六號ハ新聞紙雜誌ノ取締ニ關スル件ナリ

○

朕大阪府及兵庫縣ニ臨時防疫職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十一月二十九日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎
内務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百四十三號（官報十一月三十日）

第一條　「ペスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲大阪府及兵庫縣ニ各臨時左ノ職員ヲ置キ之ヲ第四部ニ屬セシム

防疫事務官　三人　專任
檢疫醫　九十人
防疫書記　五人　專任
監吏　九十人

前項ノ外防疫事務ニ關シ意見ヲ開陳セシムル爲大阪府及兵庫縣ニ防疫評議員ヲ置クコトヲ得

第二條　防疫事務官及防疫評議員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條　檢疫醫、防疫書記及監吏ハ知事之ヲ命ス

第四條　官吏ニシテ第一條第一項ノ職員タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク其ノ官ニ在ラサル者ノ待遇ハ防疫事務官ニ在リテハ奏任、其ノ他ノ者ニ在リテハ判任トス

第五條　在職官吏ニシテ第一條ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ一箇年六百圓以内其ノ他ノ者ニハ一箇月二百五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ檢疫醫、專任防疫書記及雇吏ニ支給スヘキ手當ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ外交官及領事官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂太郎

勅令第二百四十四號（官報十二月二日）

外交官及領事官官制中左ノ通改正ス

第一條　外交官ハ特命全權大使、特命全權公使、大使館參事官、辨理公使、大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補トス

第二條　特命全權大使ハ親任トシ特命全權公使、大使館參事官及辨理公使ハ勅任トシ其ノ他ノ外交官ハ奏任トス

第七條中「公使館」ノ上ニ「大使館、」ヲ加フ

第八條　英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル大使館及公使館ニ大使館一等通譯官、大使館二等通譯官及公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ヲ置クコトヲ得

第九條中「公使館」ノ上ニ「大使館、」ヲ加フ

第十條第六項中「貿易事務官、」ノ下ニ「大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第二百八十號外交官及領事官制（明治三十二年六月二十日官報）抄錄

第一條　外交官ハ特命全權公使、辨理公使、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補トス

第二條　特命全權公使及辨理公使ハ勅任トシ公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及外交官補ハ奏任トス

第七條　公使館、領事館及貿易事務館ニ外務書記生ヲ置ク

外務書記生ハ判任トス

第八條　英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館ニ公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ヲ置クコトヲ得

公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ハ奏任トス

第九條　英吉利語、佛蘭西語及獨逸語以外ノ外國語ノ通譯ヲ要スル公使館、領事館及貿易事務館ニ外務通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス

第十條第六項

前各項ノ規定ハ貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ之ヲ適用ス

○

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日　　内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百四十五號（官報十二月二日）

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條中「特命全權公使」ノ下ニ「大使館參事官」ヲ「公使館一等書記官」ノ上ニ「大使館一等書記官」ノ上ニ「大使館一等通譯官」ノ上ニ「大使館二等通譯官」ヲ加フ

第二條中「貿易事務官」ノ下ニ「大使館一等通譯官、大使館二等通譯官」ヲ加フ

○

朕明治二十八年勅令第百五十號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日　　内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百四十六號（官報十二月二日）

明治二十八年勅令第百五十號中第二項ヲ左ノ如ク改ム

臨時增員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

特命全權公使、大使館參事官、辨理公使ハ通シテ二人

大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ四人

總領事、領事、貿易事務官、副領事ハ通シテ五人

外務書記生、外務通譯生ハ通シテ四人

〔參照〕

勅令第百五十號（明治二十八年十月三十日官報）抄錄

第二項

臨時增員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

特命全權公使、辨理公使、代理公使ハ通シテ二人

公使館一等書記官公使館二等書記官公使館三等書記官ハ通シテ四人
總領事一等領事二等領事貿易事務官ハ通シテ五人
外務書記生外務通譯生ハ通シテ四人

○

朕在外公館職員官等令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百四十七號（官報十二月二日）

在外公館職員官等令中左ノ通改正ス

第一條中官等表ヲ左ノ如ク改ム

親任	高等官一等	同二等	同三等	同四等	同五等	同六等	同七等
特命全權大使特命全權公使	大使館一等書記官 大使館參事官 公使館一等書記官	大使館二等書記官 公使館二等書記官 總領事 貿易事務官	大使館三等書記官 公使館三等書記官 領事 貿易事務官	大使館書記官 公使館書記官 副領事 貿易事務官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 通譯官 貿易事務官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 通譯官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 通譯官 外交官補 領事官補
辯理公使 總領事							

○

朕公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日

外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百四十八號（官報十二月二日）

公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス

「公使館領事館」及「公使館及領事館」ヲ「在外公館」ニ改ム

第二條中表ヲ左ノ如ク改ム

親任	高等官一等	同二等	同三等	同四等	同五等	同六等	同七等
特命全權大使 特命全權公使	大使館一等書記官 公使館一等書記官	大使館二等書記官 公使館二等書記官	大使館三等書記官 公使館三等書記官	大使館書記官 公使館書記官 副領事 貿易事務官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 貿易事務官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 貿易事務官 外交官補 領事官補	大使館書記官 公使館書記官 貿易事務官 外交官補 領事官補
大使館參事官 公使館參事官 辯理公使 總領事							
五千圓 三級三千五百圓	一級四千圓 二級三千圓	一級二千五百圓 二級二千二百圓	一級二千二百圓 二級二千圓 三級千八百圓	一級千八百圓 二級千六百圓 三級千四百圓	一級千四百圓 二級千二百圓 三級千圓	一級千圓 二級九百圓 三級八百圓 四級七百圓 五級六百圓	

第十條　外交官及領事官ニシテ第六條及第十二條第二項第三項ノ支給ヲ受クヘキ者ハ特命全權大使、特命全權公使、臨時代理大使、大使館參事官、辨理公使、臨時代理公使、大使館一等書記官、公使館一等書記官、領事、大使館二等書記官、公使館二等書記官、領事、大使館三等書記官、公使館三等書記官及副領事ニ限ル

第十二條中表ヲ左ノ如ク改ム

官名＼國名	第一欄	第二欄	第三欄
	新ニ水路ヨリ赴任スルトキ	轉勤、轉官ノトキ	歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ヲ許サレタル者 歸朝及歸任スルトキ
特命全權大使	歐米、濠洲、印度、露領亞細亞	歐米、濠洲、印度、露領亞細亞	歐米、濠洲、印度、露領亞細亞
特命全權公使	在勤俸年額ノ百分ノ十二	在勤俸年額ノ百分ノ八	在勤俸年額ノ百分ノ五
特命全權公使	在勤俸年額ノ百分ノ十六	同	同
大使館參事官	前	在勤俸年額ノ百分ノ十	在勤俸年額ノ百分ノ六
辨理公使	同	同	同
大使館一等書記官 公使館一等書記官	前	前	前
大使館一等書記官 公使館一等書記官	前	在勤俸年額ノ百分ノ十一	在勤俸年額ノ百分ノ八
總領事	同	同	同
大使館二等書記官 公使館二等書記官	前	前	前
領事	同	同	同
副領事	同	同	同
大使館三等書記官 公使館三等書記官	在勤俸年額ノ百分ノ十八	在勤俸年額ノ百分ノ十三	在勤俸年額ノ百分ノ十三
外交官補	同	同	同
領事官補	同	同	同
外務書記生	在勤俸年額ノ百分ノ二十	同	前

官名	第一欄	第二欄	第三欄
外交官補	同	前	前
領事官補	同	前	前
外務書記生	前	在勤俸年額ノ百分ノ十五	在勤俸年額ノ百分ノ十
外務書記生	同	在勤俸年額ノ百分ノ十	在勤俸年額ノ百分ノ八

第十四條ノ二　大使館參事官ニハ年額一萬二千圓以內ノ交際費ヲ給スルコトヲ得但シ臨時代理大使增俸ヲ受クルトキハ之ヲ給セス

第二十二條中「特命全權公使」ヲ「特命全權大使、特命全權公使、臨時代理大使、大使館參事官」ニ改ム

第二十三條中第一項ヲ左ノ如ク改ム

特命全權大使、特命全權公使、臨時代理大使、大使館參事官、辨理公使、臨時代理公使赴任、公用歸朝、賜暇歸朝又ハ兼任國其ノ他ヘ旅行スル場合ニ於テ現ニ從者ヲ隨伴スルトキハ特命全權大使ニハ從者二人、其ノ他ニハ一人ヲ限リ當該官吏ノ受クヘキ船車料ノ三分ノ一ヲ給ス

第二十四條中表ヲ左ノ如ク改ム

	甲 米	乙 歐、濠洲、阿弗利加	丙 亞細亞諸國
特命全權大使	四十圓	三十五圓	
特命全權公使			
臨時代理大使			
大使館參事官 辨理公使	二十八圓	二十五圓	十六圓
臨時代理公使			

大使館一等書記官
公使館一等書記官
總領事　十八圓十五圓十圓
大使館二等書記官
公使館二等書記官
領事　十四圓十二圓八圓
大使館三等書記官
公使館三等書記官
副領事　外交官補　領事官補　十圓
外務書記生　十二圓十圓六圓

別表第一號ヲ左ノ如ク改ム

別表第一號

外交官、外務書記生在勤俸

官名	任所	英米	佛獨伊	墨國	清韓	墨巴	瑞伯白西	瑞諾
特命全權大使		四五,000						
特命全權公使		四〇,000	四〇,000	四〇,000	四〇,000	四〇,000	四〇,000	四〇,000
臨時代理大使		三,000						
大使館參事官		一〇,000						
辨理公使								
臨時代理公使			一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000
大使館一等書記官 公使館一等書記官		七,000	七,000	六,000	六,000	六,000	六,000	六,000
大使館二等書記官 公使館二等書記官		五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00
大使館三等書記官 公使館三等書記官		四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00
外交官補		四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00
外務書記生		二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00
臨時代理大使		三,000						
大使館參事官		一〇,000						
辨理公使								
臨時代理公使			一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000	一〇,000
大使館一等書記官 公使館一等書記官		七,000	七,000	六,000	六,000	六,000	六,000	六,000
大使館二等書記官 公使館二等書記官		五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00	五,八00
大使館三等書記官 公使館三等書記官		四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00	四,五00
外交官補		四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00	四,八00
外務書記生		二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00	二,八00

第一條、第四條、第七條、第十五條、第十六條及第二十二條中「公使館書記生及領事館書記生」、第二十一條及第三十一條中「公使館書記生、領事館書記生」並第三十五條中「領事館書記生」ヲ「外務書記生」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百七十一號公使館領事館費用條例(明治二十六年十月三十一日官報)抄錄

第十條　外交官及領事官ニシテ第六條及第十二條第二項第三項ノ支給ヲ受クヘキ者ハ特命全權公使、辨理公使、臨時代理公使、公使館一等書記官、總領事、公使館二等書記官、領事、公使館三等書記官及副領事ニ限ル

第二十二條　外交官、領事官、公使館書記生及領事館書記生ノ要ニ對スル船車料ヲ給スルハ左ノ場合ニ限ル

一　赴任、公用歸朝及職務歸朝ノ際同伴スルトキ

二　同伴セサルモ任地ヘ往返スルトキ但第十二條第三項ノ場合ヲ除クノ外同一任地ニ係ルトキ往返各一回限リトス

三　兼任國駐任地及其ノ他ヘ出張スル場合ニ於テ同伴スルトキ但特命全權公使、辨理公使、臨時代理公使ヲ除クノ外ハ特ニ外務大臣ノ許可ヲ得タルトキニ限ル

第二十三條　特命全權公使辭職公使臨時代理公使赴任公用旅行朝鮮渡航若ハ兼任國及其ノ他（旅行スル場合ニ於テ現ニ總督ヲ隨伴スルトキハ從者一人ヲ限リ當該官吏ノ受クヘキ旅費料ノ三分ノ一ヲ給ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大使館通譯官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百四十九號（官報十二月二日）

大使館一等通譯官及大使館二等通譯官ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ關スル規定ヲ準用ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ領事官特別任用令及明治三十七年勅令第四十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日

内閣總理大臣兼外務大臣伯爵桂　太郎

勅令第二百五十號（官報十二月二日）

領事官特別任用令及明治三十七年勅令第四十二號中「公使館領事館又ハ貿易事務館」ヲ「在外公館」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百八十八號領事官特別任用令（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第一條　公使館書記生及領事館書記生ニシテ滿五年以上公使館領事館又ハ貿易事務館ニ勤務シ三級以上ノ俸給ヲ受タル者ハ外交官及領事官試驗委員ノ銓衡ヲ經テ副領事又ハ貿易事務官ニ任用スルコトヲ得

勅令第四十二號（明治三十七年二月二十日官報）

外務通譯生ニシテ滿二年以上公使館領事館又ハ貿易事務館ニ勤務シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ外務書記生ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ任用シタル外務書記生ノ在勤地ハ前官ノ任國内ニ限ル但シ其ノ在職滿一年以上ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

○

朕臺灣總督府監獄官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

内務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百五十一號（官報十二月七日）

臺灣總督府監獄官制中左ノ通改正ス

第十四條　各監獄ニ看守、教誨師及女監取締ヲ置キ判任官ノ待遇トス其ノ定員及職務ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

勅令第三百五十九號臺灣總督府監獄官制（明治三十三年九月八日官報）抄錄

第十四條　看守ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

明治三十二年三月二十二日官報　勅令第五十四號ハ臺灣總督府縣及廳看守定員ノ件ナリ

○

朕臺灣總督府監獄教誨師及女監取締俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月六日

内閣總理大臣伯爵桂　太郎

内務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百五十二號（官報　十二月七日）

臺灣總督府監獄教誨師及女監取締俸給令

第一條　臺灣總督府監獄教誨師及女監取締ノ月俸ハ別表ニ依ル

第二條　新ニ教誨師及女監取締ニ任用スル者ノ月俸ハ六級以下トス但シ前ニ教誨師又ハ女監取締ノ職ニ在リタル者ヲ教誨師又ハ女監取締ニ任用スルトキハ各前職ノ俸給額ヲ超エサル限度ニ於テ別表ニ依リ六級以上ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　教誨師又ハ女監取締ニシテ六級以上ノ月俸ヲ受クル者ハ一箇年ヲ經過スルニ非サレハ增給スルコトヲ得ス

第四條　俸給支給ニ關スル細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
教誨師	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓
女監取締	二十五圓	二十二圓	二十圓	十八圓	十六圓	十四圓	十二圓	十圓	九圓

○

朕海軍軍令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百五十三號（官報　十二月八日）

海軍軍令部條例中左ノ通改正ス

第八條中「公使館ニ公使館附」ヲ「大使館及公使館ニ大使館附及公使館附」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百九十號海軍軍令部條例（明治三十六年十二月二十八日官報）抄錄

第八條　在外帝國公使館ニ公使館附トシテ海軍將校ヲ置キ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ管セシム

○

朕海軍望樓條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月七日

勅令第二百五十四號（官報十二月八日）

海軍望樓條例

第一條　沿岸要所ニ海軍望樓ヲ置ク

第二條　望樓ハ其ノ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ノ所管トス但シ特殊ノ場合ニ於テハ海軍大臣臨時其ノ所管ヲ指定スルコトヲ得

第三條　望樓ハ海上見張及通信ヲ掌リ又氣象觀測ヲ行フ所トス但シ時宜ニ依リ其ノ一部ヲ行ハレメサルコトヲ得

第四條　望樓ニ望樓長ヲ置キ所管鎮守府望樓監督官若ハ要港部參謀長ニ隷シ其ノ望樓ノ事務ヲ掌理セシム

第五條　望樓ニ望樓手ヲ置キ望樓長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條　望樓長缺員中若ハ事故アルトキハ上席望樓手其ノ職務ヲ代理ス

第七條　戰時事變其ノ他必要ニ際シテハ海軍將校及准士官下士卒ヲ望樓ニ配員スルコトヲ得

○

朕鎮守府條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年十二月十一日

勅令第二百五十五號（官報十二月十二日）

鎮守府條例中左ノ通改正ス

第十條中「雜役船舟」ヲ「艀舟」ニ改ム

〔參照〕

勅令第百九十九號鎮守府條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第十條　前令長官ハ陛下ノ雜役船舟ニ乘員ヲ要スルトキハ陛下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

○

朕海軍修理工場條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年十二月十一日

勅令第二百五十六號（官報十二月十二日）

海軍修理工場條例中左ノ通改正ス

第一條中「及陸奥國大湊」ヲ削ル

第二條中「要港ニ在ルモノハ」及「大湊ニ在ルモノハ大湊水雷團ニ」ヲ削ル

第三條中「要港ニ在テハ」及「大湊ニ在テハ大湊水雷團長」ヲ削ル

第五條　要港部司令官ハ必要ニ應シ部下ノ職員ヲシテ當該修理工場ニ兼務セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

〔參照〕

勅令第百九十四號海軍修理工場條例（明治三十五年七月二十五日官報）抄錄

第一條　各要港及隣國大淡ニ海軍修理工場ヲ置ク

海軍修理工場ハ其ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍修理工場ハ要港ニ在ルモノハ當該要港部ニ大淡ニ在ルモノハ大淡水雷團ニ屬シ艦船兵器ノ小修理ヲ爲ス所トス

第三條　海軍修理工場ニ主管ヲ置ク

主管ハ要港ニ在テハ當該要港部司令官大淡ニ在テハ大淡水雷團長ノ命ヲ承ケ服務ス

○

朕要港部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百五十七號（官報十二月十二日）

要港部條例中左ノ通改正ス

第九條ノ三中「雜役船舟」ヲ「船舟」ニ改ム

第九條ノ五　司令官ハ教育訓練上必要ト認ムルトキハ部下ノ甲水雷艇ノ乘員ヲ臨時乙水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第二十五條中「置ク」ヲ「置キ又必要ニ應シ驅逐隊潛水艇隊ヲ附屬セシム」ニ改ム

第二十八條　要港部及水雷團所在地ノ外ニ於テ水雷敷設隊ヲ置クヘキ必要アル所ニハ附近要港部ヨリ之ヲ分置シ又ハ臨時之ヲ設置シ其ノ所在地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊ハ平時ニ在リテハ之ヲ所轄要港部中ニ置クコトヲ得

〔參照〕

勅令第二百六號要港部條例（明治三十三年五月十九日）抄錄

第九條ノ三　司令官ハ部下ノ雜役船舟ニ乘員ヲ要スルトキハ部下人員ニ臨時兼組ヲ命スルコトヲ得

第二十五條　要港部ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第二十八條　軍港要港ニ非ヲサル港灣ニシテ水雷防禦ヲ要スル所ニハ必要ニ應シ附近要港部ヨリ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テハ之ヲ所轄要港部中ニ置クコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ該港灣ノ防禦ハ要港部司令官之ヲ掌ル

○

朕海軍艦船條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百五十八號（官報十二月十二日）

海軍艦船條例中左ノ通改正ス

第三條　艦船ノ種別左ノ如シ

軍艦

驅逐艦

水雷艇

潛水艇

運送船
病院船
工作船
雜役船舟

第五條第二項及第二十七條中「主計」ヲ「主計官」ニ改ム

第六條中「所管」ヲ「所屬」ニ改ム

第六條ノ二　艦長ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ在ルトキ急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲兵力ヲ用フルヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜其ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事後速ニ海軍大臣及所屬長官ニ報告スヘシ

第三十三條ノ三　驅逐艦役務ニ服スルトキハ之ヲ在役驅逐艦ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備驅逐艦ト稱ス但シ製造中ノモノハ未成驅逐艦ト稱ス

第三十四條中「水雷艇」ノ下ニ「潛水艇」ヲ加フ

第三十五條　在役驅逐艦ニハ驅逐艦長及尉官ヲ置キ在役艇ニハ艇長及尉官ヲ置ク

在役驅逐艦及在役艇ニハ又必要ニ應シ機關士ヲ置ク

驅逐艦長、艇長ハ各直屬長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整頓シ艦艇ノ保安ニ任シ其ノ事務ヲ總理ス

尉官及機關士ハ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス

在役驅逐艦、在役艇ニハ前項ノ外海軍兵曹長同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第三十五條ノ二　豫備驅逐艦ハ通常軍港若ハ要港ニ繫留シ第二十五條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

未成驅逐艦ニハ必要ニ應シ第三十五條ニ掲クル諸員ヲ適宜ニ置クコトヲ得

第三十七條　運送船病院船工作船及雜役船舟ニハ艦艇ニ準シ適宜乘員ヲ置クコトヲ得但シ職時特設船舶ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十七條ノ二　臨時乘員ヲ置キタル艦船ニ在テハ乘組首席將校艦船一切ノ命令ヲ掌リ其ノ保安ニ任シ其ノ他ノ乘員ハ首席將校ノ命ヲ承ケ服務ス

〔參照〕

勅令第七十一號海軍艦船條例（明治二十九年三月三十日官報）抄錄

第三條　艦船ヲ左ノ四種ニ別ツ

第一種軍艦
第二種軍艦
水雷艇
雜役船舟

第一種軍艦トハ戰鬪ノ役務ニ堪フル軍艦ヲ謂フ

第二種軍艦トハ戰鬪ノ役務ニ堪ヘサルモ常務ヲ帶ヒ航行シ得ル軍艦ヲ謂フ

水雷艇トハ魚形水雷使用ノ主旨ニ從ヒ特種ノ構造ヲ有シ戰鬪ノ役務ニ堪フル艇ヲ謂フ

雜役船舟トハ軍艦水雷艇及之ニ附屬セル小蒸汽船端舟ヲ除クノ外總テ他ノ船舶舟艇ヲ謂フ

第六條　艦長ハ所管長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ艦ノ保安ニ任シ艦務ヲ總理ス

第三十四條　水雷艇役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艇ト稱シ其ノ他ハ之ヲ豫備艇ト稱ス但製造中ノモノハ未成艇ト稱ス

第三十五條　在役艇ニハ水雷團水雷艇隊ノ職員中艇長以下ヲ置ク其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ヲ適用ス但シ潛水艇ノ乘員及其ノ職務等ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム又水雷艇隊ニ編入セサル水雷艇ニ在リテハ水雷艇隊司令ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ

第三十七條　艦艇部等ニ附屬スル艦船ニ在テハ乘組先任將校艦船一切ノ命令ヲ掌リ其ノ保安ニ任シ其ノ他ノ乘員ハ先任將校ノ命ヲ承ケ服務ス

○

朕艦隊條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百五十九號（官報　十二月十二日）

艦隊條例中左ノ通改正ス

第二條中「必要ニ應シ」ノ下ニ「驅逐艦驅逐隊」ヲ加フ

第三十條及第三十一條ヲ削ル

（參照）

勅令第三百五十六號艦隊條例（明治三十年十月十四日官報）抄錄

第二條　艦隊ニハ必要ニ應シ水雷艇水雷艇隊潛水艇隊水雷敷設隊及運送船病院船工作船等ヲ附ス

第三十條　二隻以上ノ驅逐艦ヲ艦隊ニ編入スル場合ニ在テハ之ヲ以テ特ニ驅逐隊ヲ編制シ驅逐隊司令ヲ置クコトヲ得

前項ノ驅逐隊二隊以上ナルトキハ相互ノ區別ヲナス爲メ第一第二等ノ字ヲ冠シテ之ヲ區分ス

第三十一條　驅逐隊司令ハ司令長官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス

○

朕驅逐隊條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百六十號（官報　十二月十二日）

驅逐隊條例

第一條　鎮守府及要港部ニハ必要ニ應シ驅逐隊ヲ置ク

驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上ヲ以テ編制ス

第二條　驅逐隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ驅逐隊附トシテ將校同相當官及下士卒ヲ置クコトヲ得

第三條　司令ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ驅逐隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第四條　司令ハ第二條ニ掲クル職員ヲ部下ノ驅逐艦ニ分乘セシムルコトヲ得又教育訓練上必要ト認ムルトキハ部下ノ甲驅逐艦ノ乘員ヲ臨時乙驅逐艦ニ乘組マシムルコトヲ得

第五條　司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　司令ハ特ニ指定ヲ受ケタルトキノ外部下驅逐艦中ニ就キ自己ノ乘艦ヲ定ム

第七條　司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得

第八條　軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第九條　主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十條　第二條第二項ニ掲クル將校同相當官及下士卒ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條　艦隊其ノ他ニ驅逐隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及其ノ職務ニ關シテハ本令ヲ準用ス

○

朕潛水艇隊條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百六十一號（官報　十二月十二日）

潛水艇隊條例

第一條　鎮守府及要港部ニハ必要ニ應シ潛水艇隊ヲ置ク

潛水艇隊ハ潛水艇二隻以上ヲ以テ編制ス

第二條　潛水艇隊ニ左ノ職員ヲ置ク

司令

機關長

前項ノ外必要ニ應シ潛水艇隊附トシテ將校同相當官及下士卒ヲ置クコトヲ得

第三條　司令ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ潛水艇隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第四條　司令ハ第二條ニ掲クル職員ヲ部下ノ潛水艇ニ分乘セシムルコトヲ得又教育訓練上必要トシ

認ムルトキハ部下ノ甲潛水艇ノ乘員ヲ臨時乙潛水艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第五條　司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ艇長席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ特ニ代理者ヲ置キタル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條　司令ハ特ニ指定ヲ受ケタルトキノ外部下潛水艇中ニ就キ自己ノ乘艇ヲ定ム

第七條　司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得

第八條　機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌リ潛水艇乘組機關官ノ職務ヲ監督ス

第九條　第二條第二項ニ掲クル將校同相當官以下ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　潛水艇隊ニ編入中ノ潛水艇ニハ各別ニ海軍艦船條例第三十五條第三十六條ノ職員ヲ置カスシテ一隊ヲ通シ潛水艇隊職員トシテ之ヲ置クコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ司令其ノ配員ヲ掌ル

第十一條　艦隊其ノ他ニ潛水艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及其ノ職務ニ關シテハ本令ヲ適用ス

○

朕水雷團條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百六十二號

水雷團條例

第一條　各軍港ニ水雷團ヲ置ク

水雷團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　水雷團ハ當該鎮守府ニ屬シ水雷防禦ノ事ヲ掌ル

第三條　水雷團ニ本部、水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

水雷艇隊ハ水雷艇二艘以上ヲ以テ編制ス

第四條　水雷團ニ左ノ職員ヲ置ク

本部

團長

副官

機關長

軍醫長

主計長

水雷敷設隊

司令

分隊長

水雷艇隊

司令

前諸項ノ外必要ニ應シ本部ニ機關士軍醫及主計、水雷艇隊ニ將校同相當官ヲ置クコトヲ得

第五條　團長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ團務ヲ總理ス

第六條　團長ハ必要ニ應シ本部職員ヲ水雷敷設隊、水雷艇隊ニ配置シ又ハ水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第七條　團長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得

第八條　團長ハ教育訓練上必要ト認ムルトキハ部下ノ甲水雷艇ノ乘員ヲ臨時乙水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第九條　團長缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第十條　副官ハ團長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第十一條　機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條　本部附機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊、水雷艇隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條　本部附軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊、水雷艇隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ、水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第十六條　本部附主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ水雷敷設隊、水雷艇隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ、水雷艇ニ乘組ムトキハ其ノ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　水雷敷設隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷敷設隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第十八條　水雷敷設隊司令缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第十九條　分隊長ハ水雷敷設隊司令ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ防備ヲ整頓シ且教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條　水雷艇隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷艇隊ヲ指揮シ部下ヲ監督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第二十一條　水雷艇隊司令缺員中又ハ事故アルトキハ部下艇長席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第二十二條　水雷艇隊附將校同相當官ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十三條　水雷艇隊司令乘ル所ノ水雷艇ヲ司令艇ト稱ス

第二十四條　水雷團ニハ第四條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十五條　水雷艇隊ニ編入中ノ水雷艇ニハ各別ニ海軍艦船條例第三十五條第三十六條ノ職員ヲ置カスシテ一隊ヲ通シ水雷艇隊職員トシテ之ヲ置クコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ司令其ノ配員ヲ掌ル

第二十六條　要港部及水雷團所在地ノ外ニ於テ水雷敷設隊ヲ置クヘキ必要アル所ニハ附近水雷團ヨリ之ヲ分置シ又ハ臨時之ヲ設置シ其ノ所在地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊ハ平時ニ在リテハ之ヲ其ノ所轄水雷團中ニ置クコトヲ得

第二十七條　前條ノ水雷敷設隊ニハ第四條第三項及第二十四條ニ掲クル職員ノ外必要ニ應シ機關士、軍醫、主計ヲ置キ司令ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十八條　艦隊其ノ他ニ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ隊ノ任務並職員及其ノ職務ニ關シテハ本條例ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ水雷團長ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ

○

朕陸奥國下北郡大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

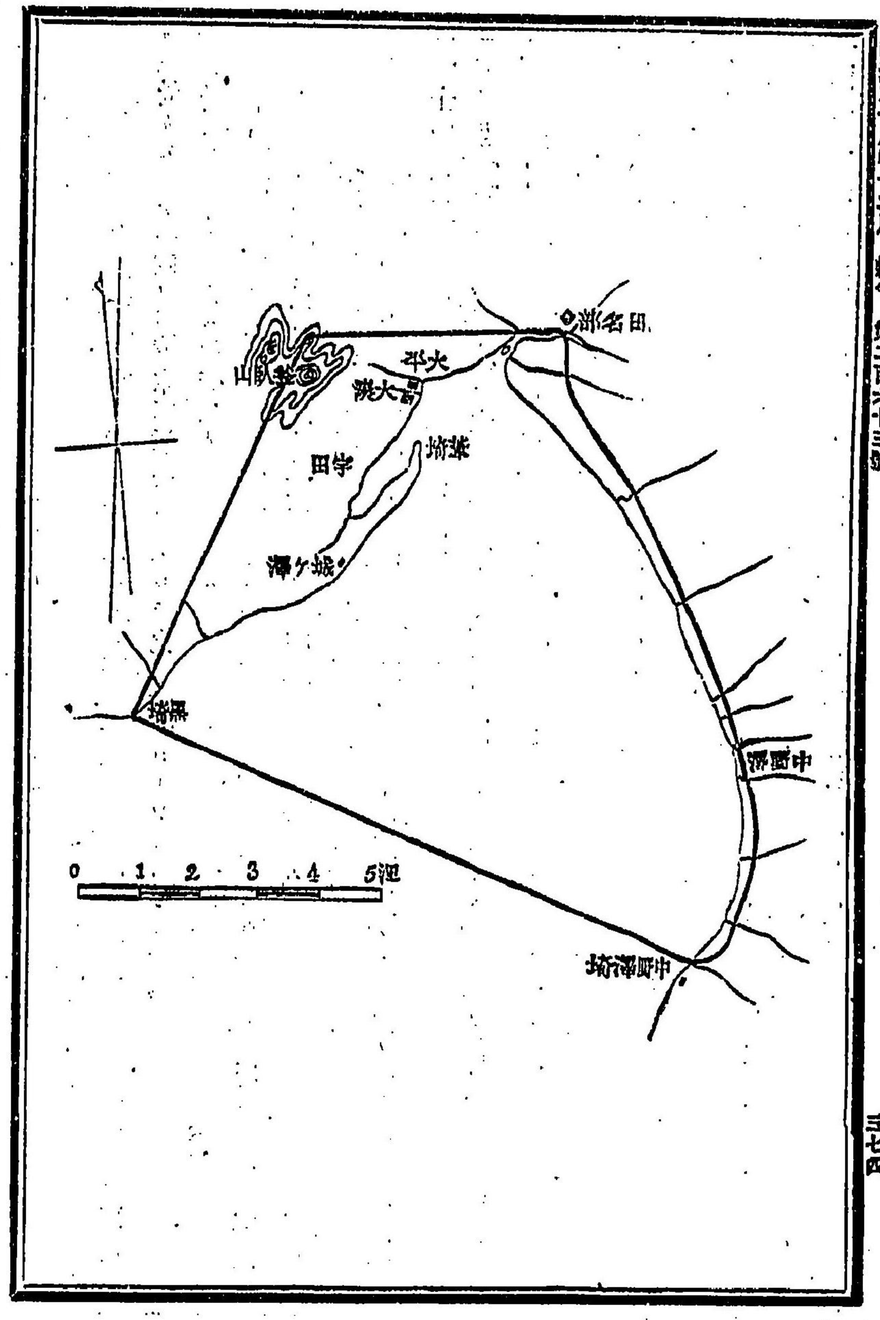
御名御璽

明治三十八年十二月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

勅令第二百六十三號（官報十二月十二日）

陸奥國下北郡大湊ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム



○

朕明治三十七年勅令第四十號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十二日

内閣總理大臣伯爵桂太郎
内務大臣男爵清浦奎吾

勅令第二百六十四號（官報十二月十三日）

明治三十七年勅令第四十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十七年二月十五日官報勅令第四十號ハ鹿児島縣對馬島嚴藤記技手臨時增置ノ件ナリ

○

朕牛馬ノ賣買及貸渡ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十二日

農商務大臣男爵清浦奎吾
大蔵大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百六十五號（官報十二月十三日）

農商務省ニ於テ牛馬改良ノ爲牛馬ノ賣買及貸渡ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○

朕醫藥用、工業用酒精戻稅規則第二條ニ依ル酒精使用證明書下付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十八年十二月十三日

大藏大臣男爵曾禰荒助

勅令第二百六十六號（官報十二月十四日）

醫藥用、工業用酒精戻稅規則第二條ノ酒精使用證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ醫藥用、工業用酒精戻稅法施行規則ヲ準用ス

○

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ統監府及理事廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

內閣總理大臣
兼外務大臣伯爵桂太郎

陸軍大臣寺內正毅

明治三十八年十二月二十日

勅令第二百六十七號（官報號外十二月二十一日）

統監府及理事廳官制

第一條　韓國京城ニ統監府ヲ置ク

第二條　統監府ニ統監ヲ置ク

統監ハ親任トス

統監ハ天皇ニ直隸シ外交ニ關シテハ外務大臣ニ由リ內閣總理大臣ヲ經其ノ他ノ事務ニ關シテハ內閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及制可ヲ受ク

第三條　統監ハ韓國ニ於テ帝國政府ヲ代表シ帝國駐箚外國代表者ヲ經由スルモノヲ除クノ外韓國ニ駐ケル外國領事館及外國人ニ關スル事務ヲ統轄シ併セテ韓國ノ施政事務ニシテ外國人ニ關係アルモノヲ監督ス

統監ハ條約ニ基キ韓國ニ於テ帝國官憲及公署ノ施行スヘキ諸般ノ政務ヲ監督シ其ノ他從來帝國官憲ニ屬シタル一切ノ監督事務ヲ施行ス

第四條　統監ハ韓國ノ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ韓國守備軍ノ司令官ニ對シ兵力ノ使用ヲ命スルコトヲ得

第五條　韓國ノ施政事務ニシテ條約ニ基ク義務ノ履行ノ爲必要ナルモノハ統監ニ於テ韓國政府ニ移牒シテ其ノ執行ヲ求ムヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ韓國當該地方官憲ニ移牒シ之ヲ執行セシメ後之ヲ韓國政府ニ通報スヘシ

第六條　統監ハ帝國官吏其ノ他ノ者ニシテ韓國政府ノ傭聘ニ係ルモノヲ監督ス

第七條　統監ハ統監府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以內ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第八條　統監ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ條約若ハ法令ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得